

令和5年度 愛媛県久万高原町及び高知県津野町における
四国カルストを核としたサステナブルな観光コンテンツ造成事業

業務実施報告書

令和6年3月

国土交通省 四国運輸局

目次

I. 事業概要

1. 事業概要	3
1-1. 事業の目的	5
1-2. 事業対象地域	5
1-3. 背景	6
1-4. 事業の方向性と目標	6
2. 事業の流れと実施業務	9
2-1. 作業工程	9
2-2. 事業の実施フロー	9
3. 実施体制	11

II. 業務内容

1. 事前調査	15
1-1. 基礎調査	17
1-2. JSTS-Dに関する調査の活用	54
1-3. 設定ターゲットの検証	57
2. 四国カルストを核とした観光振興の観点のサステナブルな観光コンテンツの造成	59
2-1. 観光資源の選定	61
2-2. 観光コンテンツの企画・開発	62
2-3. 意識醸成セミナーの実施	64
2-4. モニターツアーの実施	75
2-5. 観光コンテンツの磨き上げ	128
3. 持続的な仕組みの検討	131
3-1. 商品完成度と販売体制（プロダクトレディ）の状況	133
3-2. 来年度以降のロードマップの作成	134
4. 報告会の実施	137
4-1. 全体フロー	139
4-2. 開始時会議	140
4-3. 中間報告会①	149
4-4. 中間報告会②	155
4-5. ロードマップ会議	162
4-6. 最終報告会	163

5. 本事業の成果	167
5-1. 定量・定性成果	169
5-2. JSTS-Dへの準拠	171
5-3. 総括	176

別冊

添付1. 販売ツール（コンテンツタリフ）

添付2. サステナブルツール（ルールブック）



I. 事業概要

1. 事業概要

1-1. 事業の目的

ポスト・コロナ時代を見据え、オーバーツーリズム対策や観光資源の保全をはじめとした持続可能な観光地経営が求められており、併せて訪日外国人旅行者がサステナブルな観光を体験できるニーズが高まっていることから、主に以下の2点を目的として「愛媛県久万高原町及び高知県津野町における四国カルストを核としたサステナブルな観光コンテンツ造成事業」を実施した。

- ① 本事業対象地域における豊かな自然、特徴ある観光資源の保護・保全を、観光振興を通じて実施することを長期的な目的として見据え、欧米豪を中心にサステナブルな観光への関心が高い層をターゲットとし、かつ地域で総合的にJSTS-Dに準拠した四国カルストを核とした観光振興の観点のサステナブルな観光コンテンツを造成し、磨き上げること
- ② 事業対象地域全体の持続性への寄与、自然や伝統文化資源の継承等の推進を意識しつつ、観光コンテンツの継続的な販売・管理体制を構築すること

1-2. 事業対象地域

本事業の対象エリアは、以下のとおり。

- 愛媛県久万高原町
- 高知県津野町

《四国カルスト》

四国カルストとは、東西約25kmにおよぶカルスト台地で、日本三大カルストの一つ。愛媛県の久万高原町、内子町、西予市、並びに高知県の津野町、橋原町の1市4町にまたがる。

《対象地域の特性》

本事業対象地域では、四国カルストを共通の観光資源としており、キャニオニング、ハイキング、サイクリング等、その豊かな自然を利活用し、自然環境の保護・保全を意識した様々なアドベンチャーアクティビティが提供されている。

《対象地域の主な観光資源》

自然	上述の四国カルストのほか、西日本最高峰の石鎚山、一級河川の仁淀川・四万十川の源流等
産業	良質な杉、ヒノキ等の森林資源を活かした林業、高地栽培が可能な米、トマト等の高原野菜やブランド化されたほうじ茶等の農業
文化・伝統	山間地域で継承される神楽、四国遍路に関わる信仰文化や暮らし



1-3. 背景

● 昨年度事業から続く、持続可能な観光地開発への取り組み

本事業対象地域においては、昨年度、「四国カルストと豊かな自然を軸とした、2町連携による持続可能な観光地域経営の土台づくり」を基本コンセプトに掲げ、「連携」に重点を置きながら日本版持続可能な観光ガイドライン（以下、「JSTS-D」と記載）に準拠した観光地経営の現状把握及び課題抽出にかかる調査事業を実施した。当該事業では、四国カルストを共有する愛媛県西予市、内子町、高知県梺原町といった他自治体等を含めた広域連携も前提として課題の抽出やアクションプランの検討を重ねた結果、関係者間の連携に対する意識が醸成された。これにより、中長期目標であるグローバル基準での持続可能な観光地域の実現に向けた第1ステージ（下図参照）に立つことができた。

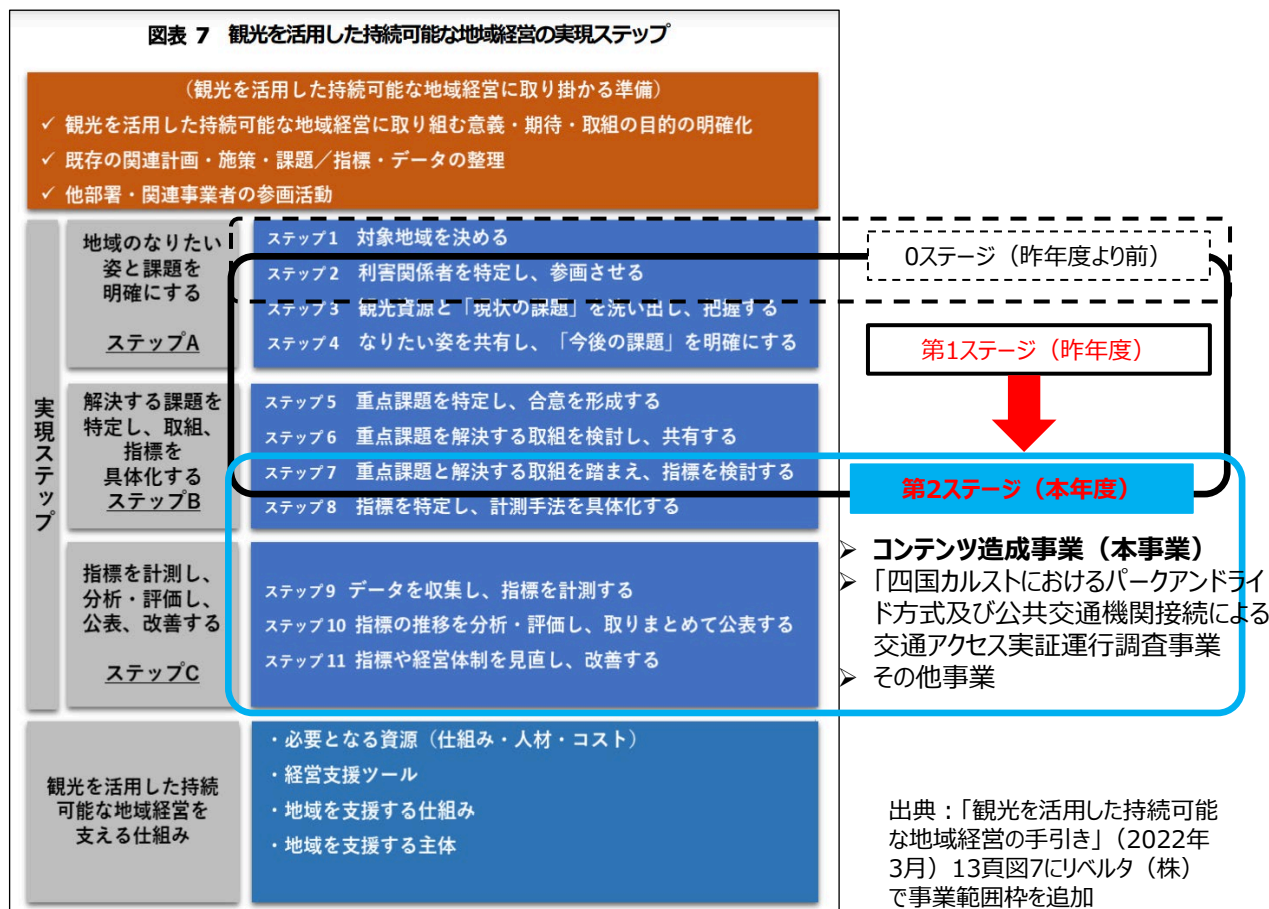
この第1ステージは、インバウンドや遠方からの誘客においては特に、自治体の境界ではなくエリアとしての destinations 価値が問われるため、こうした連携意識の醸成は次に繋がる大きなポイントとなる。

しかし、上述の取り組みの一方で、昨今の高いレベルの持続可能な観光コンテンツを求めている外国人ニーズに見合ったJSTS-Dに沿った持続可能な観光コンテンツの造成には至らなかったため、本事業にて観光コンテンツの造成を行うこととなった。

1-4. 事業の方向性・目標

1-4-1. 事業の方向性

前述の背景から、本事業は四国カルストを核としたグローバル基準での持続可能な観光地域経営の実現に向けた「第2ステージ」におけるアクションプランの一つと位置付け、以下の指標を設定した。



さらに、昨年度事業において各地域で抽出された以下の重点課題についても引き続き、コンテンツ造成の観点から検討することとした。

a. 久万高原町	b. 津野町
①オーバーツーリズム、観光マナーやルール作り	①閑散期の対策
②消費に繋がられるようなコンテンツの造成	②食と連動したコンテンツ造成と人材育成

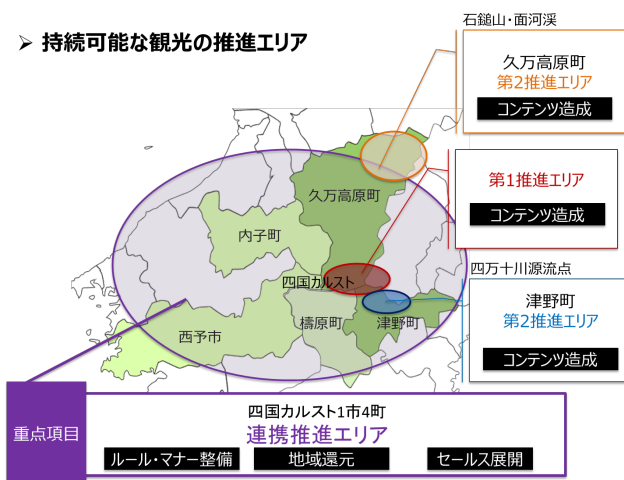
なお、a-①のオーバーツーリズムは、コロナ禍にキャンパー等が自家用車で四国カルストに来訪したことに起因する。このような二次交通に関連するエリア共通の問題については、他事業とも連携しながら各業務を進めることが重要であると考え、その一つである本年度同地域で実施された「四国カルストにおけるパークアンドライド方式及び公共交通機関接続による交通アクセス実証運行調査事業」の方向性や進捗状況にも十分配慮しながら事業の運営に努めた。

《持続可能な推進エリア》

自治体の境界にかかわらず四国カルストというエリア全体で周遊可能となるように、今年度コンテンツを造成する対象事業地域と、昨年度に連携がより強固となった周辺エリアとで、以下のゾーニングを定義した。

今後造成されたコンテンツを含むツアールートを検討する際に、重点項目として以下の3つを連携推進エリアとも検討・共有していく方向とする。

- ルール・マナー整備
- 地域還元の仕組み
- セールス展開方法



エリア区分	地域	内容
第1推進エリア	事業対象地域の四国カルストエリア	コンテンツ造成
第2推進エリア	(事業対象地域) 愛媛県久万高原町：石鎚山・面河溪 高知県津野町：四万十川源流域	コンテンツ造成
連携推進エリア	愛媛県西予市、内子町 高知県橋原町	ルール・マナー整備 地域還元の仕組み セールス展開

1-4-1. 事業の目標

本事業における長期目標と各業務の定量成果目標を以下に示す。

四国カルストを核としたサステナブルな観光地域経営の実現に向けた第2ステージ

項目	定量成果
(1) 事前調査	
ニーズ調査(欧米豪市場の旅行会社へのヒアリング)	1社以上
現地調査(観光資源の視察、ヒアリング)	30件以上
現地調査(2泊3日想定)	2回
(2) サステナブルな観光コンテンツの造成	
コンテンツ造成数(本事業KPI)	5件以上
うち、食に関するコンテンツ	1件以上
うち、冬季シーズンのコンテンツ	1件以上
モニターツアーの実施(2泊3日想定)	1回
サステナブルな観光の意識醸成セミナーにおける講義	2講義(2名)以上
サステナブルな観光の意識醸成セミナーにおけるコンテンツ体験	2コンテンツ以上
サステナブルな観光の意識醸成セミナー参加者数	20名以上
専門家の招請数	3名
サステナブルツール作成	1件
販売用ツール作成	5本以上
(3) 持続可能な仕組みの検討	
ロードマップの作成	1本(2町共通)
(4) 事業全体の運営管理	
報告会の実施	4回
その他、弊社提案	
JSTS-Dに関連するアセスメントレポートの更新	各2回(2町)
JSTS-D指標における効果測定	各1回(2町)

四国カルストを核としたサステナブルな観光地域経営の実現に向けた第3ステージへ

長期目標

グローバル基準での観光地域経営の実現

2. 事業の流れと実施業務

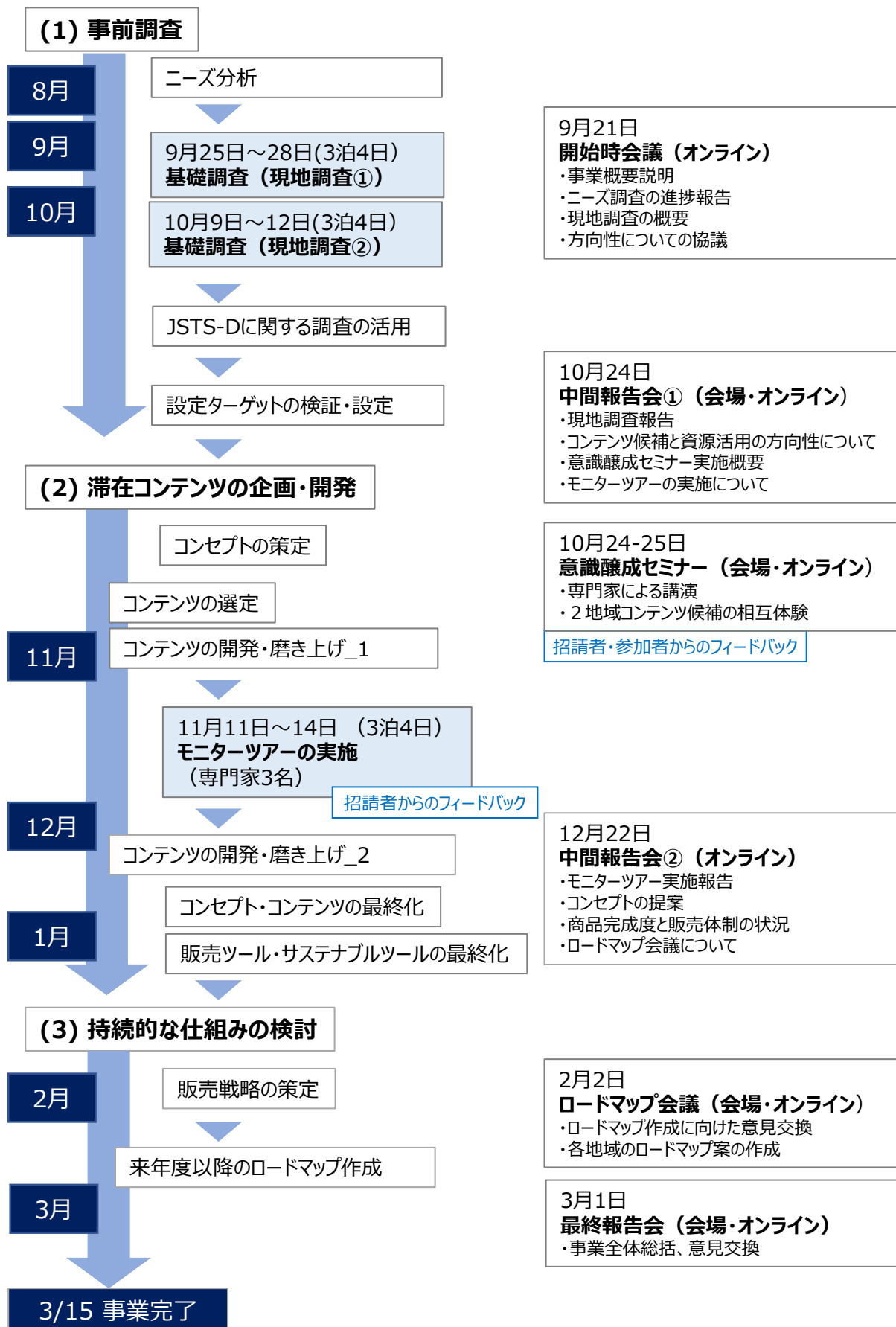
2-1. 作業工程

本事業は以下のスケジュールで実施した。

令和5年度									
(1) 事前調査	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①基礎調査			ニース調査（情報収集・ヒアリング等） ニース分析 現地調査① 現地調査②						
②JSTS-Dに関する調査の活用			情報収集・ヒアリング等 現況・課題等の取りまとめ						
③設定ターゲットの検証			情報収集・ヒアリング等 ターゲット設定						
【実施方法・場所】									
								現地	
								オンライン	
(2) サステナブルな観光コンテンツの造成	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①観光資源の選定			意見収集・選定						
②観光コンテンツの企画・開発			コンテンツ企画・開発 販売ツール・サステナブルツール作成						
③モニターツアーの実施			モニターツアー手配 セミナー・コンテンツ体験						
									モニターツアー・意見交換会
④観光コンテンツの磨き上げ									コンテンツの最終化 販売ツール・サステナブルツール作成の最終化
(3) 持続的な仕組みの検討	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①来年度以降のロードマップの作成									ロードマップ会議 ロードマップ（案） ロードマップ
(4) 事業全体の運営管理	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開始時会議、報告会、報告書等			キックオフ（四国運輸局・津野町・リベルタ） キックオフ（四国運輸局・久万高原町・リベルタ） 8/30契約開始	詳細計画書 開始時会議 中間報告書①（案）		中間報告書②（案） 中間報告会②		最終報告書（案） 最終報告書 最終報告会	3/15契約完了

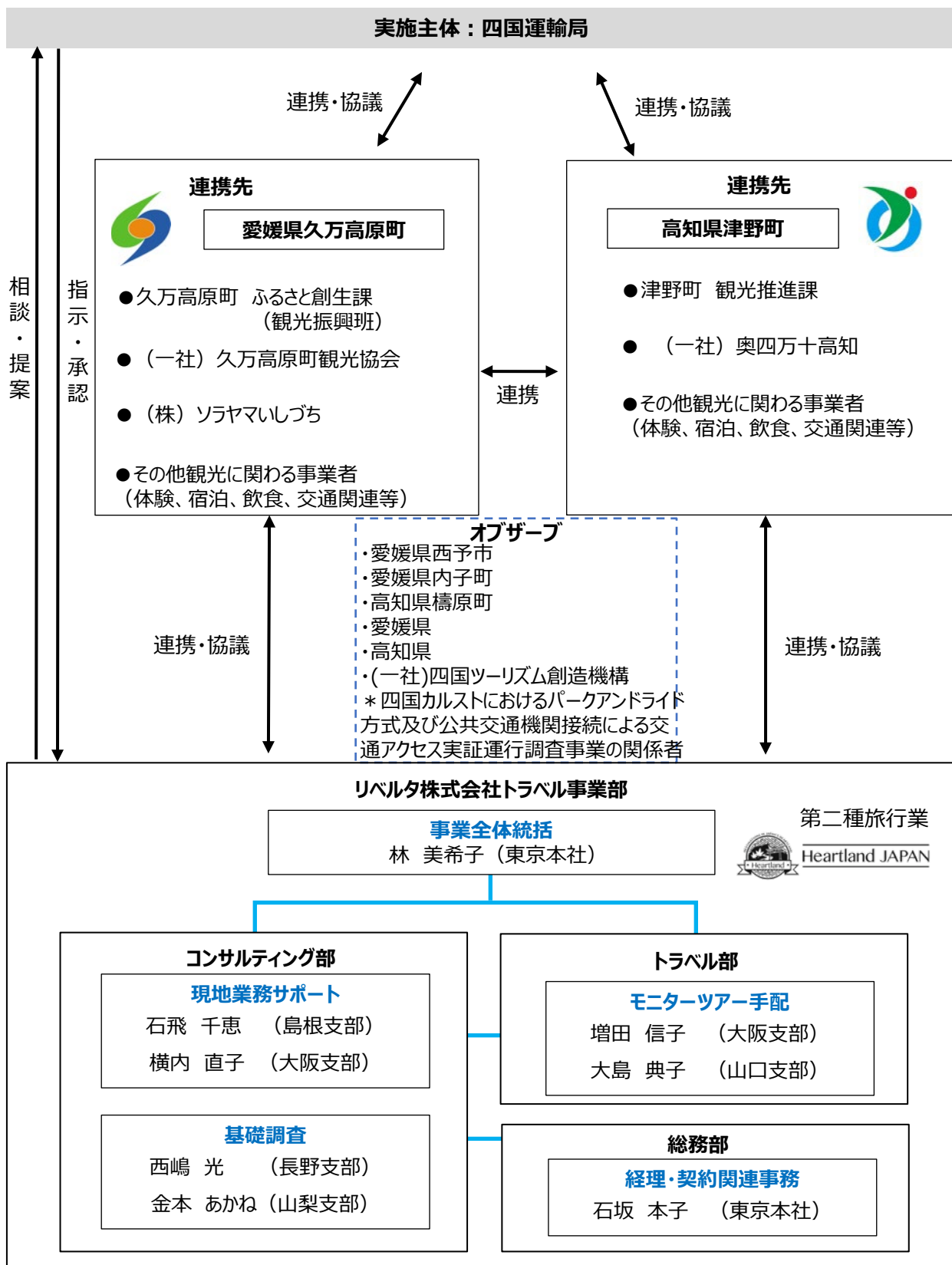
2-2.事業実施フロー

本事業は、以下の流れで各業務を行った。



3. 実施体制

以下の協力体制のもと本事業を実施した。





Ⅱ.業務内容

1. 事前調査

1-1. 基礎調査

1-1-1. 市場調査

1-1-2. 現地調査

1-1-3. 基礎調査まとめ

1-2. JSTS-Dに関する調査の活用

1-2-1. 前年度調査結果の整理

1-2-2. 重要指標の抽出・設定

1-3. 設定ターゲットの検証

1-3-1. 事業対象地域のインバウンド層

1-3-2. 本事業の想定ターゲット

1-1. 基礎調査

1-1-1. 市場調査

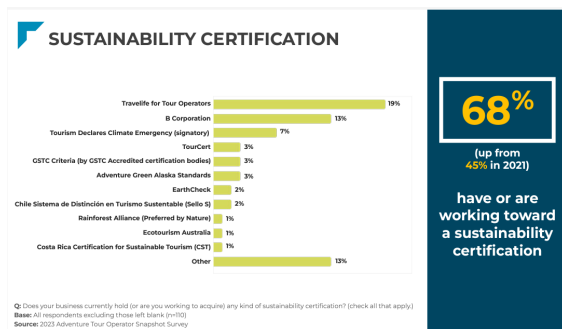
1-1-1-1. 欧米豪の市場動向

国連世界観光機関（UNWTO）のサイトでは、コロナが収束した2022年は「より環境に優しく、よりスマートで、より包括的なセクターを目指すUNWTOのビジョンを世界各国が実際の行動に移した」年であると総括されている。（出典： <https://www.unwto.org/unwto-2022-a-year-review>、原文：“Countries around the world turned UNWTO’s vision for a greener, smarter and more inclusive sector into real action.”）

具体的に欧米豪市場にどのような傾向が見られるのか、サステナブルな観光と親和性が非常に高いアドベンチャートラベル（アクティビティ・自然・文化体験の3要素のうち、2つ以上で構成される旅行）業界とその顧客層の動向をまとめた「2023 Adventure Travel Industry SNAPSHOT（注1）」からデータを収集し、世界全体の傾向を分析した。

（注1）米国拠点のアドベンチャートラベル協会によるアドベンチャートラベル業界の顧客分析報告書。加盟する旅行会社から得られたアンケートの回答結果から分析がまとめられている。なお、加盟する旅行会社は、北米と欧州が半分以上。

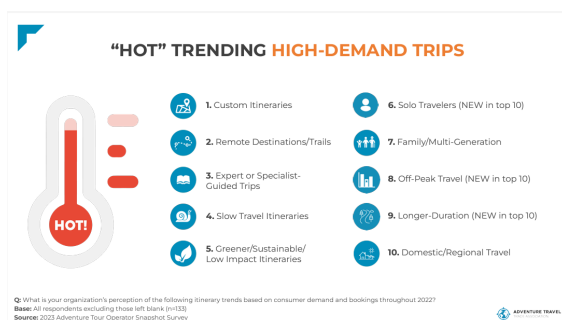
● 2023 Adventure Travel Industry SNAPSHOTより抜粋



サステナブルな観光への意識向上

旅行会社がサステナブルツーリズムに関する何らかの認証を得た旅行会社は昨年度の45%から68%に増加。

→顧客のサステナブルに関する意識の高まりを反映している。



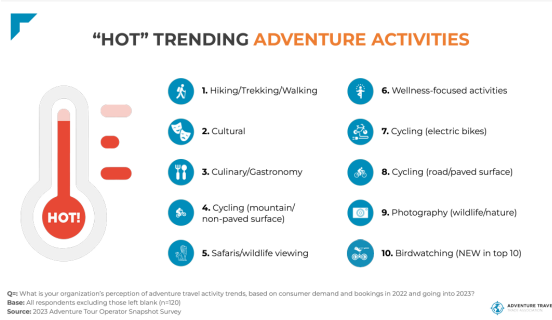
顧客からのリクエストが高い旅行ランキング（抜粋）

- 1位：カスタムメイドの行程
- 2位：辺境の地、トレイル
- 3位：ガイド付専門旅行
- 5位：環境負荷の少ない行程
- 9位：長期滞在



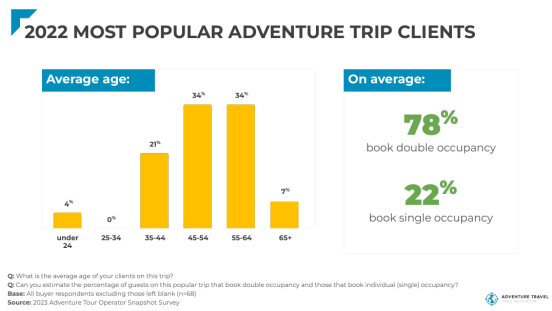
顧客の旅行動機ランキング（抜粋）

- 1位：新たな体験をしたい
- 2位：あまり人が行かない所へ行きたい
- 3位：暮らすように旅したい
- 4位：文化的な出会いを求めている
- 9位：デジタルデトックスがしたい



人気アクティビティランキング（抜粋）

- 1位：ハイキング、トレッキング、ウォーキング
- 2位：文化的なアクティビティ
- 4位：マウンテンバイクを使ったオフロード・サイクリング
- 6位：ウェルビーイングを重視するアクティビティ
- 7位：電動自転車のサイクリング
- 8位：ロードバイクのサイクリング



年齢層

40代～60代半ばが全体の約7割を占める。
ミレニウム世代は非常に少ない。



1回の旅行代金と泊数（中央値）

- ・3,000米ドル
- ・8泊



1回の旅行代金のうち、

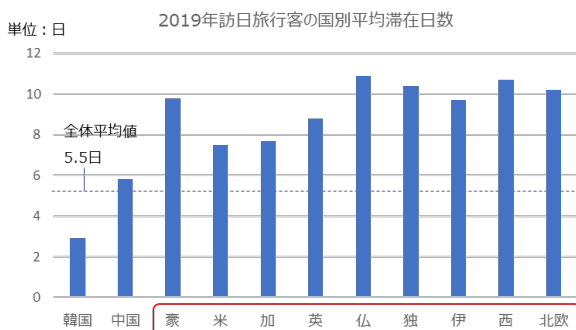
76% (= 2280米ドル) が現地消費
プラス189米ドルお土産購入費

欧米豪市場の全体的な傾向

- サステナブルな観光への意識の高まり
- 自然や人とのつながりを重視した深い体験の需要
- ある程度の高所得を有する中高年層による長期滞在、現地消費

1-1-1-2. 欧米豪訪日観光客の市場動向

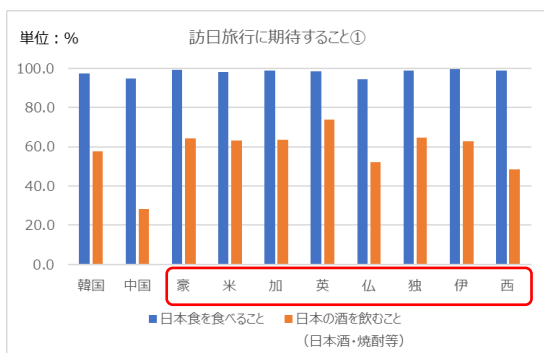
観光庁の「訪日旅行データハンドブック2023年」のデータを利用して、訪日外国人数がそれぞれ1位と2位の中国と韓国を東アジア（日本と文化背景が類似する国）の代表サンプルとして、欧米豪からの訪日観光客に関する以下の項目について比較を行い、欧米豪市場の特徴を分析した。



滞在日数

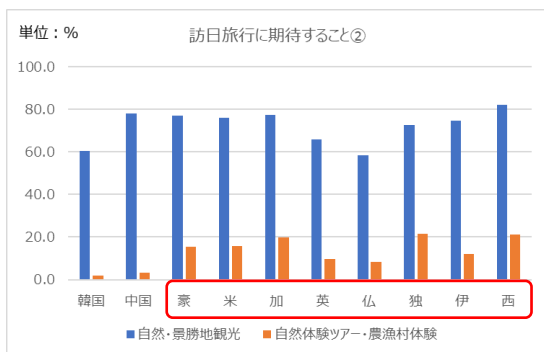
欧米豪からの訪日観光客は、平均滞在日数が1週間以上となっており、東アジアからの訪日客と比べて長いことがわかる。これは、前述した欧米豪市場全体の傾向とも合致する。

なお、2020～2022年の滞在日数データはコロナ防疫措置の影響があるため、2019年のデータを利用した。

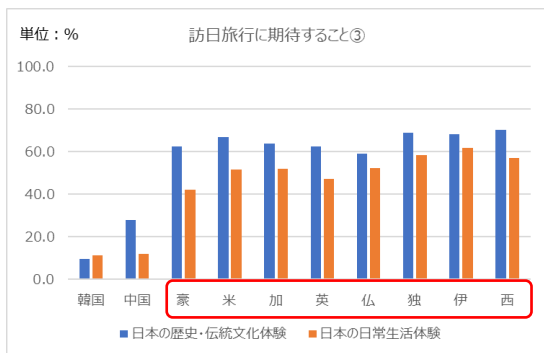


訪日旅行に期待すること

観光目的で来日した観光客がどのようなことに期待をしているか、食・自然・歴史文化・日常に関する国別のアンケート結果（該当数/回答者数の割合）を上述の東アジアの2カ国と比較し、グラフ化したものを左に示す。なお、データは出典文書で国別で示される「訪日旅行に関する期待内容」のうち、「今回の訪日旅行中」の最新年データを抽出した。



酒に関する期待値は国によって若干ばらつきがあるものの、食に関する期待がどの国においても非常に高いことがわかる。一方、自然に関わる体験については、欧米豪各国のばらつきを考慮するにしても、東アジア2カ国と比較して、より多く関心があることが読み取れる。



日本の歴史・伝統文化や日常生活体験については、東アジア2カ国は回答者の10%程度であるのに対し、欧米豪の各国は40～60%の回答者が期待項目に該当すると回答している。これは、新たな体験を旅行に求める顧客層にとって、文化背景が大きく異なる国の方が伝統・文化や日常の暮らしに惹きつけられる結果であると考えられる。

欧米豪からの訪日観光客に関する傾向

- 平均滞在日数は1週間以上
- 自然や日本の伝統・文化、日常の暮らしへの関心が高い

1-1-1-3. サステナブルな観光コンテンツ・ツアーに関するニーズ

前項にて、欧米豪の市場を中心として、世界的にサステナブルな観光に対する意識が高まっていることを述べた。本項では、Booking.comが個人旅行者を対象に毎年実施している、サステナブルな観光に関する意識調査の2023年版データ（SUSTAINABLE TRAVEL REPORT 2023）を抽出・分析する。

（出典： <https://globalnews.booking.com/download/31767dc7-3d6a-4108-9900-ab5d11e0a808/booking.com-sustainable-travel-report2023.pdf>）

《Booking.comによるサステナブルな観光に関する意識調査》

調査時期：2023年2月

調査方法：オンラインアンケート

回答数：33,228

（欧米豪16、アジア11、中南米4、中東2、アフリカ2の計35カ国）

回答者条件：18歳以上で過去1年以内に1回以上の海外旅行を経験し、
2023年に旅行を主体的に計画している個人



質問内容（和訳）		「はい」の回答率
「サステナブルな行動」の緊急性を感じている		74%（2022年66%）
「サステナブルな行動」は旅行の時も重要だと思う		80%
予算内で、サステナブルを重視した旅行する方法を知りたい		47%
サステナブルを重視した旅行商品があれば選びたい		43%
エコフレンドリーな商品を選んだ際に割引や特典があるとよい		49%（2022年12%）
予約サイトに割引や特典があると持続可能な旅行が選ばれやすくなると思う		42%
サステナブルな観光商品のラインアップがもっとあるとよい		74%（2022年66%）
より多くのサステナブルな観光商品を探す方法がわからない		44%
例1	その地域を代表する文化をリアルに体験できる商品を探している	75%
例2	地域に還元できるツアーやコンテンツのを見つけ方がわからない	40%
旅行で使うお金を地域に還元したい		69%
訪れた場所を、到着したときよりも良い状態で後にしたい		66%
自然環境を保護することは、より持続可能な旅行形態だと思う		65%
地域経済を活性化させるコンテンツやツアーは、より持続可能な旅行形態だ		43%
泊まった宿泊施設にサステナブル関連の認証があったとわかれば、罪悪感が薄まる		65%

サステナブルな観光コンテンツ・ツアーに関するニーズの傾向

- 訪れることで、訪問先の経済活性や自然保護につなげたい
- サステナブルな観光商品の情報を知りたい
- より多くの人がサステナブルな観光商品を選べるようなインセンティブがあるとよい

1-1-1-4. 旅行会社へのヒアリング調査

前項のデータに加え、より具体的かつリアルな現状を把握するため、2023年9月10～14日に北海道で開催されたATWS（アドベンチャートラベルの国際商談会）等で海外の旅行会社に対するヒアリング調査を実施した。ヒアリングを行った旅行会社とその国名を下表に示す、また、ヒアリングを通して多く聞かれた概要を次頁に示す。

海外の旅行会社に対するヒアリング調査実施リスト

No.	会社名	本社所在地	ヒアリング区分
1	Pacific Northwest Journeys	米国	2023 ATWS
2	58 Stars Travel	米国	2023 ATWS
3	Adventure Life	米国	2023 ATWS
4	Whole Journeys	米国	2023 ATWS
5	ExplorerX	米国	2023 ATWS
6	Traverse Journeys	米国	2023 ATWS
7	Off The Map Adventures	カナダ	2023 ATWS
8	Intrepid Travel	カナダ	2023 ATWS
9	10Adventures Tours	カナダ	2023 ATWS
10	Encounters Travel	カナダ	2023 ATWS
11	Finisterra Travel Ltd.	カナダ	2023 ATWS
12	The Natural Travel Collection	英国	2023 ATWS
13	WHOA TRAVEL	英国	2023 ATWS
14	KE Adventure Travel	英国	2023 ATWS
15	Much Better Adventures	英国	2023 ATWS
16	Nomade Aventure	フランス	2023 ATWS
17	RAW Travel	オーストラリア	2023 ATWS
18	ASI Reisen	オーストラリア	2023 ATWS
19	Tokyo Way	日本	2023 ATWS
20	EXO Adventure	日本	2023 ATWS
21	Beauty of Japan	日本	その他ヒアリング※
22	BCT-Touristik	ドイツ	その他ヒアリング※
23	Links Travel	英国	その他ヒアリング※

※「そのほかヒアリング」はリベルタ（株）のセールス時等にヒアリングを行った。

1-1-1-4. 旅行会社へのヒアリング調査（続き）

海外の旅行会社およびメディアから数多く聞かれたキーワード

- **Responsibility** : 旅行者の責任
- **Contribution** : 来訪地への貢献
- **Off-the-beaten-track** : 人里離れた、ひと気のない

●Responsibility 旅行者の責任

「旅行者の責任」とは、サステナブルツーリズムにおいて重要な項目の一つである。その地域に入る旅行者がどのような責任を果たすべきか、どのようなマナーを守るべきか、といった情報を提供して欲しいという声が数多く聞かれた。

●Contribution 来訪地への貢献

ツアーに参加することで具体的にどのような貢献ができるかという質問も多く聞かれた。海外の旅行会社にとっては、購入するツアーに顧客が参加することで、どのように地元へ経済効果が生まれるのか、あるいはそのツアーはそのような効果が生まれるように設計されているのか、といったところに関心があるようであった。

●Off-the-beaten-track 人里離れた、ひと気のない

トレイルや宿泊施設に混雑があっても欧米の旅行者は嫌がる傾向があるという。ゴールデンルートでのオーバーツーリズムを避けることはもちろん、都市部から離れたエリアであっても、こうした混雑状況が避けられることが望ましいというコメントがあった。また、1人でも歩けるようなトレイルについても関心が高かった。

1-1-1-5. 市場調査まとめ

1-1-1-1～1-1-1-4項までの欧米豪市場の動向から、本事業対象地域がサステナブルな観光に関心のある層に訴求できると考えられる事項を以下のようにまとめた。

UNWTO【注1】が定義するサステナブル観光

訪問客、産業、環境、受け入れ地域の需要に適合しつつ、現在と未来の環境、社会文化、経済への影響に十分配慮した観光

サステナブルな観光に対するニーズ

- サステナブルなコンテンツ・ツアーの商品ラインアップ
- 自然保護、地域貢献、本物の体験、知らない土地
- 日本の伝統文化・日常の暮らしへの関心

事業対象地域が訴求しやすい要素

- 自然の中のアクティビティ（サイクリング、ウォーキング）
- 農泊
- ローカル食
- 昔ながらの信仰文化・暮らし

上記の観点から、後述する現地調査（9月および10月に実施）の調査結果やJSTS-D指標の整理および設定と合わせて、ターゲット検証とコンテンツの造成にこれらの調査結果を活用した。

【注1】2024年1月に世界観光機関は略称をUNWTOからUN Tourismに変更しているが、本報告書では旧名称にて表記している。

1-1-2. 現地調査

1-1-2-1. 現地調査の流れ

現地調査を行うにあたり、昨年度事業「愛媛県久万高原町及び高知県津野町における日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)に準拠した観光地経営の現状・課題調査事業」にて抽出された観光資源や、新たな観光コンテンツとなり得る資源について対象自治体にヒアリングを行い、下記手順で持続可能な観光コンテンツの造成に向けた現地調査を実施した。

①コンテンツ候補となり得る資源のリスト化



事業対象自治体や関係者のヒアリングを通して、持続可能な観光コンテンツ化が見込める資源をリストアップし、現地調査の視察対象を選定した。

②コンテンツ候補の選定とコンテンツ案の検討



2回の現地調査を通して、コンテンツ候補となる資源に関連する観光関連機関や地域住民に対し、調査目的、調査内容の説明をした上でヒアリングを行った。また、観光コンテンツとした場合の実現性等を関係者と協議した。

さらに、既存コンテンツを体験し、新たな価値を付加したコンテンツ造成に向けての情報収集およびコンテンツ案の検討を行った。

③コンテンツの選定とコンテンツ内容の策定

本事業で造成するコンテンツを選定し、のちに実施する実地セミナーやモニターツアーで検証する内容を策定した。

コンテンツ候補リスト、並びに現地調査の詳細を次項より示す。

1-1-2-2. 観光資源リスト（視察先の選定）

現地調査に先立ち、久万高原町ならびに津野町へ資源のリスト化を依頼し、観光資源の視察候補を抽出した。なお、抽出にあたっては、昨年度の愛媛県久万高原町及び高知県津野町における日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)に準拠した観光地経営の現状・課題調査事業で候補に挙げられた観光資源や、各自治体の現状や方向性を踏まえた上で視察先を選定し、久万高原町で5候補、津野町で6候補、合わせて11候補の観光資源を視察した。

コンテンツ候補として選定された資源を下表に示す。

No.	エリア	観光資源候補	関係者・施設名等	調査内容
1	共通： 四国カルスト (久万高原町)	E-bike、キックボードの活用	久万高原町観光協会 ゆすはら雲の上観光協会 カルストテラス 姫鶴荘	・ガイドの育成状況、レンタル運用体制 ・四国カルストでの既存観光ツールの体験
2	共通： 四国カルスト (津野町)	天文台・プラネタリウム	星ふるヴィレッジTENGU (四国カルスト県立自然公園内)	・資源の概要把握 ・悪天候時および冬のコンテンツとしての実現性
3	共通： 四国カルスト (津野町)	セラピーロード、キャンプ場	星ふるヴィレッジTENGU (四国カルスト県立自然公園内)	・資源の概要把握
4	久万高原町	遍路体験	四国霊場第44番札所 大寶寺 四国霊場第45番札所 岩屋寺 ソラヤマいしづち	・お遍路体験のコンテンツ化の実現性
5	久万高原町	久万高原町産の野菜を活用したヴィーガン食	道の駅みかわ	・ヴィーガン食提供の実現性
6	久万高原町	農泊体験	農林業体験民宿てっぺん	・共同調理や収穫体験等とおした、久万高原野菜を活用した食コンテンツとしての可能性
7	久万高原町	石鎚山登山	土小屋terrace 石鎚神社 石鎚神社頂上山荘 ソラヤマいしづち	・既存コンテンツの体験 ・天狗、山岳信仰（修験）とからめた新たなコンテンツ化の可能性
8	津野町	お茶活体験	遊山四万十 せいらの里	・お茶畑での体験、お茶を使った食などの、食コンテンツとしての可能性
9	津野町	津野山古式神楽	津野山古式神楽保存会 河内五社神社 諏訪神社	・地域の無形文化財継承の取り組みについて、練習の見学や地域住民の方々との交流を軸としたコンテンツ化の可能性
10	津野町	貝の川棚田	貝の川棚田保存会	・保全活動を組み込んだ体験としてのコンテンツ化の可能性
11	津野町	ジップライン体験 (四国カルスト県立自然公園内)	フォレストアドベンチャー・高知	・既存コンテンツの体験 ・森林資源管理等、サステナブルな観点でのコンテンツ化、並びに冬のコンテンツとしての実現性

1-1-2-3. 1回目現地調査

(1)調査目的

久万高原町と津野町の2町を対象に、選定されたコンテンツ候補の現状把握や課題抽出、コンテンツ造成の実現可能性の検討を目的とした現地調査を実施した。

(2)調査概要

第1回目の現地調査は下記の通り実施した。

- 日時 : 令和5年9月25日(月)～28日(木)の3泊4日
 - 実施方法: 現地訪問による視察及び関係者ヒアリング
 - 同行者(*) : 久万高原町ならびに津野町役場の担当者、四国運輸局、リベルタ(株)
- *現地調査の同行者詳細については次項参照。

(3)調査の参加・同行者

現地調査の同行者は下記の通りであった。

	区分	氏名	所属	役職
1	久万高原町	岡 誠也	久万高原町 ふるさと創生課 観光振興班	班長
2	久万高原町	矢野 豪	久万高原町観光協会	事務局次長
3	津野町	大崎 陽子	津野町 観光推進課	課長
4	津野町	川田 明男	津野町 観光推進課	課長補佐
5	津野町	高橋 芙柚音	津野町 観光推進課	
6	事業実施主体	青井 孝憲	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 課長補佐
7	事業実施主体	武市 琉来	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 係員
8	受託事業者	林 美希子	リベルタ 株式会社	執行役員
9	受託事業者	石飛 千恵	リベルタ 株式会社	トラベルコンサルタント
10	受託事業者	横内 直子	リベルタ 株式会社	トラベルコンサルタント

(4) 現地調査の行程

前項の観光資源リストをもとに、以下の行程で第1回目の現地調査を実施した。

日程	行程	時間		内容
		入	出	
9月25日 (月)	津野町	12:30	---	松山空港着後 移動開始
		16:00	17:30	津野町古式神楽保存会 ヒアリング
		---	---	【宿泊】リベルタ (津野町内)
9月26日 (火)	津野町	---	---	セラピーロード一部踏査
		10:30	12:00	フォレストアドベンチャー・高知 ヒアリング
		12:30	13:45	昼食：遊山四万十 せいらの里、ヒアリング
		14:00	16:00	貝の川棚田保存会ワークショップ (高知県立大学) 参加
		19:30	20:30	津野町古式神楽保存会 練習会見学
		---	---	【宿泊】四国運輸局_須崎市内
		---	---	【宿泊】リベルタ_橋原町内 (民宿 友禅)
9月27日 (水)	久万高原 町	9:00	---	ゆすはら雲の上観光協会にて受付、移動開始
		10:00	12:30	橋原町「キックボード乗車体験」姫鶴荘⇒カルストテラス
		12:00	13:00	昼食 (カルストテラス)
		13:00	14:00	久万高原町「E-bike乗車体験」カルストテラス⇒姫鶴荘
		14:00		E-bike、キックボード返却
		16:00	20:30	「郷土料理作り体験」+夕食+意見交換
		---	---	【宿泊】四国運輸局_久万高原町内 (八丁坂)
		---	---	【宿泊】リベルタ_久万高原町内 (農林業体験民宿てっぺん)
9月28日 (木)	久万高原 町	9:00	12:00	第45番札所 岩屋寺 愛媛県庁ヒアリング同行、周辺調査
		12:00	13:00	昼食 (古岩屋荘)
		13:00	15:00	第44番札所 大寶寺 愛媛県庁ヒアリング同行

(5) 個別の調査内容

第1回目で実施した現地調査の個別の内容を時系列で以下に示す。

①津野町：古式神楽保存会 ヒアリング、練習会見学

【実施日・場所】

2023年9月25日（月）16:00-17:30 津野町役場西庁舎にてヒアリング
26日（火）19:30-20:30 河内五社神社にて練習会見学

【現地対応者】

・津野町古式神楽保存会 会長 嶋崎 義豊氏

【ヒアリング出席者】（敬称略）

・津野町役場 大崎、川田
・リベルタ株式会社 林、石飛、横内

【主旨】

神楽は神事であり地域活動であるため、まずはインバウンド向けの旅行商品として検討することへの保存会のお考えを確認することとした。受け入れ可能な場合は、練習の見学や地域住民の方々との交流を軸としたコンテンツ化の可能性についてお話を伺うこととした。

【ヒアリング内容】

➤ 保存会について

・50年前くらいから、神職のみで行っていた神楽を地域住民が担うようになった。現在では、神楽の技術と文化の継承・普及を保存会の使命として、これを活動方針としている。年4回季節ごとに神楽を舞う。
・保存会メンバーは総勢41名。16～70歳代。30年近く前から続く中学校との関わりにより、今の30～40歳代が保存会のメンバーとなっている。また、以前は男性のみだったが、婦人会のやる気や神職の働きかけによって、現在は女性メンバーもいる。

➤ 活動内容

・神楽を含む伝統文化が年々消えていく危機感から、様々なイベントにも神楽社中として参加している。
・元々は津野の殿様や諏訪神社に奉納するのが目的。
・秋の例祭では河内五社神社、諏訪神社等の4か所で舞う予定。年1回すべての神楽を舞うと8時間かかる。今年は11月19日に諏訪神社で実施予定。
・現在は上記に加え、中学生同士で神楽を産業祭で発表しあう交流活動もある。現在は総合学習として中学校のカリキュラムに含まれており、足りないものを保存会が学校に貸すなどの関係もある。

➤ 旅行商品としての検討について

・これまでも、高知空港と台湾を結ぶ飛行機の運航が開始されたことを機に、台湾向けの提案を受けたことがある。観光客に神楽を見せることは保存会としては問題ない。

・観光客による舞の練習・見学やメンバーとの交流は前向きに捉えたい。

⇒翌日26日に演目「山探し」「大蛮」の練習を実際に見学させていただき、鳴り物も体験した。

【結果】

25日のヒアリング、26日の見学や鳴り物体験を通して、舞の見学とメンバーの方との交流を軸としたモニターツアーを以下の日程で実施することとなった。

・11月13日19時～@河内五社神社

(5) 個別の調査内容（続き）

②津野町：フォレストアドベンチャー・高知 ヒアリング

【実施日・場所】

2023年9月26日（火） 10:30-12:00 フォレストアドベンチャー・高知オフィスにて

【現地対応者】

・フォレストアドベンチャー・高知 中山泰全氏、大崎健司氏

【ヒアリング出席者】（敬称略）

- ・津野町役場観光振興課 高橋
- ・四国運輸局 青井、武市
- ・リベルタ株式会社 林、石飛、横内

【主旨】

既存のコンテンツ内容、冬季営業について確認する。森林管理等サステナブルな観点での新たなコンテンツ作りが可能か確認する。

【ヒアリング内容】

- ジップラインについて
 - ・ジップラインのコースをご案内いただいた。ファミリー層が多い。小さいお子さん未対応
- 安全管理について
 - ・点検は毎朝。場所によっては1週間に一度、全体として1カ月に一度総点検を行う。
 - ・雷時、風速7-8m/s以上は不可。スタッフの判断で早めに休止する。
- 冬季営業について
 - ・冬季は来ることができない人が多い上、ケーブルやカラビナが凍結するため、短縮営業あるいは休業となる。
 - ・タクシーやシャトルバスと連携すればツアーの形で冬季も客の受け入れが可能かもしれない。
- インバウンド対応・英語対応について
 - ・インバウンドはたまに来る。安全講習のビデオが多言語対応している（英語、中国語）
 - ・特にインストラクターは外国語対応はしていない。
- 新たなコンテンツづくりの可能性
 - ・フォレストアドベンチャーが行っている森林の保全作業やチップを敷く等の作業は、安全管理に問題が生じるため客に行わせることはできない。そのため、客が体験するのはあくまでジップラインのみ。

【結果】

- ・インバウンド向けには、フォレストアドベンチャー内で新たにコンテンツを作るのではなく、最大8人くらいのグループを想定したガイド付ツアーの中で、ランチを既存の体験にプラスしたコンテンツの造成を検討することとした。
- ・次回の現地調査で実際にジップラインを体験し、得られる体験価値を実際に経験すると共に、複数客がいる場合の所要時間や通訳の必要可否等を検証することとした。また、ランチ提供先の候補として、フォレストアドベンチャー・高知に近い「イチョウノキ」を次回視察することとした。

(5) 個別の調査内容（続き）

③津野町：遊山四万十 せいらの里 ヒアリング

【実施日・場所】

2023年9月26日（火） 12:30-13:50 遊山四万十 せいらの里 食堂にて

【現地対応者】

・遊山四万十 せいらの里 代表 谷脇良枝氏

【ヒアリング出席者】（敬称略）

- ・津野町役場観光振興課 高橋
- ・四国運輸局 青井、武市
- ・リベルタ株式会社 林、石飛、横内

【主旨】

既存のコンテンツ内容とインバウンド対応に向けた食のコンテンツについて確認する。

【ヒアリング内容】

➤ 遊山四万十 せいらの里について

・平日はお膳ランチ、週末と祝日はビュッフェメニューを提供している。ビュッフェには、お茶がゆやお茶の佃煮といった、津野町のお茶を使ったメニューを入れている。（今回特別にお茶がゆと佃煮を提供していただいた。）

・体験メニューとしては、自分で焙煎するお茶の体験、こんにやく作り体験等がある。

➤ インバウンド対応・英語対応について

・インバウンドはたまに来るが、身振り手振りで対応している。

・ヴィーガン対応のリクエストがあるが、オリーブオイルと塩でゆで・焼き野菜を提供することがある。

【結果】

・今回の訪問では十分な時間が取れなかったため、次回調査にて改めて伺うこととなった。

(5) 個別の調査内容（続き）

④津野町：貝の川棚田保存会

【実施日・場所】

2023年9月26日（火） 14:00-16:00 貝の川棚田にて

【現地対応者】

・貝の川棚田保存会 会長 大崎 正氏

【ヒアリング出席者】（敬称略）

・津野町役場観光振興課 高橋
・四国運輸局 青井、武市
・リハルタ株式会社 林、石飛、横内

【経緯・主旨】

現地調査日程の期間中、高知県立大学のワークショップで保存会会長の大崎さんが棚田について説明をされるため、同大学引率ご担当者のご了承の上、ワークショップに参加させていただき、その中でヒアリングと視察を行った。棚田保全は地域の活動であるため、まずはインバウンド向けの旅行商品として検討することへの保存会のお考えを確認することとした。受け入れ可能の場合に、こういった対応が可能か伺うこととした。

【ヒアリング内容】

➤ 棚田と保存会について

・棚田は関東の一部と沖縄を除き全国にある。貝の川地区の棚田は約400年前から。
・保存会にはぎわいの創出と町内外の交流機会を増やすことを目的に発足。
・休耕田や耕作放棄地を減らす取り組みとして、平成24年より棚田オーナー制度を開始。
・棚田とその水源をご案内いただいた。
・貝の川地区の棚田では、米ともち米を作っている。その他ミョウガや生姜の畑もある。

➤ 棚田キャンドルイベントについて

・平成21年より、規格外のペットボトルでキャンドルホルダーを作り、約5000本のキャンドルで棚田をライトアップするイベントを行っている。コロナ禍で一旦中止になったが、今年4年ぶりに復活する予定。

➤ 新たなコンテンツづくりの可能性

・キャンドルイベントの取り組みを町外の人ができるよう、運営方法など裏方の作業を知る機会を作れないか相談した。

【結果】

・次回の現地調査で、まずはイベント準備を手伝い、どのような作業があるのかをさらに調査することとなった。

【特記】

・棚田で収穫されるもち米や、ミョウガ、しょうが等の野菜も食のコンテンツの材料候補になり得る。

(5) 個別の調査内容（続き）

⑤ 共通：キックボード、E-bike乗車体験

【実施日・場所】

2023年9月27日（水）10:00-13:00 四国カルスト県立自然公園内

【参加者】（敬称略）

- ・久万高原町ふるさと創生課 班長 岡 誠也
- ・久万高原町観光協会 事務局次長 矢野 豪
- ・四国運輸局 青井、武市
- ・リベルタ株式会社 林、石飛、横内

【体験内容】

ゆすはら雲の上観光協会にてキックボードをレンタルし、四国カルストまで運搬。その後2チームに分かれて、キックボードは矢野氏、E-bikeは岡氏のご案内で姫鶴荘からカルストテラスを走行した。復路はキックボード、E-bikeをチームで交換し、全員が両方を体験した。

【現状と課題】

➤ キックボードについて

・キックボードはゆすはら雲の上観光協会がレンタルを行っている。全部で4台、普段は髙原町内の街乗りを想定している。

➤ E-bikeについて

・今回は、久万高原町の姫鶴荘にあるE-bikeをレンタルした。

➤ 現状の課題

- ・運搬・返却を客にってもらう必要がある。久万高原町で借りて津野町で返却するといったような、町同士の連携が構築されていない。
- ・ガイドは昨年育成されたが、四国カルストをキックボードやE-bikeで回って案内することは想定していない。
- ・地下に流れる水の恵みや愛媛県側と高知県側の牛の違い、四国カルストがどのように形成されてきたか等、景観を見るだけではわからないストーリーを伝えられる商品づくりが必要。

【結果】

- ・モニターツアーで、参加者に四国カルストの体験を通して外国人目線での反応を探ることとした。

(5) 個別の調査内容（続き）

⑥久万高原町：農林業体験民宿てっぺん 郷土料理づくり体験と宿泊

【実施日・場所】

2023年9月27日（水） 16:00-20:30

【現地対応者】

・農林業体験民宿てっぺん オーナー 松本氏

【参加者】（敬称略）

- ・久万高原町ふるさと創生課 班長 岡 誠也
- ・四国運輸局 青井、武市
- ・リベルタ株式会社 林、石飛、横内

【体験内容】

郷土料理づくり体験は時間の都合上、自家栽培の野菜の説明を受けた後に自家製こんにゃくをスライスして盛り付けたり、そのほかお膳を整えることに留められた。その後、参加者全員でお膳をいただき、オーナーの松本氏（ご夫婦）のお話を伺った。

【ヒアリング内容】

➤ てっぺんについて

- ・てっぺんには、建屋が2つあり、そのうちのひとつには五右衛門風呂が設置されている。薪割りから風呂焚きまでを体験することも可能。
- ・オーナーの松本氏はかつて大寶寺の宿坊で働いており、そのときに作っていた食事が現在農泊で提供している食事につながっている。また、宿坊での経験が、現在の農泊に活かされている。
- ・肉、豆腐以外は自給自足。梅酢につけた豆腐や卵も手作り。旦那さんは和紅茶の生産者。
- ・農「林」業体験宿としたのは、森林の体験も可能であるため。今後はこうした強みを活かして、芝桜やハナモモの木が並ぶ道をセラピーロードのように整備していく予定。

➤ 郷土料理づくり体験について

- ・てっぺんの郷土料理づくり体験は、その時の旬の野菜や客の滞在時間に合わせてアレンジしている。夕食のお膳はオーナーこだわりの物を出したいというポリシーがあるため、通常は夕食と合わせてすることはない。
- ・てっぺんでは、コンニャク芋からこんにゃくを作る過程が体験できるこんにゃくづくり体験も提供されている。

【結果】

- ・松本氏ご夫婦のお人柄や宿の雰囲気から、日本の田舎暮らしを体験するには最適な場所。ツアーの宿泊先候補の一つとして検討。
- ・郷土料理づくり体験は食のコンテンツ候補。

(5) 個別の調査内容（続き）

⑦久万高原町：第45番札所 岩屋寺 愛媛県庁ヒアリング同行、周辺調査

【実施日・場所】

2023年9月28日（木） 9:00-12:00

【現地対応者】

・岩屋寺 副住職 大西隆善氏

【参加者】（敬称略）

- ・久万高原町ふるさと創生課 班長 岡 誠也
- ・四国運輸局 青井、武市
- ・リベルタ株式会社 林、石飛、横内

【経緯】

現地調査日程の期間中、久万高原町役場と愛媛県庁の方々から岩屋寺を訪問されるため、その機会に同行させていただくこととなった。副住職の大西隆善氏のお話を伺った。

【ヒアリング内容】

➤ 岩屋寺について

- ・1200年以上の歴史。山岳信仰の行場でもある。岩山全体がご本尊。
- ・明治31年に大火があり、古い建物が少ない。
- ・岩屋寺から大寶寺へとつながるお遍路道は、一遍上人の聖絵にあるような雰囲気は今も残っている。また、途中で逼割（せりわり）という修行場がある。

➤ 観光客の受け入れについて

- ・参拝客と観光客、どちらも歓迎する。日本人、外国人によって対応を変えることはない。
 - ・外国人の場合、予想外のことが時折起こるため、防犯面で不安はある。過去に、夜中歩いている人やテントを張って野宿している外国人を見たことがある。火が使われていたら怖いと感じる。
 - ・阿字観（瞑想）や写仏といった体験を提供しているので、納経をしない観光客の消費機会になる。
 - ・遍路道は、歩くことによって保全される。
- ⇒インバウンドにとっては、自分たちが歩くことで地域に貢献できるというモチベーションになる。
- ・外国語での対応はきちんと伝わっているか不安がある。四国遍路ガイド通訳協会という団体がある。説明対応は遍路のことをよく理解している人がする必要がある。
 - ・インバウンドはスペイン等のヨーロッパ、ブラジル、中国が多く、よく勉強している人が多い。

➤ 遍路道と逼割行場について

・岩屋寺から大寶寺につながる遍路道の一部踏査した。ニューヨークタイムズの表紙を飾るなど、インバウンドには非常に訴求力の高い景観が残っている。また、途中には行場である逼割の鍵付きの門がある。こちらも入ってみたが、鎖場とはしごからなる岩場を登り白山権現に到達するため、安全面から送客は難しいと感じた。

【結果】

- ・次回現地調査にて、大寶寺へとつながる歩き遍路ルートを確認することとなった。

(5) 個別の調査内容（続き）

⑧久万高原町：第44番札所 大寶寺 愛媛県庁ヒアリング同行

【実施日・場所】

2023年9月28日（木） 13:00-15:00

【現地対応者】

・大寶寺 大西康覚氏

【参加者】（敬称略）

- ・久万高原町ふるさと創生課 班長 岡 誠也
- ・四国運輸局 青井、武市
- ・リベルタ株式会社 林、石飛、横内

【体験内容】

現地調査日程の期間中、久万高原町役場と愛媛県庁の方々が大寶寺を訪問されるため、その機会に同行させていただくこととなった。大西康覚氏のお話を伺った。

【現状と課題】

➤ 大寶寺について

- ・飛鳥時代に創建。お寺の名前は大宝律令の頃に創立されたことが由来。
- ・以前は岩屋寺が奥の院。岩屋寺が修行僧の修行の場で、大寶寺がその拠点であった。
- ・四国霊場88か所のうち、山中にあるのはこの2寺のみ。
- ・過去には約200人が宿坊に宿泊していた。現在、宿坊はあまり使われていない。
- ・境内にある宿坊やお堂をときどきヨガ等のイベント利用に提供している。地域の人にもっと利用してもらいたいと考えている。
- ・遍路は元々は僧の修行であるが、現在では様々な理由で多くの人が行っている。ひきこもりから脱することができた人も。

➤ 装束について

- ・大寶寺で購入可能。レンタルはしていない。

➤ インバウンド対応について

- ・できることをベースに対応していきたい。

【結果】

- ・次回調査時に、どのようなコンテンツが可能か具体的に協議することとなった。
- ・装束をレンタルできる場所を検討することとした。

現地調査の様子：津野町



津野山古式神楽保存会 ヒアリング



津野山古式神楽保存会 練習風景1



津野山古式神楽保存会 練習風景2



津野山古式神楽保存会 鳴り物体験



フォレストアドベンチャー・高知 説明動画視聴エリア



フォレストアドベンチャー・高知 ジップライン




フォレストアドベンチャー・高知 ヒアリング



フォレストアドベンチャー・高知周辺 長沢の滝

視察の様子：久万高原町

	
<p>遊山四万十 せいらんの里 ほうじ茶がゆ</p>	<p>遊山四万十 せいらんの里 お膳ランチ</p>
	
<p>貝の川の棚田</p>	<p>貝の川の棚田 ワークショップの様子</p>
	
<p>キックボード 安全講習</p>	<p>四国カルスト キックボード</p>
	
<p>四国カルスト E-bike</p>	<p>四国カルスト</p>

視察の様子：久万高原町



農林業体験宿 てっぺん



農林業体験宿 てっぺん 郷土料理作り体験



農林業体験宿 てっぺん



農林業体験宿 てっぺん ヒアリング



四国霊場第45番札所 岩屋寺本堂



四国霊場第45番札所 岩屋寺 ヒアリング



四国霊場第44番札所 大賣寺 山門



四国霊場第44番札所 大賣寺 ヒアリング

1-1-2-4. 2回目現地調査

(1) 調査目的

1回目の現地調査で視察できなかった観光資源や、コンテンツ造成に向けたさらなる調整のため、2回目の現地調査を行った。

(2) 調査概要

第2回目の現地調査は下記の通り実施した。

- 日時 : 令和5年10月9日(月)～12日(木)の3泊4日
- 実施方法 : 現地訪問による視察及び関係者ヒアリング
- 同行者(*) : 久万高原町ならびに津野町役場の担当者、リベルタ(株)

*現地調査の同行者詳細については次項参照。

(3) 調査の参加・同行者

現地調査の同行者は下記の通りであった。

	区分	氏名	所属	役職
1	久万高原町	岡 誠也	久万高原町 ふるさと創生課 観光振興班	班長
2	津野町	大崎 陽子	津野町 観光推進課	課長
3	受託事業者	林 美希子	リベルタ 株式会社	執行役員
4	受託事業者	石飛 千恵	リベルタ 株式会社	トラベルコンサルタント
5	受託事業者	横内 直子	リベルタ 株式会社	トラベルコンサルタント

(4) 現地調査の行程

前項の観光資源リストをもとに、以下の行程で第2回目の現地調査を実施した。

日程	行程	時間		内容
		入	出	
10月9日 (月)	津野町	11:30	---	松山空港着後 移動開始
		13:50	14:10	農家食堂・Café - イチョウノキ-でランチ
		14:30	16:30	フォレストアドベンチャー・高知 ジップライン体験
		---	---	【宿泊】リベルタ_津野町内 (郷麓温泉)
10月10日 (火)	津野町	9:00	12:00	貝の川棚田保存会キャンドルイベント準備手伝い
		12:30	13:15	昼食：遊山四万十 せいらんの里
		13:15	16:00	遊山四万十 せいらんの里 ヴィーガン料理対応に関するヒアリング
		---	---	【宿泊】リベルタ_久万高原町内 (国民宿舎 古岩屋荘)
10月11日 (水)	久万高原町	8:30	16:00	石鎚山トレッキング (土小屋ルート)
		---	---	【宿泊】リベルタ_久万高原町内 (いやしの宿 八丁坂)
10月12日 (木)	久万高原町	8:30	10:30	第44番札所 大寶寺 ヒアリング
		11:00	15:00	歩き遍路体験 古岩屋荘～岩屋寺
		15:30	17:00	道の駅みかわ ヴィーガンカレー試食

(5) 個別の調査内容

第2回目で実施した現地調査の個別の内容を時系列で以下に示す。

①津野町：農家食堂・Café – イチョウノキ – 昼食＋フォレストアドベンチャー・高知 ジップライン体験

【実施日・場所】

2023年10月9日（月） 13:50-14:20 農家食堂・Café – イチョウノキ –
14:30-16:30 フォレストアドベンチャー・高知

【体験内容】

➤ 農家食堂・Café – イチョウノキ –

- ・野菜中心のランチ定食をいただいた。うどんも評判が高いとのこと。
- ・テーブルとイスの座席のほか、グループで談話できる畳スペースがある。

➤ アドベンチャーコース

- ・受付場所にてハーネスを装着。その後、ジップラインの場所入口付近で安全講習のビデオを視聴。
- ・最初に低い位置でのジップラインを体験後、コースに進んだ。今回は、インストラクターの藤村氏に随行していただいた。

➤ 旅行商品としての検討について

- ・体験は一人ずつ行うため、人数が多いほど時間がかかる。また、高さに対する恐怖心等で、進み具合が変わることも予想される。
- ・ジップライン体験は雨でも可能であるが、食事込みのコンテンツとした場合、お弁当をジップラインの場所で食べるのではなく、今回利用した農家食堂・Café – イチョウノキ – のような食堂で食べる方がよい。

【特記】

- ・モニターツアーにて、まずは昼食や交通を組み合わせたBtoB向けセールスを前提に、森林の活用や山の恵みを軸としたストーリー設定、かつ英語ガイド付きのコンテンツ化について検証することとした。

(5) 個別の調査内容（続き）

②津野町：貝の川棚田保存会キャンドルイベント準備手伝い

【実施日・場所】

2023年10月10日（火） 9:00-12:00

【現地対応者】

・貝の川棚田保存会 会長 大崎 正氏

【参加者】（敬称略）

・津野町役場 観光振興課 課長 大崎 陽子
・リベルタ株式会社 林、石飛、横内

【体験およびヒアリング内容】

➤ 毎週火曜日 地域コーヒータイム

・毎週火曜日に地域の方が交流館に集うコーヒータイムに参加させていただいた。

➤ キャンドルイベントの準備

・2分割されたペットボトルのキャンドルホルダーを棚田の境界線に付けられた4m間隔の印に合わせて置く作業を行った。

・約5000本のペットボトルの設置作業は通常、4人で対応しているとのこと。

・ペットボトルを分割する作業は、田植えの繁忙期の後、地区住民や棚田オーナー等20人超で数回に分けて行う。

・着火は保存会の人や、お客さんが一部行う。

・使用後のペットボトルは、きれいなものはリサイクルに。煤で汚れてしまったものは廃棄している。

➤ インバウンドの対応について

・住民はシャイで控えめな人が多く、外国人が苦手な人もいる。

⇒ツアーでは、サステナブルな観光に興味のあるグループ（最大でも10名程度）を想定する。

⇒一緒に何かを手伝う体験を通して、地域にお役に立てる内容としたい。

⇒個人宅の写真を無許可で撮影したり、SNSで発信しないように注意する。

【結果】

・保存会の取り組みに対する理解を深めることを目的として、現地セミナーでキャンドルイベントの準備作業を体験することとなった。また、現地セミナーでのフィードバックを基に、モニタツアーへの作り込みを行う。

(5) 個別の調査内容 (続き)

③津野町：遊山四万十 せいらんの里 ヒアリング

【実施日・場所】

2023年10月10日 (火) 13:15-16:00

【現地対応者】

・遊山四万十 せいらんの里 谷脇良枝氏

【参加者】(敬称略)

・津野町役場 観光振興課 課長 大崎 陽子
 ・リベルタ株式会社 林、石飛、横内

【ヒアリング内容】

➤ ヴィーガン対応状況

・ヴィーガン対応のニーズが高まっていることを受け、実際にそうした対応をされているせいらんの里に対応状況を伺った。その際、食対応シート(図1)を使い、ヴィーガン・ベジタリアンの区分での対応可否、およびアレルギー特定品目に対するヒアリングを行った。

・これまでのヴィーガン対応としては、茹で・焼きの野菜にオリーブオイルと塩を提供するといったことをしており、もっと何かできないかと考えていたとのこと。ヴィーガン・ベジタリアンについては、段階に応じた対応方法がある旨をお伝えした。

・小麦アレルギーの対応が必要な場合は、その日の食は全客を対象に、アレルギーを排除した食の提供をしている。(例：揚げ物を素揚げにする、大豆と塩のみの原料からなる醤油を使用する)

➤ 客室の視察

・ヒアリング実施日は宿泊施設が休館のため、客室を見せていただいた。

【結果】

・モニタツアーにおける宿泊候補とすることとした。

食事対応に関する事前ヒアリング							
実施年月日		2023年		10月		時点	
法人(店舗)名称							
店舗名称							
1.ヴィーガン・ベジタリアン		②の場合、連絡につ		②の連絡時期につ		②の連絡時期につ	日時まで
④⑤の場合、下表に回答							
区分	OK/NG	肉	魚	卵	牛乳	蜂蜜	対応
ヴィーガン	完全菜食主義者	x	x	x	x	x	
ローフェイスト	植物性+蜂蜜	x	x	x	x		
コクトベジタリアン	植物性+乳製品	x	x	x	x		
オボベジタリアン	植物性+卵、蜂蜜	x	x	x	x		
コクトオボベジタリアン	植物性+乳製品、卵	x	x	x	x		
ベスカタリアン	植物性+卵、乳製品	x	x	x	x		
ビーベジタリアン	植物性+蜂蜜+卵	x	x	x	x		
マクロベジ	海苔類以外の魚介類	x	x	x	x		
2.アレルギー対応		②の場合、連絡につ		②の連絡時期につ		②の連絡時期につ	日時まで
④⑤の場合、下表に回答							
特定原材料7品目	対応可否・対応						
そば							
かに							
小麦							
そば							
卵							
魚							
牛乳							
鶏卵							
特定原材料に含むもの21品	対応可否・対応						
アミノ酸							
まわりひ							
えんぴ							
いんげん							
オレシ							
カシューナッツ							
ココナツ							
大豆							
ごま							
そば							
そば							
大豆							
鶏肉							
豚肉							
鶏卵							
まごだけ							
わか							
かまぼ							
りんご							
そば							

図1 食対応ヒアリングシート

(5) 個別の調査内容（続き）

④久万高原町：既存コンテンツの体験 石鎚山トレッキング（土小屋ルート）

【実施日・場所】

2023年10月11日（水） 8:30-16:00

【現地対応者】

・ソラヤマいしづち ガイド 松本勝氏

【参加者】（敬称略）

・リベルタ株式会社 林、石飛、横内

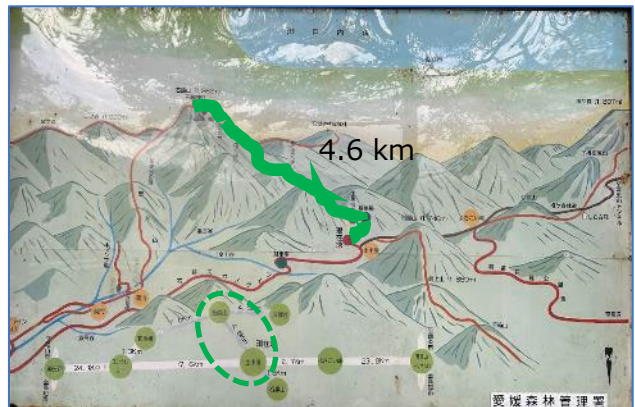


図2 石鎚山 土小屋ルート

【体験内容】

➤ 土小屋ルート

・ソラヤマいしづちのガイド松本氏の先導により、土小屋ルート（図2）を踏査した。土小屋ルートは、1500mまで車で到達し、そこから歩いて1982mの山頂を目指す最もポピュラーなルートである。

・一般的な所要時間は、上り2.5時間、下り1.5時間。頂上での滞在時間を含めると往復5時間程度となるが、今回は説明を聞きながらの登山であったため、往復6時間超となった。

・晴天と紅葉のタイミングに恵まれた。午前8時には土小屋テラス付近駐車場がいっぱいになる程の登山客でにぎわっていた。

・山頂手前に有料トイレ（1回100円）がある。運営・管理はボランティアとのこと。

➤ 鎖場

・土小屋ルートからの登山口付近に石鎚神社の土小屋遥拝殿、山頂には奥の院がある。古来より霊峰として崇められる石鎚山には、鎖場という岩肌に下した70メートル弱の鎖を登る修行の場が数か所存在する。

・この鎖場を経て登頂する登山客もいるが、そもそも修行場なので鎖の安全管理等はされていない。

【課題】

・現在も修験の方々が山を登る姿が見られるが、登山客が不用意に写真を撮ってしまうことがあるという。

→マナー・ルールの内容に組み込む必要がある。

・鎖場は石鎚山トレッキングのハイライトの一つであるが、旅行商品として組み込むにはリスクが高い。

→重大なケガや事故につながる可能性が高くなるが自己責任であり、1人怪我人が出るとツアー行程に支障が生じる。ツアー商品としては、鎖場を下から見せるのみとし、迂回ルートを基本とする。

・安全やマナーについてガイドが伝える必要がある。

【特記】

・四国に入るインバウンドにとって、山岳信仰の場を実際に歩く体験は非常に訴求力の高いコンテンツである。こうした既存のコンテンツと、麓の暮らしや人々の信仰が垣間見える新たなコンテンツによって、地域を結びつける周遊ツアーとなり得る。

・すでにルートがあり、ガイドも居るので新たな掘り起こし要素は少ない。

(5) 個別の調査内容（続き）**⑤久万高原町：第44番札所 大寶寺 ヒアリング+歩き遍路体験****【実施日・場所】**

2023年10月12日（木）8:30-15:00 大寶寺（宿坊、お堂）、古岩屋～岩屋寺

【現地対応者】

- ・大寶寺 僧侶 大西康覚氏
- ・大先達 越知 カヨコ氏
- ・ソラヤマいしづち ガイド 松本勝氏

【参加者】（敬称略）

- ・久万高原町役場 岡
- ・リハルタ株式会社 林、石飛、横内

【ヒアリング内容】

インバウンド向けのツアーを想定した法話とお先達による体験の流れについて、確認させていただいた。（体験内容は後述参照。）

➤ コンテンツ造成における留意点

- ・ここでの遍路体験は、修行を体験することである。観光寄りとする場合は、西国巡礼の方が適しているであろう。
- ・装束はレンタルとするにしても、コンテンツ提供事業者が買い取りし、それをツアー客に貸し出すのはどうか。
- ・ご本尊の写真はNG。火気厳禁のため喫煙不可。境内のごみは必ず持ち帰る。

【体験内容】**➤ 康覚氏による法話**

・歩き遍路コンテンツを想定し、最初に弘法大師の生涯、巡礼、四国遍路の概要、大寶寺と岩屋寺の特徴、修行・お接待の意味等をお話いただいた。

➤ 装束について

・お遍路の装束は、僧の装束から派生しているとのこと。康覚氏と越知氏より、装束の説明を受けた。

➤ 本堂、大師堂へのお参り

・越知氏の先達により、手水、鐘つき、蠟燭とお線香のお供え等の一連のお参り手順を体験した。本堂にて提供いただいた経本を見ながら読経を行った後、大師堂へお参りした。

➤ 古岩屋からの歩き遍路体験

・ガイドの松本氏、大先達の越知カヨコ氏のご案内で、国指定名勝「古岩屋」から岩屋寺へ通じる歩き遍路道を踏査した。

【結果】

・実地セミナーで、今回体験させていただいた宿坊での法話とお堂へのお参りを体験することとなった。また、実地セミナーでのフィードバックを基に、実際に遍路道を歩くことを含めたモニタツアーへの作り込みを行う。

(5) 個別の調査内容（続き）

⑥久万高原町：ヴィーガンカレー試食

【実施日・場所】

2023年10月12日（木） 15:30-17:00 道の駅みかわ

【現地対応者】

- ・愛媛県中予地方局 農業振興課 係長 菊池啓一氏
- ・道の駅みかわ 支配人 大野和也氏

【参加者】（敬称略）

- ・久万高原町役場 岡
- ・リベルタ株式会社 林、石飛、横内

【ヒアリング・体験内容】

- ・愛媛県「久万高原地域食材伝承事業」の一つである「雑穀の新たな商品開発」により開発された、たかきびを使った代替肉を使ったカレーを試食させていただいた。
- ・今後、同事業の一環で、道の駅みかわで作り方講習が行われるとのこと。また、同場所にて、限定販売を行い、一般客の反応を調査するとのこと。

【結果】

- ・インバウンド向けのヴィーガン対応の一つの方法として、同事業内で作られたヴィーガンカレーをレトルトとしてモニターツアー中に提供し、ヴィーガン対応への観点から検証してみることとなった。
- 本事業の造成コンテンツとしては取り扱わないが、ツアー構成要素の「地域の食資源」として有効活用する。
- ・これに合わせて、道の駅の活用方法として、地域の方と一緒に道の駅で食材を購入したり共同調理する等の地域交流型体験のコンテンツ化が可能か、今後検討することとした。

視察の様子：津野町



農家食堂・Café -イチヨウノキ-



農家食堂・Café -イチヨウノキ- 定食



フォレストアドベンチャー・高知 ハーネス装着



フォレストアドベンチャー・高知 ジップライン体験



フォレストアドベンチャー・高知 ジップライン体験



フォレストアドベンチャー・高知 ジップライン体験



郷麓温泉



郷麓温泉 朝食

視察の様子：津野町



貝の川棚田キャンドルイベント準備作業



貝の川棚田キャンドルイベント準備作業



遊山四万十 せいらんの里 お膳定食



遊山四万十 せいらんの里 ヒアリング



遊山四万十 せいらんの里 ツインルーム



遊山四万十 せいらんの里 ダブルルーム



一本橋



諏訪神社

視察の様子：久万高原町



石鎚山 ガイド松本氏 説明



石鎚山 登山道



石鎚山 二の鎖



石鎚山 山頂付近登山道



石鎚山 天狗岳



石鎚山 土小屋terrace



八丁坂



八丁坂 朝食

視察の様子：久万高原町



大寶寺 大西康覚氏の法話



大寶寺 読経



お先達と納経帳



古岩屋からの歩き遍路ルート



古岩屋からの歩き遍路ルート



歩き遍路ルート 岩屋寺へ



たかきびを使用したヴィーガンカレー



ヴィーガンカレー試食

1-1-2-5. 現地調査のまとめ

1-1-2-2項で示した観光資源リストから洗い出された、コンテンツ造成に向けた課題と方向性について下表に示す。これらの、特にアクティビティに関連するものについては、既存のコンテンツを組み合わせることでサステナブルな観光としての新たな価値を創出するものと、地域の活動をサステナブルな観光として新たに構築するものの2種類があるため、それぞれの状況に応じてコンテンツとして作り込む必要がある。

抽出された観光資源候補とコンテンツ造成に向けた課題と方向性

No.	エリア	観光資源候補	調査内容	コンテンツ造成に向けた課題と方向性
1	共通： 四国カルスト (久万高原町)	E-bike、 キックボードの活用	・ガイドの育成状況、 レンタル運用体制 ・四国カルストでの既 存観光ツールの体験	【課題】 ・E-bike、キックボードの運用方法 (複数自治体の連携) ・ガイドの育成 【方向性】 ・E-bike、キックボードによるカルスト 地域散策
2	共通： 四国カルスト (津野町)	天文台 プラネタリウム	・資源の概要把握 ・悪天候時および冬の コンテンツとしての実現 性	【方向性】 ・神楽とプラネタリウムの融合 性
3	共通： 四国カルスト (津野町)	セラピーロード、 キャンプ場	・資源の概要把握	【課題】 ・新たなコンテンツの掘り起こし要素が 少ない
4	久万高原町	遍路体験	・お遍路体験のコンテ ンツ化の実現性	【課題】 ・宿坊の活用 ・歩き遍路ルート維持整備 ・地元を説明できる通訳ガイド 【方向性】 ・僧侶の方の法話、大先達と地域ガ イドという付加価値をつけた、装束を 身にまとったリアルなお遍路体験として
5	久万高原町	久万高原産の 野菜を活用した ヴィーガン食	・ヴィーガン食提供の 実現性	【方向性】 ・愛媛県「久万高原地域食材伝承 事業」の一つであるヴィーガンカレーを モコツアーで検証 ・道の駅を活用した地域交流型体験 としてのコンテンツ化
6	久万高原町	農泊体験	・共同調理や収穫体 験等を通じた、久万 高原野菜を活用した 食コンテンツとしての可 能性	【方向性】 ・宿泊、食体験コンテンツ候補として
7	久万高原町	石鎚山登山	・既存コンテンツの体 験 ・天狗、山岳信仰 (修験)とからめた新 たなコンテンツ化の可 能性	【課題】 ・登山時のマナーとルール徹底 ・トイレの維持管理

1-1-2-5. 現地調査のまとめ

(前頁からの続き)

No.	エリア	観光資源候補	調査内容	コンテンツ造成に向けた課題と方向性
8	津野町	お茶活体験	・お茶畑での体験、お茶を使った食などの、食コンテンツとしての可能性	【方向性】 ・ヴィーガン・ベジタリアン対応可能な宿泊候補として
9	津野町	津野山古式神楽	・地域の無形文化財継承の取り組みについて、練習の見学や地域住民の方々との交流を軸としたコンテンツ化の可能性	【課題】 ・地域活動からの、観光コンテンツへの作り込み 【方向性】 ・舞の見学とメンバーの方との交流を軸としたコンテンツとして
10	津野町	貝の川棚田	・保全活動を組み込んだ体験としてのコンテンツ化の可能性	【課題】 ・訪問時のマナーの徹底 ・地域活動からの、観光コンテンツへの作り込み 【方向性】 ・訪問者が地域に貢献できるような仕組みと交流型のツアー設定
11	津野町	ジップライン体験 (四国カルスト県立自然公園内)	・既存コンテンツの体験 ・森林資源管理等、サステナブルな観点でのコンテンツ化、並びに冬のコンテンツとしての実現性	【課題】 ・二次交通（特に冬のアクセス） ・新たなコンテンツ提供は難しい 【方向性】 ・既存の体験に通訳ガイドとランチをつけたチャーターバスを使ったグループツアーとして

1-1-3. 基礎調査まとめ

1-1-3-1. 事業対象地域の共通課題

(1) 二次交通

現地調査のヒアリングで、四国カルストエリアでは公共交通機関が限られていること、特に冬場は交通規制がかかるため自家用車での移動も制限される。四国カルストの麓でジップライン体験を提供するフォレストアドベンチャー・高知のスタッフの方からは、冬でも天候によってはコンテンツ体験が可能であるにも関わらず、アクセスの利便性の問題のため営業を短縮あるいは休止せざるを得ないという話も伺った。

こうした課題の解決のため、タクシーやチャーターバスを含めたツアーとしての送客の実現性を検討すると共に、同地域で今年度実施された「四国カルストにおけるパークアンドライド方式及び公共交通機関接続による交通アクセス実証運行調査事業」で運行されるバスを利用して、モニターツアーでアクセス性の検証を試みることにした。

(2) ガイド人材

四国カルストエリアでは前年度事業「脱炭素ネットゼロ！未来を先取りするまち「久万高原町」で、SDGsで観光モデル地域を実現する新たな看板商品創出とプロガイド育成事業」にてアクティビティガイドの養成が進んだが、絶対人数が少なく、多言語対応の体制もこれからとのことであった。一方で、今回の現地調査でご対応いただいたガイドの方や地域の方々は、深い知識と経験を惜しみなく共有してくださった。こうした地域に入り込む体験として不可欠な情報を多言語で伝えるための通訳ガイドが必要だが、担い手を見つけるのは難しい状況にある。

(3) 販売体制

本事業対象地域である愛媛県久万高原町には観光協会と地域連携DMOが存在するが、海外の旅行会社の窓口としては対応していない。また、高知県津野町については観光協会が設立されていないため、観光に関することは役場の観光振興課が担っているのが現状である。こうした状況を踏まえ、本事業で造成するコンテンツをどのような形で販売していくのかを念頭におきつつ事業を進める必要がある。

(4) サステナビリティに関する住民の意識

日本の他の地域と同様、当事業対象地域は特にサステナビリティについて意識が格別高い地域、あるいはそうした活動が盛んな地域という訳ではない。サステナブルな観光に関心の高い訪日客を送客する際に、受入側は具体的にどのような点に留意すべきか等の情報を提供する必要がある。

(5) ルール・マナーの整備

地域に入って住民と交流する場合、旅行者が不用意に民家や住民を撮影してしまうとプライバシー侵害に発展する恐れも十分に考えられる。コンテンツを造成する際には、こうした事態を避けるため注意点を整理し、その情報がコンテンツ購入者と訪問者に共有できるようにする必要がある。

(6) 地域還元のしくみ

自然景観が観光資源の場合、訪問者は景観を眺めて素通りする結果、消費につながらないことが多い。環境保全の観点、並びに地域活性の観点からも、地域に経済的な波及効果をもたらす仕組みが必要である。

1-1-3-2. 欧米豪市場のニーズ、観光資源と課題の整理

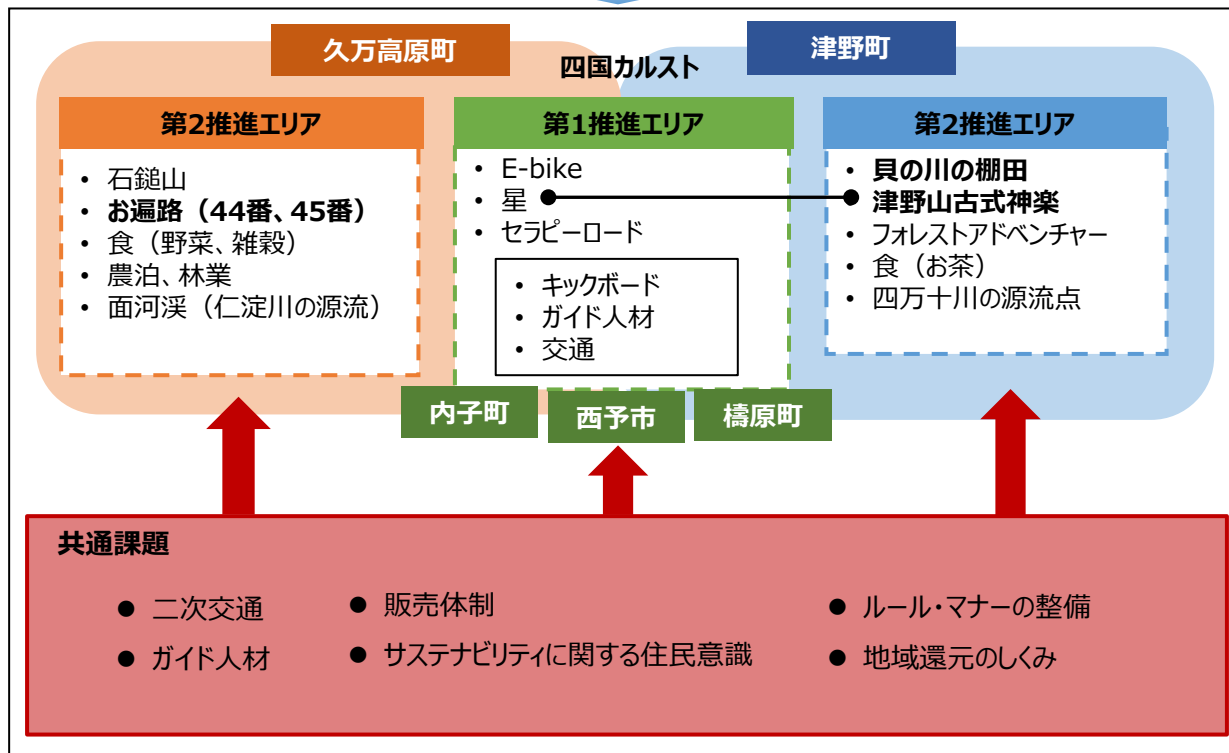
これまでの調査結果と前頁で示した共通課題から、観光資源と共通課題の関係性を以下のように図式化し、まとめた。

サステナブルな観光に対する欧米豪市場のニーズ

- サステナブルなコンテンツ・ツアーの商品ラインアップ
- 自然保護、地域貢献、本物の体験、知らない土地
- 日本の伝統文化・日常の暮らしへの関心

事業対象地域が訴求しやすい要素

- 自然の中のアクティビティ
(サイクリング、ウォーキング)
- 農泊
- ローカル食
- 昔ながらの信仰文化・暮らし



現地調査で抽出された観光資源と、過去の事業やヒアリングを通して抽出された共通課題についての解決方法についても念頭に置きながらコンテンツの造成を検討することとした。

1-2. JSTS-Dに関する調査の活用

1-2-1. 前年度調査結果の整理

前項の基礎調査に加え、コンテンツ造成においては昨年度実施した調査結果（令和4年度 愛媛県久万高原町及び高知県津野町における日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)に準拠した観光地経営の現状・課題調査事業）を活用することとした。

(1) 前年度調査結果とコンテンツ造成に関する指標の関係性

重点指標の抽出に先立ち、JSTS-D指標の4分野（Aマネジメント、B社会経済、C文化、D環境）においてコンテンツ造成と関連性のある指標を抽出し、下記の通り2つに分類した。また、昨年度の調査結果のうち、2町それぞれが各指標について回答した優先度（5段階評価。数値が大きいほど優先度が高い）と比較した。

- ①関連指標：サステナブルなコンテンツ造成に関連があり、状況に応じて取り組む、あるいは貢献し得る指標
- ②重点指標：実施目標。サステナブルなコンテンツ造成において必要な取り組むべき指標

【指標の色分け】

●	①関連指標
●	②重点指標：実施目標

A. 持続可能なマネジメント

マネジメントに関する指標（全41指標）について、コンテンツ造成に関して抽出した指標は8指標、うち、特に5指標に着目した。

41	分野の全体指標数
8	抽出指標数（①+②）
3	①関連指標
5	②重点指標：実施目標

【ポイント】

昨年度調査での優先度は高くなかったものの、コンテンツ造成においては特に経済効果や来訪者数のバランスを取る必要性があることから、A11の指標を取り上げた。

前年度調査における
取り組み優先度（5段階）

A. 持続可能なマネジメント			久万高原町	津野町
A6	住民参加と意見聴取	① 官民、住民等の地域のステークホルダーが参画するJSTS-Dに基づいた持続可能な観光の推進を担うワーキンググループ等があり、定期的な意見交換の機会があること	4	4
A8	観光教育	① 地域コミュニティ、特に児童・生徒に対して観光に関する教育が実施されていること	3	3
A10	プロモーションと情報	③ 求めるターゲット層の誘致拡大に向けた新商品の開発に地域発意で取り組んでいること	2	2
A11	旅行者の数と活動の管理	③ 月ごと（季節ごと）の観光客数を計測していること	2	2
		④ 繁閑差を考慮した誘客のための取組を行っていること	2	1
A15	危機管理	④ 災害等の非常時に備えた事業者、住民等に対する訓練や研修を行っており、旅行者に対しても非常時における行動等について周知・啓発を行っていること	3	3
		⑤ 災害等の非常時において正確な情報を伝える表現で情報発信がなされていること	3	3
A16	感染症対策	① 事業者等に対して業種ごとに作成された新型コロナウイルス感染症予防ガイドラインに沿った対策の徹底を促すとともに、旅行者に対して感染症予防に係る周知を行っていること	4	4

※5=最優先

B. 社会経済のサステナビリティ

社会経済に関する指標（全32指標）のうち、コンテンツ造成に関して抽出した指標は8指標、うち、特に7指標に着目した。

【ポイント】

24	分野の全体指標数
8	抽出指標数（①＋②）
1	①関連指標
7	②重点指標：実施目標

昨年度調査においても優先度の高かったB4（コミュニティへの支援）の指標について、重要な指標と位置付けた。また、コンテンツ造成においては、その後の販売を見据えた商品設計が必要不可欠であるため、社会経済分野の指標を重視した。

前年度調査における
取組み優先度（5段階）

B.社会経済のサステナビリティ			久万高原町	津野町
B2	ディーセント・ワークと雇用機会	① 観光関連事業者への就業を促進する取組があること	3	2
		② 性別、年齢、季節等に左右されない、安定した雇用や公正な賃金の実現に向けた取組を行っていること	3	2
B3	地域事業者の支援と公正な取引	① 地域の特産品やサービスの利用を促進していること	4	5
		② 地元の観光関連の中小企業等が、より市場に参入しやすくなるように支援していること	3	4
B4	コミュニティへの支援	① 事業者や旅行者が住民と共に、地域社会や地域の文化・自然環境の保全に貢献できる機会があること	5	5
B5	搾取や差別の防止	① 取組は地域住民と旅行者を含み、観光地域全体に周知されていること	3	3
B8	多様な受入環境整備	⑤ 多言語による案内の充実を推進していること	3	2
		⑥ 多様な宗教・生活習慣への対応を推進していること	2	2

※5＝最優先

C. 文化的サステナビリティ

文化に関する指標（全19指標）のうち、コンテンツ造成に関して特に6指標に着目した。

【ポイント】

19	分野の全体指標数
6	抽出指標数（①＋②）
0	①関連指標
6	②重点指標：実施目標

本事業において作成する旅行者向けのマナー・ルールに関する指標（C7）の他、現地調査で選定した地域資源の特性から、地域の無形文化遺産の保全や住民との共同・参画に関する指標を重視した。特に、社会経済の領域でも重視したコミュニティに深く関わる指標として、C8①の指標に着目した。

前年度調査における
取組み優先度（5段階）

C.文化的サステナビリティ			久万高原町	津野町
C3	無形文化遺産	② 地域の行事（祭り等）の保存に努めていること	3	3
		③ 伝統文化の次世代継承を支援するための取組があること	3	3
C7	文化遺産における旅行者のふるまい	① 旅行者に向けて、ポジティブな行動を奨励していること（マナー啓発）	3	2
		② 問題が生じている場合、対策を講じていること（マナー違反対策）	2	2
C8	観光資源の解説	① 解説が、地域のストーリーとして地域住民と協力して作成されていること	4	3
		② 解説文は、旅行者に適した言語で伝えられていること	2	2

※5＝最優先

D. 環境のサステナビリティ

環境に関する指標（全29指標）のうち、コンテンツ造成に関して抽出した指標は7指標、うち、特に5指標に着目した。

【ポイント】

昨年度調査において優先度の高かったD2（混雑対策）の指標を重要な指標と位置付けた。また、インバウンド対応において将来的に生じる可能性も踏まえ、D5（野生生物の保護）についてもマナー・ルール整備の対象として着目。その他、インバウンド誘客では必要となる使い捨てプラスチックや廃棄物に関する指標を重視した。

29	分野の全体指標数
7	抽出指標数（①+②）
2	①関連指標
5	②重点指標：実施目標

前年度調査における
取組み優先度（5段階）

D.環境のサステナビリティ		久万高原町	津野町
D2	自然遺産における旅行者の管理 ⑤ 課題が生じている場合、対応策を講じていること（混雑対策）	4	4
D3	自然遺産における旅行者のふるまい ④ 旅行者に向けて、ポジティブな行動を奨励していること（マナー啓発）	4	2
D5	野生生物の保護 ④ 野生生物の保護等に関して観察、餌付け等に関する規制があること	1	1
D8	水資源の管理 ④ 事業者が、節水に努めていること	1	1
D9	水質 ② 使い捨てペットボトルの飲用水の利用から転換を促す、地域における飲料水の水質に関する旅行者向けの情報があること	2	2
D11	廃棄物 ④ 廃棄物削減や再利用、リサイクルに関する観光事業者向けの取組があること	1	1
D13	環境負荷の小さい交通 ④ 地域内での徒歩や自転車での移動の奨励と安全確保を行っていること	4	4

※5=最優先

(2) コンテンツ造成におけるJSTS-D指標への貢献

前項で掲げた指標に意識してコンテンツを造成することにより、最大値（目標）として以下の成果が期待される。コンテンツ造成においては、特に社会経済指標や文化的側面への貢献度が高いことが示唆された。

JSTS-D指標 全体への期待値	【全体113指標】
	最大貢献値（指標数）/最大貢献度（%）
	全体：29/25.7%
	A. マネジメント：8/19.5%
	B. 社会経済： 8/33.3%
C. 文化：6/31.6%	
D. 環境：7/24.1%	

1-2-2. 重要指標の抽出・設定

1-2-1で抽出した指標をもとに、選定中の地域資源との関連性から以下の通り重要指標を設定した。

【JSTS-D指標活用の4分類】

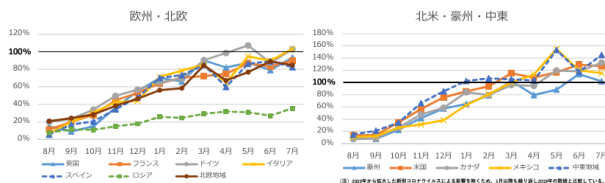
- ①最重点指標：四国カルストを核としたコンテンツ造成において核となる指標
→ **B3地域事業者の支援と公正な取引 B4 コミュニティへの支援 C8観光資源の解説**
- ②重点指標：実施目標。本事業における取り組みが必要不可欠な指標
→ **1-2-1にて抽出した①以外の指標**
- ③関連指標：本事業において、状況に応じて検討・取り組みたい指標
→ **1-2-1にて抽出した①以外の指標**
- ④その他：抽出指標以外でありながら、本事業実施の結果貢献しうる指標
→本事業を進めながら、最終的な成果を検証

1-3. 設定ターゲットの検証

1-3-1. 事業対象地域のインバウンド入込状況

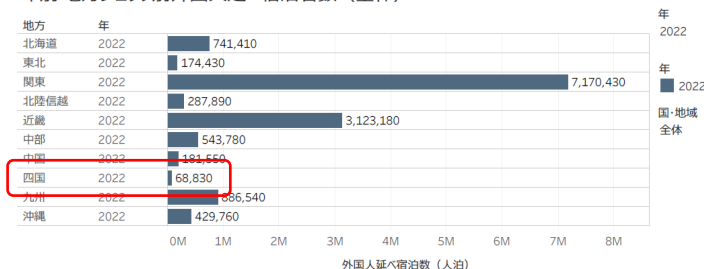
JNTOプレスリリース「訪日外客数（2023年7月推計値）」によると、コロナ収束以降、訪日観光客は徐々に増加し、2023年7月にはコロナ前の2019年の水準にほとんどが達している。

2022年8月～2023年7月訪日外客推移（2019年同月比）



出典：観光庁プレスリリース「訪日外客数2023年7月推計値」

年別 地方ブロック別外国人延べ宿泊者数（全体）



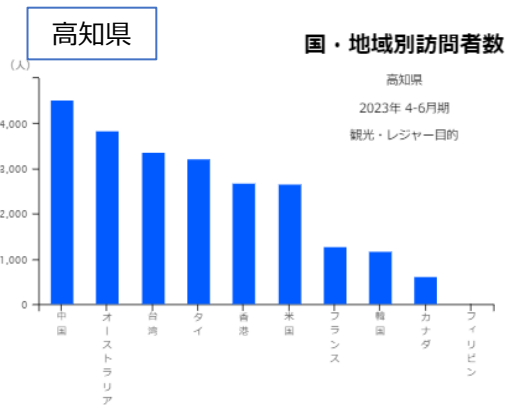
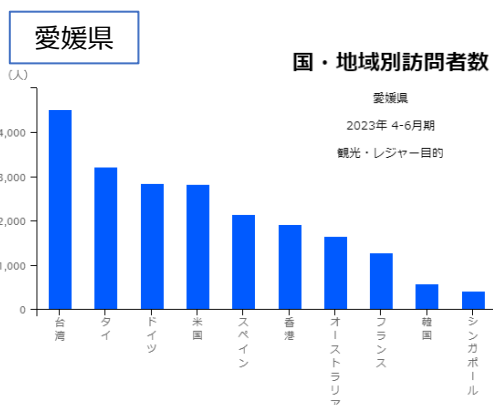
データ更新日:2023/07/28 6:50:39 UTC

◆従業員数 10 人以上の施設に対する調査から作成。
◆値はすべて確報値である。

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」

また、JNTOが公開している「地方ブロック別外国人延べ宿泊者数（全体）」の2022年データでは、四国に宿泊した外国人数は関東の100分の1程度であることが示されている。

一方、愛媛県および高知県に訪問した訪日客は、台湾や中国、タイといったアジア系が大多数を占めているが、欧米豪の国々からも2023年4～6月の3カ月間で1万人以上の訪日客がそれぞれ来県していることがわかる。



出典：観光庁「訪日外国人旅行者統計」より、愛媛県・高知県の2023年4-6月期観光・レジャー目的を抜粋（県名ラベルは別途追加）

上記の統計が示す傾向に加えて、お遍路が“Shikoku 88 Temples Pilgrimage”として過去に幾度か欧米で紹介されており、四国の“Shikoku Island”としての認知度は高まりつつある。また、本事業対象地域の一つである久万高原町には、ニューヨークタイムズ紙で紹介された四国八十八ヶ所霊場第45番札所の岩屋寺があることから、当該地域を訪れる海外からの観光客は今後も増加する可能性は十分考えられる。

1-3-2. 本事業の想定ターゲット

本事業では「サステナブルな旅行に関心の高い欧米豪旅行者」を前提としているが、当地域の状況は下記の通りである。

【欧米豪旅行者の来訪について ～地域の現状～】

- ・お遍路の訪日外国人は既に来ている（主に久万高原町）
- ・滞在時間や来訪により地域の消費拡大に繋がっているかが不明確
- ・交通手段や食事を含め、受入体制が整っていない
- ・観光に関わる事業者の人材不足、あるいは観光専従者でない関係者・協力者が多い
- ・販売窓口となるDMO等が一元化されておらず、明確なターゲット設定やセールスプランが整っていない。

上記を踏まえ、旅行者像と販売ステップについて設定し、コンテンツ造成を進めて行くこととした。

(1) 旅行者像

旅行者像は以下の通り。

1. 「日本の田舎」を好む旅行者

旅先として、良い意味で不便さや言語対応等の環境が整っていない場所・地域を好む＝東京・京都・大阪と同じ条件を求めない。

2. 自然愛好家

山奥の自然を楽しみたいと考える旅行者。トレッキングや里山歩き、温泉などのアウトドアアクティビティを好む。

3. 文化探求家

日本の田舎の風習や伝統文化に興味を持つ旅行者。地元の祭りや伝統行事、工芸品作りの体験を好む。

4. 食文化に興味を持つ旅行者

地域の食文化を楽しみたいと考える旅行者。地元の食材を使った郷土料理や共同調理を好む。

5. 交流を重視する旅行者

田舎の暮らしや地域の人々との交流を楽しみたいと考える旅行者。地元の人との交流や体験を好む。

(2) 販売ステップ

これらのターゲットの要素を考慮しながら、当地域への誘客ならびに造成するコンテンツの受入側の負担を考慮し、

まずは海外の旅行会社に向けての販売を前提に進める方向とした。主な理由は下記の通り。

- **旅行中のサポート**：旅行者が旅行会社を通じて予約することで、旅行中のサポートが受けられる。言語の壁やトラブル時の対応など、安心して旅を楽しめる環境を提供できる。
- **地域の支援**：特に欧米豪市場の旅行会社にとっては、旅を通じた地域への貢献が重要視されており、地域経済や地域振興への貢献が期待できる。
- **地域側の負担軽減**：旅行会社からの送客が実現することで、将来的には計画的な受入れの見通しが立てやすくなる（毎年、春や秋に送客がある。等）。その結果、人材不足が懸念されるコンテンツや食事、宿泊等を担う地域側の観光従事者も人員配備等の見通しが立てやすい。

四国カルストを核とした観光振興の観点の

2. サステナブルな観光コンテンツの造成

- 2-1. 観光資源の選定
- 2-2. 観光コンテンツの企画・開発
 - 2-2-1. コンテンツ開発の方向性
 - 2-2-2. コンテンツ候補
- 2-3. 意識醸成セミナーの実施
 - 2-3-1. 実施概要
 - 2-3-2. 実施内容詳細
 - 2-3-3. 実施成果と課題
- 2-4. モニターツアーの実施
 - 2-4-1. 実施概要
 - 2-4-2. モニターツアー詳細
 - 2-4-3. 視察内容と評価
 - 2-4-4. 意見交換会
- 2-5. 観光コンテンツの磨き上げ
 - 2-5-1. 商品造成の方向性
 - 2-5-2. 造成コンテンツ

2-1. 観光資源の選定

1-1-2項の現地調査で示した11個の観光資源から、以下の選定条件をもとに基本コンセプトとなるキーワードを抽出した。

【選定条件】

- 受け入れへの理解や協力意向があること
- 受け入れ側に無理や負担が生じないこと
- サステナブルの観点から、磨き上げ効果（得に経済効果）が期待できるもの

【キーワード】

Off-the-beaten-path（ひと気のない）、**Community-Based**（地域主体、住民主体）

上記の選定条件と本事業のコンセプトが合致し、コンテンツ候補として実現性が高いものを以下のように選定した。

No.	エリア	観光資源候補	選定／統合／見送り
1	共通： 四国カルスト (久万高原町)	E-bike、 キックボードの活用	選定
2	共通： 四国カルスト (津野町)	天文台 プラネタリウム	選定
3	共通： 四国カルスト (津野町)	セラピーロード、 キャンプ場	見送り ⇒新たなコンテンツの掘り起こし要素が 少ないと考えられたため
4	久万高原町	遍路体験	選定
5	久万高原町	久万高原産の 野菜を活用したヴィーガン食	選定 ⇒道の駅さんさんを利用した交流型コン 텐츠として
6	久万高原町	農泊体験	統合 ⇒宿泊、食体験コンテンツ候補として
7	久万高原町	石鎚山登山	見送り ⇒新たなコンテンツの掘り起こし要素が 少ないと考えられたため
8	津野町	お茶活体験	統合 ⇒体験を提供する宿泊施設をヴィーガ ン・ベジタリアン対応可能な宿泊候補として
9	津野町	津野山古式神楽	選定
10	津野町	貝の川棚田	選定
11	津野町	ジップライン体験 (四国カルスト県立自然公園内)	選定

2-2. 観光コンテンツの企画・開発

2-2-1. コンテンツ開発の方向性

2-1.項の表で示した観光資源のうち「選定」としたものについて、観光資源を組み合わせ、現地調査の結果を踏まえてコンテンツ候補としての方向性をより具体的に検証した。その結果を以下に示す。

(1) 共通：四国カルスト（久万高原町） E-bike、キックボードの活用

- 天狗高原～五段高原～姫鶴平～大野ヶ原を巡るロングルートの検討
- 外部人材（ガイド）の活用

現在、両町所有のE-bikeのレンタルが四国カルストのそれぞれの拠点で可能だが、ガイド付きの商品はないため、ガイド付きで四国カルストの地形や歴史を学びつつサイクリングを楽しめるようなコンテンツを設計する。

- 1市4町の連携

E-bike、キックボード等を複数の市町で連携して運用可能かどうか検討する。

経済効果を検討するにあたり、拠点となる宿泊施設（星ふるヴィレッジTENGU）でのデイリーユースや、チェックインからチェックアウトまでの時間を有効活用できる可能性がある。

(2) 共通：四国カルスト（津野町）天文台・プラネタリウム

- 旅行会社向け（英語対応）の特別プラン：津野山古式神楽 x プラネタリウム = 鑑賞と交流
- 冬季のコンテンツ、雨天時の代替プラン

他の宿泊者と一緒に楽しむような特別感があり、冬季の消費機会につながるような設計をめざす。

(3) 久万高原町：遍路体験

- お遍路四国霊場44番大寶寺と45番岩屋寺間の歩き遍路

44番・45番札所の間は、すでに歴史・文化を体感できるウォーキングルートとして訪日客にもすでに人気がある。本コンテンツにおいては、お遍路の意味やその歴史・文化を理解し、往時の修行としてのお遍路をリアルに体感してもらえるよう、コンパクトながら本格的な体験ができるように設計する。

- お寺での交流、宿坊の活用、装束の試着
- お先達さんや地域関係者との連携
- お遍路弁当（修行のメニュー）

歩き遍路ルートを訪日客にただ歩いてもらうだけでなく、上記のような活用・連携・購入を通して、地域への経済効果をもたらせるような設計とする。

(4) 久万高原町：久万高原町産の野菜を活用したヴィーガン食 ⇒道の駅「天空の郷さんさん」での食の体験

- 地元食材が集まる道の駅の活用
- 地域の方と一緒に買い物、共同調理

道の駅で自由に買い物をするのではなく、生産者の方や地元の方との交流を含めた形の体験としてコンテンツ化を検討する。

(5) 津野町：貝の川棚田保存会との交流

- 棚田ウォークや保全活動への参加、キャンドルづくり、集落の方との交流
棚田保存会や地域住民の皆さんとの交流を通して、自然景観の保全や集落での暮らしについて学べるような体験のコンテンツ化を検討する。

(6) 津野町：津野山古式神楽保存会との交流

- 地元の神社で続けられている練習会に参加し、神楽の鳴り物を体験したり保存会メンバーと交流
地域の無形文化財継承の取り組みについて、練習の見学や地域住民の方々との交流を軸とし、その地域の暮らしを深く体感できるよう体験コンテンツ化の可能性を検討する。

(7) 津野町：津野の森遊び

- フォレストアドベンチャー・高知のジップライン体験 x 交通手段 x 地元のランチ
「森遊び」と称して、タクシーまたはチャーターバスといった交通手段と地元の食堂を組み合わせる方向でコンテンツ化を検討する。

2-2-2. コンテンツ候補

前述の観光資源選定の結果、コンテンツとして以下の7つの候補を選定した。また、各コンテンツ候補には、第一推進エリアである四国カルスト共通エリア、第二推進エリアの久万高原町エリアと津野町エリアをそれぞれ、SK、K、Tという識別IDで管理することとした。

No.	エリア	コンテンツID	コンテンツ候補
1	四国カルスト	SK-1	四国カルスト大散策（E-bike、キックボード等の活用）
2	四国カルスト（津野町）	SK-2	天文台・プラネタリウム
3	久万高原町	K-1	お遍路体験
4	久万高原町	K-2	ローカルの生活体験
5	津野町	T-1	貝の川棚田保存会との交流
6	津野町	T-2	津野山古式神楽保存会との交流
7	津野町	T-3	津野の森遊び

2-3. 意識醸成セミナーの実施

2-3-1. 実施概要

本セミナーは、事業対象地域全体でのサステナブルなコンテンツの造成に向けた意識の醸成や共通理解の促進を目的として、観光に従事する方々を対象に、2名の専門家によるサステナブルな観光に関する講演が行われた。また、その翌日には、本事業で造成中のコンテンツを連携地域間で相互に体験し理解を深めていただくとともに、いただいたフィードバックを11月実施のモニタツアーに活かすことを目的に実地セミナーも実施した。

<1日目> サステナブルな観光の意識醸成セミナー

- 日時 : 令和5年10月24日(火) 13:00 ~ 16:00
- 会場 : 久万高原駅やまなみ 2階多目的ホール 及び オンライン
- 参加者 : 計28名(会場参加16名、オンライン12名)
- 講演 :
 - ①国際観光の動向と地域振興
〈スピーカー〉 国連世界観光機関 (UNWTO) 駐日事務所 飯田 明博氏
 - ②地域連携による持続可能な観光(サステナブルツーリズム)の推進
〈スピーカー〉 香川大学 原 直行氏
 - ③参加者の意見交換会
〈ファシリテーター〉 リベルタ株式会社 林 美希子

<2日目> 実地セミナー: コンテンツ相互体験

- 日時 : 令和5年10月25日(水) 10:00 ~ 16:00
- 会場 : 久万高原町 及び 津野町
- 参加者 : 久万高原町13名、津野町16名
- 実地セミナー :
 - ①コンテンツ1 お遍路体験(大寶寺)
 - 歩き遍路の前段階として、お遍路の世界に対する理解を深める流れを体験する。
 - コンテンツ候補K-1のプロトタイプとしての検証。
 - ②コンテンツ2 貝の川棚田保存会との交流とペットボトルキャンドルの製作体験
 - 地域での体験を通して理解深めるコミュニティベースドツーリズムを体験する。
 - コンテンツ候補T-1のプロトタイプとして検証。

実施内容詳細については、1日目の講演を2-3-2-1、2日目の実地セミナーを2-3-2-2に示す。

2-3-2. 実施内容詳細

2-3-2-1. サステナブルな観光の意識醸成セミナー

(1) 講師紹介

サステナブルな観光の意識醸成セミナー

令和5年10月24日（火）13：00～16：00

会場：久万高原駅やまなみ 2階多目的ホール 及び オンライン



＜講師＞ **飯田明博氏**（国連世界観光機関（UNWTO）駐日事務所 企画部 課長）2009年10月、奈良県庁入庁。防災・危機管理部局、土木事務所勤務を経て、「なら歴史芸術文化村」開業に携わる。2022年4月から UNWTO 駐日事務所企画部課長として出向。主に、持続可能な観光地経営、観光危機管理等の業務に従事。



＜講師＞ **原直行氏**（香川大学副学長・香川大学経済学部 教授）1997年 東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了。博士（農学）1998年 香川大学経済学部 講師（現、教授）。専門は地域活性化論、エコツーリズム論、グリーンツーリズム論。2011年に大学を退職し、四万十川の自然体験型宿泊施設にてカヌーガイドとして働きながら研究に従事するなど、研究者もフィールドでアクションを起こしながら研究する「アクション・リサーチ」の手法を取り入れて、観光による地域活性化研究を行っている。

(2) タイムライン

時間	内容	担当
13：00	開会挨拶	国土交通省 四国運輸局
13：05	参加者紹介	—
13：10	講演1 【主題】国際観光の動向と地域振興	国連世界観光機（UNWTO） 駐日事務所 飯田 明博 氏
14：10	〈休憩〉	
14：20	講演2 【主題】地域連携による持続可能な観光（サステナブルツーリズム）の推進	香川大学 原 直行 氏
15：20	〈休憩〉	—
15：30	意見交換	ファシリテーター リベルタ株式会社 林 美希子
15：55	総括	国土交通省 四国運輸局

(3) 参加者一覧

順不同・敬称略					
	区分	氏名	所属	役職	セミナー
1	久万高原町	岡 誠也	久万高原町 ふるさと創生課 観光振興班	班長	○
2	久万高原町	正岡 健司	(一社) 久万高原町観光協会	事務局長	オンライン
3	久万高原町	岡部 史夫	久万高原町議会議員	副議長	○
4	久万高原町	露口 光隆	伊予銀行 久万支店	支店長	○
5	久万高原町	中野 太一	株式会社 久万総合開発 久万スキーランド	支配人	オンライン
6	津野町	大崎 陽子	津野町 観光推進課	課長	○
7	津野町	川田 明男	津野町 観光推進課	課長補佐	オンライン
8	津野町	久保浦 彩	津野町 観光推進課		オンライン
9	津野町	高橋 芙柚音	津野町 観光推進課		○
10	津野町	大崎 正	貝ノ川棚田保存会	会長	オンライン
11	津野町	大崎 健司	フォレストアドベンチャー・高知		オンライン
12	オブザーブ	魚住茂男	愛媛県観光スポーツ文化局 観光国際課	主幹	オンライン
13	オブザーブ	末廣祐之	愛媛県観光スポーツ文化局 観光国際課 国際プロモーショングループ	担当係長	オンライン
14	オブザーブ	井原英詔	愛媛県観光スポーツ文化局 観光国際課 国際プロモーショングループ	担当係長	オンライン
15	オブザーブ	高内 輝	愛媛県観光国際課 観光戦略係	観光戦略係長	オンライン
16	オブザーブ	大川真一郎	梶原町 産業振興課	課長	○
17	オブザーブ	柏田太郎	高知県 観光振興部 地域観光課	課長補佐	○
18	オブザーブ	松本 勝	株式会社 ソラヤマいしづち		○
19	オブザーブ	大寺 宏典	(一社) 愛媛県観光物産協会	シニアマネージャー	オンライン
20	オブザーブ	小野 健太	(一社) 愛媛県観光物産協会		オンライン
22	オブザーブ	井上 裕基	西予市役所 経済振興課	課長補佐	オンライン
23	オブザーブ	正司 哲郎	(一社) 西予市観光物産協会		オンライン
24	事業実施主体	上戸 康弘	国土交通省 四国運輸局	観光部 次長	○
25	事業実施主体	福島 史晃	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 課長	○
26	事業実施主体	青井 孝憲	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 課長補佐	○
27	事業実施主体	武市 琉来	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 係員	○
28	事業実施主体	玉谷 希歩	国土交通省 四国運輸局 愛媛運輸支局	総務・企画観光部門 係員	オンライン
29	事業実施主体	山本 圭	国土交通省 四国運輸局 高知運輸支局	総務・企画観光部門 首席運輸企画専門官	オンライン
31	受託事業者	林 美希子	リベルタ株式会社 トラベル事業部地域開発部	執行役員 兼 部長	○
32	受託事業者	石飛 千恵	リベルタ株式会社 トラベル事業部地域開発部	トラベルコンサルタント	○
33	受託事業者	横内 直子	リベルタ株式会社 トラベル事業部地域開発部	トラベルコンサルタント	○
34	受託事業者	柏原 真智子	リベルタ株式会社 トラベル事業部地域開発部	トラベルコンサルタント	オンライン

(4) 講演内容

①国際観光の動向と地域振興（60分）

〈スピーカー〉 国連世界観光機関（UNWTO）駐日事務所 飯田 明博氏

■ 要旨

UNWTOの紹介

国連の専門機関で、観光分野における世界最大規模の組織。165カ国・地域のほか、500超の賛助加盟員から構成され、持続可能な観光の促進を行っている。奈良にある駐日事務所は、アジア太平洋を支援。2022年には、UNWTOガストロノミー・ツーリズムの国際フォーラムが奈良県で開催された。



国際観光の動向

- ・国際観光客の到着数と観光収入はコロナ禍前の2019年比で2022年時点で70%近くまで回復
- ・2023年上半期、中東は国際観光客の到着数が2019年比で20%増、アジア太平洋は39%減
- ・日本のインバウンドおよびアウトバウンドの数は共に低水準（2019年の1/6以下）
- ・UNWTO観光専門家委員会による調査結果：
 - 自国の国際観光がコロナ前の水準に戻るのは「2024年と予想」が40%弱で最多。
 - 現在の世界的な経済環境で2023年の消費者行動に「旅行が影響を受けると思う」は10%弱
 - 最も回復が早いと思う旅行形態は順に、「都市型」、「海・山」、「自然・山」、「会合」、「田舎」

持続可能な開発目標（SDGs）と観光

- ・SDGsの取り組みと観光は密接にかかわっている。
- ・JTB総合研究所による調査結果
 - SDGsに対する生活者の意識と旅行についての意識比較（日本、ドイツ、オーストラリア、タイ）
 - ⇒旅行先の地域やサービス提供者のSDGsの取り組み具合に対する意識は日本では低い

持続可能な観光地域経営、観光と地域振興

- ・持続可能な観光＝現在・未来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する観光
- ⇒観光客が増えたとこのバランスが崩れる。
 - パラオの事例：観光客急増→海洋環境の悪化
 - ⇒環境保全に合意する署名を入国ビザに要求。違反者には罰金も。（世界初）
 - スペイン・ナバラの事例：ごみ問題→リサイクル目標策定
 - ⇒観光客にも適用可能なリサイクル対策としてリユースカッププログラムを開始
- ・地域関係者の連携とデータモニタリングによるPDCAサイクルが重要

(4) 講演内容 (続き)

②地域連携による持続可能な観光 (サステナブルツーリズム) の推進

〈スピーカー〉 香川大学 原 直行氏

■ 要旨

中小企業DXの研究

- ・労働生産性を上げるには、DX導入が不可欠

【DX導入の成功要因の分析結果】

「ビジョンを持った中小企業がDX導入の必要性を認識し(危機感も持ちながら)、経営者のリーダーシップのもと、全社一體的な取組を行っているところがDX導入に成功している。」



マーケティングの基本

- ・「誰に」「何を」「どのように」得るのか
- ・サービスの4つの特性「形がない」「生産と消費が同時」「提供者・条件によって変わる」「保存不可」
- ・プロダクトアウト VS マーケットイン
⇒サステナブルツーリズムのコンテンツ造成にあたってはどちらが重要か？

観光地ではないところの観光振興

- ・おちかアイランドツーリズムの「島暮らし体験」の事例⇒過ごし方の提案が大切
- ・雪国観光圏(観光圏、地域連携DMO)⇒町全体のブランディング (トライ&エラーの繰り返しで10年)
- ・どうやって人手を集めるか？⇒体験価値の提供はどうだろうか？

リピーターになってもらうのに必要なこと

- ・観光ロイヤルティ = 顧客満足度が高いと、口コミやリピーターが増える ←従来の考え方
= 地域とのつながりがあると、リピーターが増えるのではないか。←ただいま研究中
⇒つながりとは、その地域やその土地の人への愛着、大切に思う気持ちではないか。
⇒ということは、その土地の人との出会いや交流も影響があるのでは？
⇒住民に味方になってもらい、住民を巻き込んだ観光地域づくりが重要
⇒「観光」とは「感幸」である。

(5) 意見交換会

2つの講義の後、参加者から、マーケティング手法の活用や地域との関係づくり等に関する質問が出され、講演者が回答した。ファシリテーターはリベルタ株式会社 林が務めた。

■ 質疑応答（一部抜粋）

①マーケティング戦略について

【愛媛県久万高原町 ふるさと創生課 観光振興班 岡 誠也氏】

最近現場からは、バス等を使って中国語や韓国語を話す観光客が四国カルストに訪れるのをよく目にする、と聞いている。このようにインバウンド観光客が増加する中、地方自治体間でのインバウンドの引き込み競争に勝つには、どのようなマーケティング戦略が必要か、取り組みの事例も含めて飯田さんにお聞きしたい。

【国連世界観光機関（UNWTO）駐日事務所 飯田 明博氏】

テーマツーリズムや長期滞在プランなど、特定のテーマや体験に焦点を当てるとよいのではないだろうか。たとえば、奈良県の飛鳥村では古墳ツーリズムが注目されているが、「石の文化」をテーマに全国を旅する訪日客もいる。また、長期滞在者には、四国カルストなどの自然美だけではなく地域の特色や触れ合い体験を提供し、地元の魅力を強調して魅力的な滞在体験を提供するとよいと思う。

【愛媛県久万高原町 ふるさと創生課 観光振興班 岡 誠也氏】

ありがとうございます。それでは次に、原先生にお聞きます。行政機関においても、マーケットインの視点からのアプローチが重要でしょうか？また、四国カルストーリーのようなブランド構築をして外部に発信したり、観光庁が推進している「第2のふるさとづくり」のような取り組みもやるべきかどうか、ご意見を伺いたい。

【香川大学 原 直行氏】

マーケットインのアプローチは、地域の資源やコンセプトを活かすために重要だが、地域の資源を活かしたストーリーを作り上げる場合はプロダクトアウトのアプローチも有効だと考える。たとえば、四万十川のカヤックガイドをしていたとき、自分が感動する要素をたくさん集めたら、結果的に後から自分の伝えたいコンセプトに気が付いた、ということがあった。ストーリーはプロダクトアウトで作って、マーケットイン的な発想を後から考えるという方法もあると思う。



■ 質疑応答（続き）

②地域との関係づくりについて

【リベルタ株式会社 林 美希子】

現地調査のときから、岡さんや大崎さん、ガイドの松本さんからはすぐに地域や関連のある人の情報をいただくことができた。普段、観光という切り口で、どのように地域の人々と関わりながら活動を推進しているのか伺いたい。

【津野町役場 観光推進課 大崎 陽子氏】

津野町は観光協会がないので、観光推進課の職員が様々な業務を引き受けている。多くの観光施設の指定管理も行っているので、その意味では情報伝達が一元化されていると思う。ただし、人材不足は否めないもので、地域全体をどう盛り上げていくかはずっと課題である。

【香川大学 原 直行氏】

観光協会は隠れ蓑のイメージがあるが、無ければ無いで大変だと思う。近年ではDMOの成功事例もあるので、このDMOという方向性もあるのでは。

【株式会社ソラヤマいしづち 松本 勝氏】

自分はDMOの立場だが、我々も一切補助がなく少ない人数でやりくりしている。様々な事業を請け負う中で、地域の宝である伝統や人をつなげるのが我々の役目である。こうした宝を旅行会社がストーリーとしてつないでもらえるよう連携していければと思う。

■ 終わりに

【リベルタ株式会社 林 美希子】

世界のサステナブルな観光の動向から、地元に入っていく話等、講師のお2人のお話には様々な共通点があった。今回のお話や他地域の事例を参考にしながら、我々も現地調査を通して見えてきた共通の課題を11月のモニターツアー、そして、さらに先を見据えて検証を進めていく。その際は、関係各位と情報共有しつつ、ご相談もさせていただきたい。

【四国運輸局 観光地域振興課 福島 史晃氏】

講師のお二人にはわかりやすいお話をありがとうございました。事業を進めるにあたり、地域の皆様のバイタリティにはいつも感心します。2023年の持続可能な観光地トップ100に、四国からは3つの地域が選出されているが、トップランナーの地域として、本事業においても引き続き皆さまのご協力をお願いしたい。



2-3-2-2. 実地セミナー：コンテンツ相互体験

(1) タイムライン

➤ 令和5年10月25日（水）10:00～16:00

➤ 会場：久万高原町 及び 津野町

時間	内容	備考
9:50	大寶寺駐車場 集合	住所：愛媛県上浮穴郡久万高原町菅生827 (地藏堂横)
10:00	コンテンツ1 お遍路体験（大寶寺）	
11:30	昼食・意見交換（大寶寺にて）	お弁当を用意しています
12:30	会場移動（貝ノ川の棚田へ）	※再集合場所（駐車場）は後日ご案内
14:00	コンテンツ2 貝ノ川棚田保存会との交流	ペットボトルキャンドルの製作体験
16:00	終了	

(2) 参加者一覧

順不同・敬称略			
	区分	氏名	所属
1	久万高原町	岡 誠也	久万高原町 ふるさと創生課 観光振興班
2	久万高原町	藤原 百梨奈	(一社) 久万高原町観光協会
3	津野町	大崎 陽子	津野町 観光推進課
4	津野町	川田 明男	津野町 観光推進課
5	津野町	大崎 正	貝ノ川棚田保存会
6	オブザーブ	矢野 貴大	高知県 観光振興部 地域観光課
7	オブザーブ	坂本 憲昭	四国ツーリズム創造機構
8	オブザーブ	小野 健太	(一社) 愛媛県観光物産協会
9	オブザーブ	マンディ・バートック	
10	事業実施主体	上戸 康弘	国土交通省 四国運輸局
11	事業実施主体	福島 史晃	国土交通省 四国運輸局
12	事業実施主体	青井 孝憲	国土交通省 四国運輸局
13	事業実施主体	武市 琉来	国土交通省 四国運輸局
14	受託事業者	林 美希子	リベルタ株式会社 トラベル事業部地域開発部
15	受託事業者	石飛 千恵	リベルタ株式会社 トラベル事業部地域開発部
16	受託事業者	横内 直子	リベルタ株式会社 トラベル事業部地域開発部

(3) 体験内容

① コンテンツ1 お遍路体験（大寶寺）

《体験の流れ》

- 大寶寺に集合後、境内の宿坊にて僧侶大西康覚氏から四国遍路と弘法大師の概要説明
- 大先達 越知カヨコ氏のお遍路装束について大西氏と越知氏より説明
- 参拝に使用する納札に参加者各自が氏名・住所・願い事を記載し、本堂前へ移動
- 本堂前にて、越知氏より参拝方法の説明後、各自参拝
- 大西氏と越知氏の先導により、納経
- 大師堂にて同様に参拝・納経
- 宿坊に戻り昼食・懇談



大寶寺 仁王門



大西康覚氏の法話と装束の説明



会場（宿坊広間）



参拝方法の説明



納経の説明



歩き遍路を想定した昼食

(3) 体験内容（続き）

② コンテンツ2 貝の川棚田保存会との交流とペットボトルキャンドルの製作体験

《体験の流れ》

- 貝ノ川地区の棚田に集合後、棚田が一望できるポイントへ移動
- 貝ノ川棚田保存会会長 大崎正氏より、同地区の概要説明、並びに保存会活動の説明とペットボトルキャンドルの作成方法の説明
- 参加者各自、ペットボトルキャンドルを作成、設置
- 交流センターへ移動後、参加者全員で振り返り



集合



保存会とペットボトルキャンドルの作り方の説明



ペットボトルの裁断



キャンドルの設置



完成の様子



振り返り

2-3-3. 実施成果と課題

本事業対象地域では、山間部でアクセスに時間もかかるため、相互の地域を訪れて実際にその地域のコンテンツを体験する機会は多くない。今回の機会により、他地域での実施内容を参加者全員がより深く知ることができ、各自の地域で何ができるかを考えるきっかけを提供する場になった。

貝の川棚田のキャンドル製作体験の参加者からは、以下のコメントをいただいた。

- ・ 持続性の観点からは収益を上げる取組みが必要と感じた。現在イベントで実施されている募金箱を電子マネーにするのも一案。
- ・ 収益化⇒協力者への報酬の構図ができるとうい。
- ・ 棚田が神楽や田舎歌舞伎の披露の場になっている点についても評価されるべき

コンテンツを磨き上げるにあたり、実際にコンテンツ候補を実施したことで、以下の課題が抽出された。

《課題》

- 大寶寺での僧侶ご説明の英語対応

インバウンド向けを想定した場合、ガイドが通訳する想定では、僧侶のご説明を遮る必要性が生じる。この点の運用方法について、話者へのご理解をお願いすると同時に、ビジュアルツールの英語表記等を検討することとした。

- 貝ノ川棚田のペットボトル

ペットボトルの使用については、欧米豪市場に詳しい参加者からは疑問の声があがった。この点については、コンテンツの中でペットボトルをなぜ使用するのかを、環境保護の問題だけにとらわれず、地域全体の状況を丁寧に説明する必要があると感じた。

2-4. モニターツアーの実施

2-4-1. 実施概要

2-4-1-1. 目的

本モニターツアーは、下記目的のもとに実施した。

- ・商品開発：開発中の観光コンテンツの内容や練度の検証（明確な課題抽出）
- ・ツール検証：サステナブルの理解促進につながるツールの実地検証

2-4-1-2. 実施概要

本モニターツアーは下記の通り実施した。

- ・実施回数：1回
- ・モニター対象者：観光コンテンツ造成、受入環境及びその後の販売に対する助言ができる外国人専門家、アドバイザー等
- ・参加人数：3名
- ・実施日数：3泊4日（参加者の一部は前後で松山駅、高知駅周辺等に宿泊）
- ・実施時期：2023年11月11日（土）～14日（火）
- ・IN：JR松山駅（空路利用者は松山空港）OUT：JR高知駅（空路利用者は高知空港）

(1) 実施体制

- ①行程への同行
四国運輸局
- ②視察先での受入れ対応
視察地域の自治体及び観光協会、事業者、ガイド等
- ③モニターツアー催行者
リベルタ（株）（受託事業者） 東京都 第2種 7699号 旅程管理：林美希子

(2) 招請専門家

マンディ・バートック氏



アメリカ出身。東京在住。日本47都道府県すべてを調べ、まだ知られていない日本の地方エリアの食・体験・祭りなどの情報を自身主催のオンラインメディア「Uncover Japan」で海外へ発信。ジャバントラベルやジャパタイムズでの日本旅行関連の記事執筆のほか、旅行関連オンラインサイトや出版物の制作にも携っている。また、「ストーリー」という無形のものをいかに価値化するか、どう顧客に伝えるかを自らプロガイドとして体現。

小峰 邦良氏



リトルピークス代表。長野県在住。中部山岳ガイド協会所属。物心ついた時から山、林、森、川に親しみ、年間最多ガイド数は250日を超える。ラフティングガイド、シャワークライミングガイド、ケイビングガイド、スノーシューガイド、ネイチャースキーガイド、バックカントリーガイド、長良川冒険学校校長、ランチマネジャーなどを経験。6年前に自分の理想郷乗鞍を舞台にリトルピークスを設立。

ウイロビー 晃恵氏



一般社団法人佐渡観光交流機構 事業本部 副部長
観光業に携わり始めて今年で16年目。佐渡島に生まれ高校まで佐渡、その後は新潟やアメリカで学生時代を過ごし、佐渡へUターン。VJTMへの出展やアジアやアメリカを中心に海外セールスを展開する。2021年にはJSTS- Dモデル地区を通じてグリーンデスティネーションズの「世界の持続な観光地 100選」の認定に尽力。GSTCのトレーニングプログラムを受講後、STTP認定試験に合格。ツアーの造成や受け入れの中で、地元・受け入れ施設・観光客にとっての「持続可能な観光」をどう進めるべきか、日々考えている。

2-4-1-3. 評価シートの作成

商品化に向けた課題抽出ならびに磨き上げのため、下記の評価項目を設定し、各所の視察を行った。

評価対象の分類

1. コンテンツ（体験） 2. 宿泊と食事 3. サステナビリティ 4. 情報ツール 5. 全体意見

分類ごとの評価項目

1. 各コンテンツ（体験）に関する評価

①旅行者目線での適正価格はいくらか？ * 4~6名参加時の一人当たり料金（税込）

《選択評価：5,000円以下、5,001~7,500円、7,501円~10,000円、10,001円~12,500円、12,501円~15,000円、15,000円以上》

②体カレベルはどうか（歩き遍路体験と津野の森遊び フォレストアドベンチャーのみ）《数値評価：5-4-3-2-1》

③体験を通じて地域に貢献できる内容か《数値評価：5-4-3-2-1》

④ストーリー性は十分あるか《数値評価：5-4-3-2-1》

⑤四国カルスト地域ならではの価値・独自性があるか《数値評価：5-4-3-2-1》

⑥地域の人との交流ができる体験内容か《数値評価：5-4-3-2-1》

⑦顧客自らが能動的に楽しめる体験内容か《数値評価：5-4-3-2-1》

⑧体験コンテンツに関する情報として、情報ツール（インフォメーションパック）にどのような情報を入れると良いか《記述式》

⑨ 1. に関する全体コメント《記述式》

2. 食事や宿泊に関する評価：《数値評価：5-4-3-2-1》

・四国カルスト地域ならではの価値・独自性があるか

・訪日旅行者ニーズへの対応、フレキシビリティがあるか

* 2. に関するコメント《記述式》

3. 全体：四国カルスト地域のサステナビリティに関する評価：JSTS-D指標

①環境に関すること《数値評価：「重要度」5-4-3-2-1-非該当、「達成度」5-4-3-2-1》

・省エネルギー（D7）

・廃棄物削減（D11）

・環境負荷の小さい交通手段（D13）

・飲料水に関する情報提供（D9）

・生態系や野生生物等の保護（D4）

・自然遺産における旅行者のふるまい（マナー）の整備（D3）

* ①全体に関するコメント《記述式》

分類ごとの評価項目（続き）

3. 全体：四国カルスト地域のサステナビリティに関する評価：JSTS-D指標（続き）

②文化に関すること《数値評価：「重要度」5-4-3-2-1-非該当、「達成度」5-4-3-2-1》

- ・地域の祭りや伝統文化の継承（C3）
- ・文化遺産における旅行者のふるまい（マナー）の整備（C7）
- ・地域の観光資源の解説を地域住民と協力して作成（C8）

* ②全体に関するコメント《記述式》

③社会経済に関すること《数値評価：「重要度」5-4-3-2-1-非該当、「達成度」5-4-3-2-》

- ・地域の特産品やサービスの利用促進(B3)
- ・地域の観光関連企業が参入しやすい(B3)
- ・観光関連事業者への就労促進につながる(B2)
- ・旅行者、観光関連事業者、住民が共に地域の文化・自然環境への保全に貢献できる(B4)
- ・多言語による案内の充実(B8)
- ・多様な宗教・生活習慣への対応(B8)

* ③全体に関するコメント《記述式》

4. 情報ツールについて

- ・情報ツール（ルールやマナー）の内容は十分か《数値評価：5-4-3-2-1》《記述式》
- ・情報ツール（ピクトグラム等）は理解しやすいものだったか《数値評価：5-4-3-2-1》

5. 全体意見《記述式》

四国カルスト地域の魅力

- ①コンテンツのコンセプトについての意見
- ② 持続可能な観光地域としての誘客における課題や可能性など《記述式》
- ③ その他

2-4-2. モニターツアー詳細

(1) モニターツアー参加・同行者

モニターツアーには、下記のメンバーが参加・同行した。

順不同・敬省略

所属団体	部課	役職	氏名	同行日
1. 招請専門家				
Uncover Japan代表 プロフェッショナルガイド			マンディ・バートック	11/11-14 (全行程)
リトルピークス代表 プロフェッショナルガイド			小峰 邦良	
(一社) 佐渡観光交流機構			ウイロビー 晃恵	
2. 連携先				
愛媛県 久万高原町	ふるさと創生課	観光振興班 班長	岡 誠也	11/11-14
(一社) 久万高原町観光協会		事務局次長	矢野 豪	11/13-14
高知県 津野町	観光推進課	課長	大崎 陽子	11/14
	観光推進課	課長補佐	川田 明男	11/13-14
3. 事業実施主体				
四国運輸局	観光部	次長	上戸 康弘	11/11-12
	観光部 観光地域振興課	課長補佐	青井 孝憲	11/13-14
		係員	武市 琉来	11/13-14
4. 受託事業者 (モニターツアー催行者)				
リベルタ (株)	トラベル事業部	執行役員	林 美希子	11/11-14 (全行程)
		トラベルコンサルタント	石飛 千恵	
		トラベルコンサルタント	横内 直子	

(3) 行程表

下記の行程で各所を視察した。

日/曜日		時間		内容	場所
		IN	OUT		
11月11日	土			松山入り	松山市
				【東京】NH585 HND 09:25 - MYJ 11:00	
				【大阪】NH1637 ITM 10:05 - MYJ 11:00	
		11:00	14:00	チャーター移動	
		11:30	12:30	昼食・フリーフィン	
		12:30	14:00	移動：松山市→久万高原町	
		14:00	15:00	【K-2】ローカルと一緒に買い物@道の駅	久万高原町
		15:30	—	ふるさと旅行村 チェックイン	
		17:00	19:00	夕食：ふるさと旅行村（ビーガンカレー）	
		—	—	宿泊：ふるさと旅行村	
11月12日	日		7:45	朝食：各自バンガローにて（道の駅さんさんのパン）	久万高原町
		8:00	8:20	チェックアウト、移動	
		8:30	10:00	【K-1】お遍路体験●大寶寺	
		—	—	装束準備	
		—	—	昼食：お弁当（古岩屋荘）	
		10:00	15:00	●歩き遍路	
		15:00	16:00	●岩屋寺	津野町
		16:00	18:00	移動：岩屋寺→大寶寺駐車場 大寶寺駐車場→四国カルスト・天狗高原	
		18:00	—	星ふるヴィレッジTENGU チェックイン	
		18:00	18:45	天文台	
		19:00	20:00	夕食：星ふるヴィレッジTENGU（時間は現地で決定）	
		20:00	20:30	星空観賞	
		—	—	宿泊：星ふるヴィレッジTENGU	
11月13日	月	7:30	8:30	朝食	津野町
		8:45	8:55	チェックアウト、移動	
		9:00	12:00	【SK-1】カルストE-bike	
		12:00	13:00	移動：四国カルスト・天狗高原→津野町	
		13:00	14:00	昼食：吉村虎太郎邸	
		14:30	17:00	【T-3】津野の森遊び フォレストアドベンチャー	
		17:00	17:30	移動：フォレストアドベンチャー→せいらんの里	
		17:30	—	せいらんの里 チェックイン	
		18:00	18:40	夕食：せいらんの里	
		18:40	18:55	移動：せいらんの里→河内五社神社	
		19:00	21:00	【T-2】津野山古式神楽保存会との交流	
		21:00	21:15	移動：河内五社神社→せいらんの里	
		—	—	宿泊：せいらんの里	
11月14日	火	7:30	8:00	朝食	津野町
		8:30	9:00	チェックアウト、移動	
		9:00	12:00	【T-1】貝の川棚田保存会との交流 キックボード	
		12:00	13:00	昼食：いろは食堂	
		14:00	15:30	意見交換会	
		15:30	18:00	移動：津野町→高知駅/高知龍馬空港	
		17:30	—	高知駅下車	高知市
				【高速バス】高知駅18:20⇒松山駅	
		18:00	—	高知龍馬空港 下車	
				【東京】JL498 KCZ19:40-HND20:55	
				【大阪】NH1616 KCZ19:05-19:55	
		—	—	帰路へ	



(4) 情報ツールの作成

モニターツアー実施にあたり、招請者には事前に視察のポイントや地域の情報、日時の詳細な行程等を記載したインフォメーションパックを作成し、事前に配布した。また、各コンテンツのタリフ案と地域を訪問する際のルールブックも作成し、初日ブリーフィング時に配布した。なお、これらの情報ツールは日本語版と英語版をそれぞれ作成した。

①インフォメーションパック（日本語版）

Shikoku Karst monitoring tour

～ Off the beaten , and community-based tourism ～

Information Pack

11-14 Nov 2023 4 days, 3 nights
Kumakogen Town, Ehime Prefecture & Tsuno Town, Kochi Prefecture

東京から4時間、京都・大阪から3時間
4 hours from Tokyo,
3 hours from Kyoto and Osaka

Destination 滞在地

Purpose 目的
この度は四国カルストモニターツアーにご参加いただき、ありがとうございます。
今回のモニターツアーは、愛媛県と高知県にまたがる四国カルストを中心としたエリアにおいて、現在造成中のコンテンツを体験いただき、商品化に向けて働きかけたいことを目的としています。

- > テーマ：サステナブルツーリズム → 地域の「人」の参画を促進し、共に作り上げるコンテンツ
- > ターゲット：欧米観光市場、人垣離れた日本の地方部に関心のある旅行者
- > 地域の特性：インバウンド向けのコンテンツ開発や対応など、取り組み始めたばかりの地域です。
- > 商品造成の方向性：Community-based tourism

これまで観光向けに取り扱ってきた観光資源や人を中心に、体験の商品化を目指しています。

Itinerary ツアー行程表

1

日/曜日	時間		内容	場所
	IN	OUT		
11月11日	---	11:00	集合① 松山駅	松山市
	---	11:20	【乗車】 N885 NMD 09:25 - MYJ 11:00	
	---	11:20	【乗車】 N815 E7 ITM 10:05 - MYJ 11:00	
	11:00	11:30	チャーターバス乗車	
	11:30	12:30	昼食：ブルーフォンテ	
	12:30	14:00	到着：松山市～久万高原町	
11月12日	14:00	15:00	【K-2】 ローターと一瞬！買い物の準備	久万高原町
	15:30	---	ふるさと銀行村 チェックイン	
	17:00	19:00	夕食：ふるさと銀行村（ビーガンカレー）	
	---	---	宿泊：ふるさと銀行村	
	---	2:45	朝食：ふるさと銀行村にて（道の駅さんさんでん）	
	8:00	8:20	チェックアウト、移動	
	8:30	10:00	【K-1】 高知産物産物大市場	
	---	---	昼食：市場 惣菜作り取り（六丁道のばり）	
	10:00	15:00	※お昼寝	
	15:00	16:00	※到着	
11月13日	16:00	18:00	到着：津野町～久万高原町	津野町
	18:00	---	ふるさとレジャーステンド チェックイン	
	---	---	夕食：ふるさとレジャーステンド（焼酎は焼酎で乾杯）	
	18:00	18:45	夕食：フジタナウム	
	19:30	20:00	集合時間	
	---	---	宿泊：ふるさとレジャーステンド	
	7:30	8:30	朝食	
	8:45	8:55	チェックアウト、移動	
	9:00	12:00	【SK-1】 かんたんE-bike	
	12:00	13:00	移動：四国カルスト、実地観察～津野町	
13:00	14:00	移動：お昼休憩		
14:30	17:00	【IT-3】 栗原の産物ばい フォレストアドベンチャー		
17:00	17:30	移動：フォレストアドベンチャー→いらいらの湯		
17:30	---	【いらいらの湯】チェックイン		
18:00	18:40	夕食：いらいらの湯		
18:40	18:55	移動：いらいらの湯→白土神社		
19:00	21:00	【IT-2】 栗原の産物ばい 産物大市場との交流		
21:00	21:15	移動：産物大市場→いらいらの湯		
---	---	宿泊：いらいらの湯		
11月14日	7:30	8:00	朝食	津野町
	8:30	9:00	チェックアウト、移動	
	9:00	12:00	【IT-1】 栗原の産物ばいとの交流、お昼休憩	
	12:00	13:00	移動：いらいらの湯	
	14:00	15:30	高知空港集合	
	15:30	18:00	移動：津野町～高知駅	
	---	17:30	高知駅 到着	
	---	18:15	高知駅乗車 到着	
	---	---	【乗車】 N815 E7 ITM 18:00 - KTT 19:35	
	---	---	【乗車】 N815 E7 KTT 19:35 - 19:35	

* 当日の天候により、一部行程を変更する場合があります。
Some itineraries may be subject to change due to weather conditions on the day.

Travel Checklist 持ち物・諸注意

2

カルストは決して万全ではありませんが、旅行中の推奨アイテムとなります。

> **服装について**
四国カルスト地域では、この時期のツアーは肌寒く感じる場合があります。特に2日目に宿泊する四国カルスト・天狗高原は高地（標高1400m）のため、平地よりも気温が低く、風が強くなることが予想されます。必ず、防寒具と湿度調節のしやすい服装をお持ちください。
ハードなトレッキングはありませんが、訪問先の棚田やお道路遊歩は足元が不安定な箇所が多いため、歩きやすい靴をご用意ください。
* 行動中に必要な手荷物を入れるデイパックは両手が空くよう、リュックやショルダータイプをお薦めします。

> **機材保護の観点**
- 再利用可能な水筒（マイボトル）、買い物バッグ、傘、ゴミ袋、傘などをご持参くださいますようお願いいたします。
- 現地滞在中は3割減心が好、宿泊先や訪問先へ持ち込みにご注意ください。

> **注意**
宿泊日や場所によっては、コンビニエンスストアやドラッグストア等が近くにありません。お忘れになった場合、すぐに用意できない場合がございますのでご了承ください。

> **ドレスコード**
今回の食事場所で該当するレストラン等がございます。

持ち物

- デイパック/バックパック（飲み物、スナック、携帯電話、ノート、防水/防寒着等を持ち運べる大きさ）
- 充電器
- ノート・筆記用具
- カメラ
- 携帯電話
- 携帯食料・医薬品・洗面用具等
- ノートパソコン、スマートフォン/タブレット等の即日入力のため、可能ならば持参をお願いします。
- 服装コード（袖口のタイプ）** * あるいは便利です
- 防寒、防水ジャケット
- ウォーキングシューズ等、歩きやすい靴
- ガンズ/アウター（服・靴）
- ナイロウェア
- 長袖・ジャンパー
- 防寒具（下着、靴下、レッグウォーマー、マフラー、ネックウォーマー、ニット帽など）
- 再利用可能な水筒
- 再利用可能なバッグ
- 傘/ブラシ

以下、必要に応じて
 スーツケース（車に日数に応じて、中型推奨）
 傘
 カミソリ（必要な方のみ）
 サングラス
 レインコート
 折りたたみ傘
 カメラ

* 赤字は一般旅行用ではなく、今回のモニターツアー参加用の内容です。

How to meet and disperse 集合・解散

3

Tour start Saturday, Nov 11 11月11日 (土)

①松山駅 **11:00集合** *みどりの窓口前あたり

②松山空港 **11:20集合** *Baggage collection point exit.

Tour end Tuesday, Nov 14 11月14日 (火)

チャータータクシーにて高知駅を經由し、高知瑞穂空港までお送りします。
Charter taxi will take you to Kochi Station and Kochi Ryoma Airport in that order.

Contact details

ツアーに関するお問い合わせはハートランド・ジャパンまで。私たちがツアーに同行します！
Contact Heartland Japan for a tour! We will be with you!

Mobile: (LINE管理番号)

(English)

Email:

Mikiko's

* 移動中やお急ぎの方はこちらへ↑

②インフォメーションパック（英語版）

Shikoku Karst Monitoring Tour

Off-the-Beaten-Path and Community-based Tourism

Information Pack

11-14 Nov 2023 4 days, 3 nights
Kumakogen Town, Ehime Prefecture & Tsuno Town, Kochi Prefecture

東京から4時間、京都・大阪から3時間
 4 hours from Tokyo,
 3 hours from Kyoto and Osaka.

Destinations 滞在先

Purpose 目的
 Thank you for participating in the Shikoku Karst Monitor Tour.
 This monitoring tour aims to polish the contents currently under development in the Shikoku Karst area spanning Ehime and Kochi prefectures through your participations and feedbacks.

- > Theme: Sustainable Tourism -> Contents that promote the participation of local "people" and is created together with them
- > Target: Western and Australian markets, travelers interested in remote rural areas of Japan
- > Characteristics of the region: The region is just beginning to develop and respond to travel products for inbound tourists.
- > Direction of product creation: Community-based tourism

Our goal is to commercialize these contents, focusing on resources and people that have not been handled for tourism in the past.

Itinerary ツアー行巻表

Date	Time		Description	Location
	IN	OUT		
Nov. 11 Sat	---	11:00	Meeting place 1: Matsuyama JR Station From Tokyo (NHK16) HZ00:25 - MYJ 11:00 (From Osaka) NH1637 ITM 10:05 - MYJ 11:00	Matsuyama City
	11:20	11:20	Meeting place 2: Matsuyama Airport	
	11:30	11:30	Transfer via Chartered van	
	11:30	12:30	Lunch & briefing	
	12:30	14:00	Transfer: Matsuyama City to Kumakogen Town	
	14:00	15:00	[K-2] Grocery Shopping with Locals at Roadside Station San San	
	15:30	---	Check in at Furusato Ryoko Mura	
	17:00	19:00	Dinner: Furusato Ryoko Mura (Veget. curry)	
	---	---	Lodge: Furusato Ryoko Mura	
	Nov. 12 Sun	---	7:45	
8:00		8:20	Check out, transfer	
8:30		---	[K-1] Shikoku Pilgrimage Experience	
---		10:00	●Luzern Monro Pilgrimage & preparation at Daibo-j	
10:00		---	●Pilgrimage on foot	
15:00		16:00	●Visit Iwaya-j Temple	
16:00		16:00	Transfer: Iwaya-j to Daibo-j parking lot	
18:00		---	Check in at Koshi Puro Village TENGU	
18:00		18:45	Observatory tour	
19:00		20:00	Dinner: Koshi Puro Village TENGU	
Nov. 13 Mon	20:00	20:30	Stagnating (optional)	Tsuno Town
	---	---	Lodge: Koshi Puro Village TENGU	
	7:30	8:30	breakfast	
	8:45	8:55	Check out, transfer	
	9:00	12:00	[SK-1] Shikoku Karst @ Bike Adventure	
	12:00	13:00	Transfer: Shikoku Karst Tengu Plateau to Tsuno Town	
	13:00	14:00	Lunch: Tenguplateau	
	14:30	17:00	[T-3] Playtime in Tauno Woods: Zipline at Forest Adventure Kochi	
	17:00	17:30	Transfer: Kurose Adventure to Seiran no Sato	
	17:30	---	Check in at Seiran no Sato	
Nov. 14 Tue	18:00	18:40	Dinner: Seiran no Sato	Tsuno Town
	18:40	18:45	Transfer: Seiran no Sato to Goshu Jinya	
	19:00	21:00	[T-2] Interaction with Tsunoyama Koshiki Kagura Preservation Group	
	21:00	21:15	Transfer: Goshu Jinya to Seiran no Sato	
	---	---	Lodge: Seiran no Sato	
	7:30	8:00	breakfast	
	8:30	---	Check out, transfer	
	9:00	12:00	[T-1] Interaction with Kaho-kawa Rizo Terrace Preservation Group and Kick Scooter Field Strals	
	12:00	13:00	Lunch: Jinya Shokudo	
	13:00	13:30	Spinon exchange meeting	
15:30	18:00	Transfer: Tsuno Town to Kochi JR Sta/Kochi Airport		
18:15	18:15	Arrival at Kochi Airport		
Kochi City	---	---	[To Tokyo] JL498 HZ19:40-HKD00:55	Kochi City
	---	---	[To Osaka] NH1616 HZ19:05-19:55	

Note: some itineraries may be subject to change due to weather conditions on the day.

Travel Checklist 持ち物・諸注意

2

General Notes

> **Clothing**
 In the Shikoku Karst region, tours during this season can feel chilly. Especially at Shikoku Karst Tengu Plateau, where you will be staying on the second day, the altitude is 1,400 meters, which means lower temperatures and stronger winds can be expected compared to lower elevations.
 Please be sure to bring warm clothing and clothing that allows for temperature adjustment.

While there won't be strenuous trekking, some of the places you'll visit, such as the terraced rice fields and pilgrimage routes, may have uneven terrain. Please prepare comfortable walking shoes.

A day bag to carry necessary items during the activities is recommended to be a backpack or shoulder bag, as it keeps your hands free.

> **From an Environmental Perspective**
 - We kindly request that you bring reusable items such as a water bottle (your own bottle), shopping bag, toothbrush, and comb.
 - Please help us reduce waste during your stay and do not leave any trash at your accommodation or visitation sites.

> **Attention**
 Depending on the date and location of your stay, convenience stores and drug stores may not be nearby. If you forget something or cannot obtain it immediately, please understand in advance.

> **Dress Code**
 There are no specific dress code requirements for the restaurants or dining places during this tour.

How to meet and disperse 集合・解散

4

Tour start Saturday, Nov. 11 11月11日 (土)

① **Matsuyama JR Station at 11:00** *Near JR Ticket Counter

② **Matsuyama Airport at 11:20** *Exit from the baggage claim for domestic flights

Tour end Tuesday, Nov. 14 11月14日 (火)

Charter taxis will take you to Kochi Station and Kochi Ryoma Airport in that order.

Travel Checklist 持ち物・諸注意

3

What to Bring

Although not exhaustive, this list serves as recommended items for your trip.

- Day bag/backpack (big enough to carry a drink, snacks, mobile phone, notebook, waterproofs/warm layer etc.)
- Chargers and adaptors
- Notebook & writing materials
- Mobile phone
- Personal medication, medical supplies and toiletries
- Laptop computer **Note: It is recommended that you bring your own for immediate entry into the feedback sheet.**
- Extension cord with multiple outlets (Recommended for your convenience)
- Wind and waterproof jacket
- Walking/hiking/comfortable shoes
- Casual wear (clothes and shoes)
- Nightwear
- Long sleeve tops
- Winter clothing including thermal underwear, socks, leg warmer, scarf or neck warmer, knit cap
- Reusable water bottle
- Reusable bag
- Toothbrush

Optional if necessary:

- Suitcase (medium depending on the total length of your stay)
- Comb
- Razor
- Sunglasses
- Raincoat
- Foldable umbrella
- Camera

Contact details

Contact Heartland Japan for the tour- we will be with you!

Mobile: 090-9520-0000 (Your manager)

(English)

Email:

If you are on the move or in a hurry, please use this QR code (for LINE app) to contact us.

③コンテンツのタワ案（日本語版）

Community based tourism Culture



Customer Review
モニターツアーのコメントを入れる。

価格(税込) / 1名様あたり XXXX 円	所要時間 6 時間	催行人数 (最少 - 最大) X 人 ~ 8 人
実施時期 通年	目的地 四国/高知	言語対応 日本語/英語

～津野の森遊び フォレストアドベンチャー～
心身を解き放つ！ジップライン体験

四国カルストの麓に位置する津野町は、日本最長の洞窟と称される四方十川の源流点を有する豊かな森林の中にあります。こうした森林は、人の手が入ることによって維持することが可能です。フォレストアドベンチャー・高知では、この広大な森林の地形を活用しジップライン体験を提供することで、森林の安全管理と地域の活性化に貢献しています。

森林の人気アクティビティの一つであるジップライン。木々の間を鳥のように飛び回るスリルと感動を味わってみませんか？ 森の中で爽やかに遊んだ後は、森林からの遊り物である地元野菜をふんふんに使った特別なランチで、心地よいひとときをお過ごしください。

ポイント

- ✓ そびえ立つ木々の間をケーブルでスライドしたり、ロープや板を伝って移動します。
- ✓ 最長850メートルのケーブルスライドで、山々の大パノラマを楽しめます。
- ✓ レベルの異なる2種類のコースをお選びいただけます。
- ✓ お食事と体験施設への移動がセットなので、冬でも安心です。



Tsuno Town

T 03

Community based tourism Culture



Customer Review
モニターツアーのコメントを入れる。

価格(税込) / 1名様あたり 8,800 円	所要時間 6 時間	催行人数 (最少 - 最大) X 人 ~ XX 人
実施時期 通年	目的地 四国/愛媛	言語対応 日本語/英語

～四国霊場 4 番から45番への歩き遍路と交流体験～
本格お遍路体験

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国霊場。

阿波・土佐・伊予・讃岐の四つの国を全周し八十八ヶ所の札所をめぐる、全長1400kmにも及ぶ世界屈指の巨匠道の巡礼路であり、1200年に遡って札所巡りの文化が継承されています。

国籍や宗教・宗派を超えて誰もが「お遍路さん」となることができる四国霊場は、弘法大師への「信仰」と修行の「道」、それを変える「地域」の三者が一体となった、世界に類をみない巡礼文化です。

全ての札所を歩いて回れば40日以上の旅旅となりますが、このお遍路体験はわずか1日だけの特別コース。

四国八十八霊場のちよと真ん中にある久万高原の美しい自然に囲まれて、お先達さんと山岳僧で本格的な歩き遍路を体験してみませんか？

ポイント

- ✓ 四国八十八ヶ所霊場のちよと真ん中に位置する札所をめぐる歩き遍路体験。
- ✓ スタート地点ではお先達さんがお出迎え。大貫寺での法話や装束衣装を含む本格的な体験内容です。
- ✓ 歩き遍路中のお弁当はシンプルに、修行の山歩きで心身ともにリフレッシュできることですよ。



Kumakogen Town

K 02

Community based tourism Culture



Customer Review
モニターツアーのコメントを入れる。

価格(税込) / 1名様あたり XXXX 円	所要時間 3 時間	催行人数 (最少 - 最大) X 人 ~ XX 人
実施時期 通年	目的地 四国/愛知	言語対応 日本語/英語

～見渡す限りの絶景を求め、いざ天空の道へ～
E-bikeで四国カルスト散策

愛媛県と高知県にまたがる尾根沿い広がる「四国カルスト」。

日本三大カルストの一つで、東西約25kmにおよぶカルスト台地には、白い岩肌の石灰岩が点在し、香から秋にかけては大層な牛がのみのびと放牧され、のどかな景色が広がっています。

また、環境へ配慮した取り組みとして建設された電車が、四国カルストのシンボルとして大きな存在感を示しています。

四国カルストを知り尽くしたガイドが、身体や環境への負荷の少ないE-bikeであなただけをカルストのおすすめポイントへご案内します。

高原の風を肌で感じながら、ゆったりとしたスピードでサイクリングを楽しんでみませんか。

ポイント

- ✓ 身体や環境への負荷の少ないE-bikeで移動します。
- ✓ 季節ごとに異なる高原植物を楽しむことができます。
- ✓ ガイドによるカルストの成り立ちや動植物、自然エネルギーなどの解説付き。



Tsuno Town

SK 01

Community based tourism Culture



Customer Review
モニターツアーのコメントを入れる。

価格(税込) / 1名様あたり XXXX 円	所要時間 2 時間	催行人数 (最少 - 最大) X 人 ~ XX 人
実施時期 通年	目的地 四国/高知	言語対応 日本語/英語

～観て、舞って、鳴らす！ みんなで神楽を楽しもう～
津野山古式神楽保存会との交流体験

津野山古式神楽は、1000年以上前からの地に続く五穀豊穡、無病長災等を祈願して神へ奉納する舞です。

神楽は神様に祈る神事ですが、その高麗には神様を招いて一緒に遊ぶという意味もあります。これが次第に現在残る地域の祭りへと発展してきました。

この伝統文化の継承のため、様々な活動に取り組んでいるのが津野山古式神楽保存会。その一つであるこの交流体験では、地元の人々の本物の舞台で神楽の演目を観覧できるほか、メンバーの方々から舞いや鳴り物（楽）の鳴らし方を学ぶことができます。

神楽もも一緒に遊ぶ、吾ながらの夜更けのひとときをお楽しみください。

ポイント

- ✓ 1000年以上続く伝統文化である神楽をお楽しみいただけます。
- ✓ 衣装を着たり、鳴り物を鳴らす体験を通して地元の方々との交流により、その土地に深く入り込む体験ができます。
- ✓ 観光スポットではない、日本の昔ながらの暮らしを体験できます。



Tsuno Town

T 02

④コンテンツのタワ案（英語版）

Community based tourism Culture



Customer Review
モニターツアーのコメントを入れる。

価格（税込） / 1名様あたり 8,800 ~	所要時間 6 時間	催行人数（最少 - 最大） X ~ XX 人
実施時期 通年	目的地 Shikoku, Ehime	言語対応 日本語/英語

Walking Pilgrimage from Shikoku Pilgrimage Temples 44 & 45
Authentic Pilgrimage Experience

The Shikoku Henro pilgrimage involves visiting the temples associated with Kukai, or Kobo Daishi, the revered founder of Buddhism Shingon Sect. This pilgrimage spans the four regions of Asa, Tosa, Iyo, and Sanuki, covering a total distance of approximately 1400 km. For over 1200 years, this unique pilgrimage route has preserved the cultural tradition of temple visits.

The Shikoku Pilgrimage transcends nationality, religion, and sect, allowing anyone to become a pilgrim. It is an unparalleled pilgrimage culture where faith in Kukai, the practice of asceticism, and the support of the local community are intertwined.

While completing the entire pilgrimage would take over 40 days, this pilgrimage experience offers a special one-day course. Surrounded by the beautiful nature of Kumakogen, located right in the middle of the Shikoku 88 Temples, this tour offers you an authentic walking pilgrimage in the mountainous sacred site, guided by a charismatic official Henro guide.



Kumakogen Town

Highlights

- ✓ Explore the temples located at the exact midpoint of the Shikoku 88 Temples pilgrimage.
- ✓ Begin your journey with a warm welcome from experienced guides at the starting point.
- ✓ Engage in an authentic experience, including a sermon and wearing traditional pilgrim garment at Daibō-ji Temple.

K 02

Community based tourism Culture



Customer Review
モニターツアーのコメントを入れる。

価格（税込） / 1名様あたり XXXX 円 ~	所要時間 6 時間	催行人数（最少 - 最大） X ~ 8 人
実施時期 通年	目的地 Shikoku/Kochi	言語対応 日本語/英語

Tsuno Forest Adventure
Unleash Your Body and Soul with Ziplining

Nestled at the foothills of Shikoku Karst, Tsuno Town is surrounded by a lush green forest, home to the headwaters of the Shimanto River, often dubbed Japan's last pristine river.

These forests can be properly maintained with human intervention. Forest Adventure Kochi contributes to forest conservation and community revitalization by harnessing the vast forest terrain to provide ziplining experiences.

Ziplining is one of the forest's most popular activities. Don't miss the thrill and excitement of gliding through the trees like a bird!

After the exhilarating time in the forest, enjoy a delightful moment with a special lunch featuring locally grown vegetables, a gift from the forest.



Tsuno Town

Highlights

- ✓ Glide between towering trees using cables, ropes, and planks.
- ✓ Enjoy panoramic views of the surrounding mountains with a zipline stretching up to 650 meters.
- ✓ Choose from two different levels of courses to suit your preferences.
- ✓ Meals and transportation to the adventure facilities are included, ensuring a worry-free experience even in winter.

T 03

Community based tourism Culture



Customer Review
モニターツアーのコメントを入れる。

価格（税込） / 1名様あたり XXXX 円 ~	所要時間 2 時間	催行人数（最少 - 最大） X ~ XX 人
実施時期 通年	目的地 Shikoku/Kochi	言語対応 日本語/英語

Watch, dance, and play music! Let's enjoy Kagura together!
Interactive Cultural Experience with the Tsunoyama Traditional Kagura Preservation Society

Tsunoyama Kagura is a traditional dance offered to the gods for over 1000 years, praying for a rich harvest and well-being.

While Kagura is a ritual dedicated to the gods, the words imply inviting them to play together. This tradition has evolved into the local festivals we see today.

To preserve this cultural heritage, the Tsunoyama Traditional Kagura Preservation Society engages in various activities. In this interactive experience, held within a local shrine, participants can watch Kagura performances on a genuine stage, and learn the dance and how to play the instruments from society members.

Enjoy an evening reminiscent of ancient times, where gods and people play together.



Tsuno Town

Highlights

- ✓ Experience Kagura, a traditional art form with a history of over 1000 years.
- ✓ Through interacting with locals while wearing traditional costumes and playing instruments, you can immerse yourself deeply in the local culture.
- ✓ Experience the authentic, traditional lifestyle of Japan, away from typical tourist spots.

T 02

Community based tourism Culture



Customer Review
モニターツアーのコメントを入れる。

価格（税込） / 1名様あたり XXXX 円 ~	所要時間 3 時間	催行人数（最少 - 最大） X ~ XX 人
実施時期 通年	目的地 Shikoku/Ehime, Kochi	言語対応 日本語/英語

Chasing Limitless Panoramas: Embark on the Skyward Journey!
Shikoku Karst E-Bike Adventure

As one of Japan's three major karsts, the Shikoku Karst stretches across Ehime and Kochi Prefectures and unfolds along the ridge. This plateau covers approximately 25 km from east to west, adorned with white limestone rocks. Cows graze freely in the expansive grasslands from spring to fall, which creates a serene and picturesque landscape.

Representing the Shikoku Karst is a windmill erected as part of an environmentally conscious initiative, proudly asserting its significant presence in the area.

Guides well-versed in the Shikoku Karst will lead you to recommended spots on an E-bike, minimizing impact on both the body and the environment. Enjoy cycling at a relaxed pace while feeling the highland breeze against your skin!



Tsuno Town

Highlights

- ✓ Explore the Shikoku Karst with minimal impact on the body and the environment using an E-bike.
- ✓ Delight in the variety of highland flora changing with the seasons.
- ✓ Guided explanations about the formation of the Karst, its flora and fauna, and insights into natural energy, enhancing your overall experience.

SK 01

⑤ルールブック（日本語版）

JP The responsible traveler in Shikoku Karst

四国カルストの旅ルール

～四国カルストの旅を快適な時間にするために、旅行者に守っていただきたい5つのルール～

- 1. 食**
地域でとれたもの、旬のものを味わいましょう
- 2. 自然**
地域の豊かな自然に触れましょう
- 3. 選択**
当地産産物や地域に根ざした商品や宿を選びましょう
- 4. 交流**
自然や文化の保全に関わる地域の人々とふれあい、その活動に参加しましょう
- 5. 伝承**
美しい自然や旅先で見聞きした固有の文化・風習を、ぜひ郷かに伝えてください

JP The responsible traveler in Shikoku Karst

自然公園でのルール

～美しい自然と貴重な生物多様性の保全に向けた8つのルール～

- 1. 捨てない**
ゴミは必ず持ち帰りましょう
- 2. 持ち込まない**
固有種保全のため、動植物を外から持ち込まないでください
- 3. 持ち出さない**
動植物を採らないでください
- 4. 与えない**
野生動物にエサを与えないでください
- 5. 踏み込まない**
植物保全のため、登山道や遊歩道を歩いてください
- 6. 押さない**
トイレはできるだけ事前に済ませましょう。十分なトイレ設備や水がない場所もあります。事前に済ませておきましょう
- 7. 飛ばさない**
ドローン飛行をしないでください
- 8. 覗かない**
指定されたエリア以外での喫煙をしないください

JP The responsible traveler in Shikoku Karst

自転車走行時のルール

～交通法規・交通マナーを守って、安全に楽しむための8つのルール～

- 1. ヘルメットを着用しましょう**
- 2. トンネル内ではライトを点灯すること**
- 3. 原則として、自転車は車道/左側を走ります**
- 4. 歩道は歩行者が優先です**
- 5. スピードの出しすぎに注意しましょう**
- 6. スマートフォンやカメラなどを操作しながらの運転をしないこと**
- 7. 飲酒運転・二人乗り・並走は禁止**
- 8. 自転車から降りる際には、必ず足踏をしてください**

JP The responsible traveler in Shikoku Karst

お遍路のマナー

1. お遍路さんの心得

- 四国八十八箇所巡礼はハイキングやスタンプラリーではありません。
- 何冊も納経帳（参拝帳）を持って行ったりのような行為は止めましょう。
- お遍路は、十善戒を守り、お大師さんと一緒に四国の山岳を巡りながら自身の心を磨いてゆく旅です。
- 「何のために巡礼するのか?」と目的を持ち、最低限のマナーを守って巡礼しましょう。

2. お遍路さんのマナー

Hai! -お遍路さんとはすれ違う時は、必ず挨拶を交わしましょう

Yes! -一輪の上では金剛杖をつかないようにしましょう。橋の下でお大師様が休んでいらっしゃる時は

Yes! -振り合い・掛け合いの心で行動しましょう

No! -地元の方のお接待は断ってはいけません。ありがたく受けましょう。

⑤ルールブック（日本版） 続き

JP The responsible traveler in Shikoku Karst



食事のマナー

-  ● 共調理や家庭料理
大量に盛り付けられた共有の料理は、直接食べずに自分用を取り分けてからいただきます。
-  ● フードロスの削減
-食事はできるだけ残さず食べましょう。
-量が多い場合には、手を付ける前に量の調整をお願いします。
-  ● 箸
ぜひ、箸の方でお箸を握っていただき、握れるまでは少し曇り感じられますが、遠慮なく地域の文化から箸使いを学びましょう。

×絶対にやっちゃいけない箸使い

- ①ご飯に箸を垂直に持すること
- ②箸から箸へ食べ物を持つこと

*日本では死や葬儀で行われる箸使いのため、日常の食事場ではタブーとされています。

JP The responsible traveler in Shikoku Karst



集落訪問時のマナー

日常の生活に入っています。ご自身の家に海外からの旅人を招き入れる場面を想像し、双方が心地よく過ごせるよう配慮ください。

- 1.写真**
-人を撮影する際には、必ず集落の方に承認を得ましょう。
-撮影した写真には、住所や氏名などの個人情報が含まれている場合があります。取り扱いには十分注意しましょう。
- 2.RV等への到着**
-到着する場合には、訪問先のご家庭に挨拶可否を事前確認しましょう。
-集落や個人宅の位置情報が特定されないよう注意しましょう。
- 3.登降時**
-畑に入る際には、必ず集落の方に許可をとりましょう。
-急傾斜地での歩きながらのスマートフォン操作や写真撮影は大変危険ですので、両手を空けて歩きましょう。
- 4.作物や植物**
-畑の作物や山に自生する植物は、許可なく採取しないでください。
-周辺には野生動物も出没します。遭遇時には、野生動物に触れたり、捕まえたりしないでください。
- 5.宿泊や滞在**
-集落内に宿泊する際、周辺の方々には日常生活を送っています。夜間の騒音などは控え、静粛を保持してお過ごしください。
-訪問時に持ち込んだごみは持ち帰りましょう。

JP The responsible traveler in Shikoku Karst




日本の一般的な習慣

- 1.公共交通機関での移動**
 - 乗車前
-乗客が降りてから乗車するルールです。
 - 乗車中
-車内では携帯電話での通話は控えましょう。
-乗客同士での会話は問題ありませんが、なるべく小声で会話しましょう。
-お年寄り、妊婦の方、身体の不自由な方がいる場合には座を譲りましょう。
- 2.靴の習慣**
 - 山間部集落など、一般家庭への訪問
-ほとんどの家庭では玄関で靴を履きます。
-「縁側」から家に上がる場面も多いでしょう。
-どこで靴を履けば良いか、遠慮なく家の方に聞きましょう。

⑥ルールブック（英語版）

EN *The responsible traveler in Shikoku Karst*



Things to Keep in Mind for Visitors to Shikoku Karst

5 Guidelines for Making Your Travel to Shikoku Karst a Pleasant Experience.

- 1. Dining**
Enjoy what the region has to offer, including local and seasonal delicacies.
- 2. Nature**
Immerse yourself in the area's rich natural surroundings.
- 3. Choice**
Opt for eco-friendly and locally-rooted products and accommodations.
- 4. Interaction**
Engage with local residents involved in the preservation of nature and culture, and participate in their activities.
- 5. Heritage**
Share the unique culture and traditions you witness during your trip with others.

EN *The responsible traveler in Shikoku Karst*



Nature Park Etiquette

8 Guidelines for Conserving Beautiful Nature and Precious Biodiversity.

- 1. Pack it in, pack it out**
Always carry your trash with you.
- 2. Don't bring in**
Do not bring in animals or plants from outside to protect native species.
- 3. Don't take out**
Do not collect animals or plants from the area.
- 4. Don't feed wildlife**
Do not feed wild animals.
- 5. Stay on the path**
Walk on designated trails and paths to protect plants.
- 6. Leave no trace**
Use the restroom before you venture out. Some areas may lack restroom facilities or water.
- 7. No drones**
Do not fly drones.
- 8. No smoking outside designated areas**
Refrain from smoking in areas not designated for it.

EN *The responsible traveler in Shikoku Karst*




Bicycling Rules

8 Guidelines for Observing Traffic Regulations and Maintaining Safe Riding Practices.

- 1. Always wear a helmet.**
- 2. Turn on lights in tunnels.**
- 3. Bicycles should primarily use the road's left side.**
- 4. Pedestrians have the right of way on sidewalks.**
- 5. Be cautious of speeding.**
- 6. Do not operate a smartphone, camera, or similar devices while riding.**
- 7. Prohibitions: Avoid drunk riding, carrying a passenger, and side-by-side riding.**
- 8. Always lock your bicycle when leaving it.**

EN *The responsible traveler in Shikoku Karst*



Shikoku Henro 88 Buddhist Temple Pilgrimage

1. How to Pay Homage: Guidelines for Pilgrims

- The Shikoku Pilgrimage of the 88 Temples is not a hiking or stamp rally.
- Avoid the act of carrying multiple Nokyochō (stamp books).
- Pilgrimage is a journey where pilgrims observe the Ten Precepts and, alongside the Great Master Kobo Daishi, purify their hearts while traveling through the mountains and fields of Shikoku. Have a clear purpose for your pilgrimage and adhere to basic etiquette.

2. Pilgrims' Etiquette

- Hi!** -When passing by fellow pilgrims, always exchange greetings.
- No!** -Avoid tapping your *Kongōzue* (pilgrimage staff) while on a bridge, as it is believed that Kobo Daishi rests beneath.
- Always act with a spirit of cooperation and mutual assistance.
- Do not decline locals' hospitality or *oseitai*; accept it with gratitude.

⑥ルールブック（英語版） 続き

EN *The responsible traveler in Shikoku Karst*



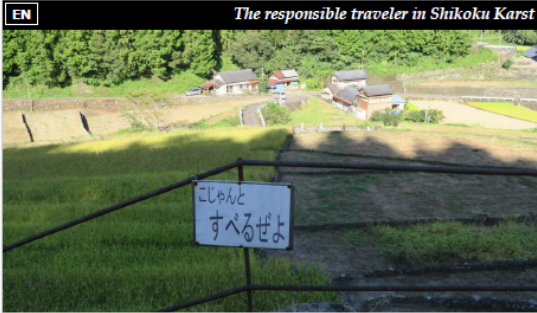
Good Manners in Eating

- Sharing Food**
 When food is served on a platter, take what you want and pass the platter around. Do not eat directly from the platter.
- Reduce Food Waste**
 -Please eat as much of your meal as possible without leaving uneaten food behind.
 -If the portion is too large, ask for a smaller portion.
- Chopsticks**
 Please try using chopsticks during your stay in Nishi-Awa. It's fun and will make your eating experience more authentic!

*** It is taboo to use chopsticks in the following ways, unless at a funeral:**

- Inserting chopsticks vertically into the rice.
- Passing food from chopstick to chopstick.

EN *The responsible traveler in Shikoku Karst*



Visits to Villages

You will be entering the daily lives of local people. Please imagine a situation where you invite a traveler from abroad into your home, and take care to make both parties feel comfortable.

- 1. Photography**
 - When taking pictures of people, be sure to ask their permission first.
 - If your photograph reveals personal information about the person (such as the name plate on a house or mailbox, or the house number) please honor their privacy, or individual homes.
- 2. Social Media**
 -When posting photos on social media, make sure you have permission from the subjects and/or families in advance. Many people do not want their photos posted.
 -Please do not identify locations of villages or individual homes.
- 3. When walking**
 -Accidents happen when people are walking around looking at their cellphones and not paying attention to their surroundings. Whenever you need to look at your cell phone or take a photo: Stop, complete the action, then continue walking, you visit.
- 4. Crops and plants**
 -Please do not pick crops from the fields or wild plants in the mountains without permission.
 -Wild animals, such as monkeys, are often seen in certain areas. Do not touch or try to catch animals when you encounter them.
- 5. Lodging and staying**
 -When staying in a village, please be aware that people in the surrounding area are going about their daily lives. Please be moderate and refrain from making noise at night.
 -Please carry out any trash you bring with you when you visit.

EN *The responsible traveler in Shikoku Karst*



General Japanese Customs

- 1. Public Transportation**
 - Before boarding the bus**
 -Please wait until all passengers have disembarked before boarding.
 - After boarding any public transportation**
 -Do not talk on your cell phone.
 -Conversation between passengers is acceptable, but please try to keep your voice low, about the volume of a loud whisper.
 -Please give up your seat to elderly people, pregnant women, and those with physical disabilities.
- 2. Entering Buildings**
 - When entering houses, and sometimes buildings**
 It is general that shoes are removed inside the entrance.
 -In ordinary households, e.g. in mountain villages
 You may have to step into the house from the engawa (wooden veranda).
 *Don't hesitate to ask the owner where to take off your shoes.

(5) 全体評価

視察全体を通じた総評は以下の通りであった。

1. 四国カルストの魅力**マンディ・バートック氏**

四国カルストは美しい地域で、たくさんの自然美と2つのユニークな文化コンテンツ（八十八ヶ所巡礼と神楽）がある。寺社仏閣や城、桜に飽きた人など、「普通」から少し外れたものを探している人には魅力的な地域となるだろう。だが、この地域の公共交通機関は非常に限られているため、FITの旅行者は自分で運転するようなセルフドライブパッケージを快適に利用できる人（オーストラリア人はそうかもしれない。北米人は一般的に少ない。）でない限り、敬遠すると思う。

小峰 邦良氏

地域の文化が脈々と受け継がれた日本屈指の魅力的な観光地の可能性を十分に秘めている。そこに山海の食材、さらには日本中探してもTOPクラスの川の恵と文化が彩と深み広がり添える。そして申し分ない痺いところに手が届く、通好みの宿泊施設は幸せの極み。コンテンツ的にも不動のお遍路さん、絶景のカルストE-bike、感動のお神楽体験、心和む棚田キックボード、本格的な天体観測、若き人材が運営するフォレストアドベンチャー、道の駅の名物おじさんと3泊4日盛沢山。四国カルストの皆さんの地元愛、そして何よりも訪問者への「お接待」の心が素敵すぎて、日本の原風景 & 原点を感じ持ち帰ることが出来た。今後の展開から目が離せない地域。唯一気になった点が「四国カルスト」というネーミングと上記コンテンツのイメージを合致させるのが少々課題と感じた。「四国カルスト」というどうしてもジオ的な要素が強くなってしまふ。久万高原町と津野町が四国カルストを有することで成り立っているストーリー & 恩恵がダイレクトに感じ取れるメッセージ & コンテンツが欲しい。

ウィロビー 晃恵氏

ジオ的な側面、風力を活用した地域インフラと景観のストーリー、天文台をも有する星空コンテンツの充実、ニッチ層にも「四国旅」をイメージする一般の方にもささる内容と丁度よい深さの歩き遍路、取ってつけたものでない地元の過去と未来のつながりの中にどっぷり浸れる古式神楽。輪廻や宇宙的な壮大な循環を感じさせる深い力強さが非常に魅力的であると感じた。語り手がいることが大きく寄与していることもあると思う。

この体験を他の方に自慢し、また訪れたいと思わせる場所であると思う。

2.コンテンツのコンセプトについての意見

マンディ・バートック氏

旅程は、ほとんどのアクティブな旅行者にアピールする幅広いアクティビティを提供していたと思う。外国人の目線で見ると、ペットボトルの製作体験やフォレストアドベンチャーなどのコンテンツは関心を集めにくいと感じた。それはただ単に、日本や四国にしかないものだとは思われておらず、人々はもっと日本らしいもの（お遍路や神楽など）に時間を費やしたいと思うからである。

小峰 邦良氏

全体的に一つ一つのコンテンツは魅力的であり、このエリアの独自性を感じた。（※道の駅の体験はさらなる作り込みに期待大）。日本中の地域がインバウンド&高付加価値ツアー獲得のために躍起になっているが、この地域は現状あるものに新しいアクティビティ（E-bike、電動キックボード、フォレストアドベンチャー）を取り入れていることで受け入れやすさやナチュラルさが訪問者の参加へのハードルを下げている。しかし上の「1」でも書いたが、やはり「四国カルスト」を代表するシンボリックなメッセージ性のあるコンテンツが一つ欲しい。というより、一つあったらパーフェクトだと感じる。さらには二つの町を跨ぐことで四国カルストを巡った時に、心揺さぶるサブタイトルになるようなもの。各所のコンテンツを案内する者、観光案内所のスタッフが共通で訪問者に持ち帰ってもらえるキーワードがあると3泊4日がより締め、起承転結が生まれると感じた。ちなみに弊社のコンセプトは「ガイド業=教育業」。ガイドを通じて日本の教育を変えていくことがスタッフたちの根底にある。どのガイドが案内しても、なんのツアーに参加してもそれを感じてもらえるようにツアー造成やスタッフ育成を心がけている。そして何か窮地に追い込まれたり、指針がぶれそうになっても、競合他社の脅威にさらされてもその信念が軌道修正を促し、弊社らしさを維持してくれている。今後、この魅力溢れる地域に様々な課題や問題が生じた際もその「サブタイトル」や「熱いメッセージ」が両町「四国カルスト」を支えてくれるのではないだろうか？

ウイロビー 晃恵氏

文化的持続可能性の側面が特に濃い内容であった。
逆に言う「四国カルストの」というテーマがただのエリアの紹介であっただけという印象。サイクリングをしたエリア以外の場所で「四国カルスト」という言葉を聞いたり見たりしただろうか？カルスト文化と今回の内容の結びつきがもっと分かりやすいといい。

3. 持続可能な観光地域としての誘客における課題や可能性など

マンディ・バートック氏

ハイキングやE-bikeのようなアクティビティは、サステナブルツーリズムに関心の高い旅行者にとって非常に魅力的だが、もし、この地域が完全に持続可能だと主張する場合、久万高原の現状（公共交通機関がほとんどない、店や市場にプラスチックがあふれている、お箸が捨てられているなど）から、旅行者はその主張は偽りに感じてしまうと思う。持続可能性を促進する簡単な方法のひとつはマイ箸と、もう一つはコンポスト（堆肥化）だと思う。特に道の駅さんさんのような場所では、生ゴミを捨てずに堆肥化できるはずだと思う。

小峰 邦良氏

個人的に欧米豪の観光客に全てを合わせるのには危険を感じると同時にこの地域の魅力を失いかねない。食べ物、宗教観、言語表示などもある程度で構わないと感じる。少々の不便さやトラブルが旅の思い出。海外旅行に行ったら全て日本語表示だったら気味が悪いと思う。異文化に触れることが旅の最大の目的だとするならば郷に入っては郷に従うのが旅人の最低限のマナー。とは言え要所要所には英会話が堪能なスタッフや看板、パンフなどは必須。特にアクティビティの際のセーフティトークや参加同意書などは徹底して英語表記を用意することがマスト。この地域を旅して感じたのは、少々のフィルターをかけ、来てもらいたい国を選び営業していくのも手。誰でも気軽に参加できるが「こんな国の人に体験してもらいたい！」的なセールスも今の流行り。何度も書いたが、現状今ある自然財産、文化財、体験が出来る限りそのままを残しつつ、観光コンテンツとして地域を盛り上げて行ってくれることを願う。そして運営が困難な場合は姿形を変え、やれる範囲内で持続して行って欲しい。この地に脈々と受け継がれる「お接待」の精神がビジネス的になってしまうことを恐れると共に、ビジネスライクで対応しなくてはならない現実との葛藤はあると思う。

ウイロビー 晃恵氏

「持続可能性」をどうとらえ、観光における持続性の基準を合意のもと、ある程度決められるといい。できない基準ではなく「このエリア・このコンテンツはこのレベルまでの配慮を約束します」という、実施にあたり無理がないもので。もし、今回のコンテンツのいくつかを組み合わせた場合、レベルや持続可能性への配慮の仕方に差が出てしまうと感じている。

山郷の文化に関しては全国的に継承者問題があり、このエリアも同じと聞いている。だからこそ、ストーリーテラーの育成が求められる。体験の実施ができる人＝魅力的に語れるガイド、ではない。魅力的に語れる人（また会いに行きたい人）を各世代複数名育成することで、域内全体の地域プライドの高まりが長期間恒常的に期待できるであろう。

素材は素晴らしい。あとはどう結び、コンテンツ同士やそのエリアに経済的循環を生み出すか。例えば、お茶一つにしても、弁当や食事によく出てくる地元食材（カキドオシとか）にしても、名前だけでなく、どこで買える、地域がどう取り組んでいる、地元ならではの語るだけで、地元のスーパーや道の駅での購買率は上がっていく。

4.その他

マンディ・バートック氏

皆さんはとても興味深い旅程を組んで下さったと思うし、アクティビティも楽しむことができました。（天候のせいでE-bikeのサイクリングは満喫できなかったが）。

小峰 邦良氏

もう少し、四万十川の源流を感じたかった。世界一の清流文化に触れたかった。そんなコンテンツ造成に清き一票を捧ぐ。

ウイロビー 晃恵氏

四国という土地柄なのか、たまたまなのか、今回出会えた方々がみな暖かく、親戚の家に来たような温かみを感じられる居心地のよさがあった。本番ツアーでリベルタさんや運輸局の方がいなくても同じレベルで提供が可能か？作り始めたばかりのコンテンツは造成側も受け入れ側もいつもより頑張ったところからスタートするため、実施回数を重ねるうちにつらくなってくることもある（私も多く経験している）。通年やシリーズでやる内容と限定特別プランに分けることで地元側の「やりたい」の気持ちを損なうことなくスタートできる気がする。スモールスタートでトライ&エラーを繰り返し、慣れてきたら実施回を増やしていけるといい。

2-4-3.視察内容と評価

モニターツアー

(1) 体験コンテンツ

① ローカルと一緒に買い物@道の駅



ビジョン

➤ 商品の購入による地元の生産者への経済的還元

ターゲット（セグメント）

- 観光地化されすぎていない、その土地のありのままの姿を楽しみたい
- その土地の特産物や生産者について興味・関心がある

標高400～600mに位置する愛媛県久万高原町では、夏季冷涼な気候を生きし、一年を通じてさまざまな野菜や果物、お米の生産が行われている。この土地で育った新鮮な農作物や地元ならではの商品を販売している「道の駅さんさん」を訪れ、久万高原町の日常と出会う。地元の方による商品の解説及びバックヤードツアー付き。

【実施概要】

所要時間：1時間

現地対応者：道の駅さんさん 宮崎氏

【実施内容】

道の駅さんさんで販売する地元野菜や人気の加工食品を宮崎氏にご案内いただいた。その後、バックサイドエリアにて質疑応答をした後、夕食に使う食材等を招請者と同行者が一緒に購入した。

道の駅の宮崎氏より久万高原町で生産されている野菜やお米、果物について説明をしていただいた。訪問したのが紅葉のシーズンだったこともあり、店内は他のお客さんも多く、グループで移動するのが難しい場面もあった。グループで訪れた際、どのように案内すれば良いか、検討したい。またなぜここを訪れるのか、この商品がおすすめなのかということストーリーを通じて伝えられるようにしたい。



評価・コメント ローカルと一緒に買い物@道の駅

モニターツアー

1.体験に関する評価	バートック氏	小峰氏	ウイロビー氏
旅行者目線での適正価格はいくらか？ *4~6名参加時の一人当たり料金（税込）	≤5000円	≤5000円	≤5000円
体力レベルはどうか（遍路とE-bike、フォレストのみ）	-	-	-
体験を通して地域に貢献できる内容か	5	3	4
ストーリー性は十分にあるか	3	3	3
四国カルスト地域ならではの価値・独自性があるか	3	2	3
地域の人との交流ができるか	4	3	3
顧客自ら能動的に楽しめる体験であるか	3	3	3

2.体験コンテンツに関する情報として、情報ツール（インフォメーションパック）にどのような情報を入れると良いか
マンディ・バートック氏
地元の農家を支援するため、地元のお菓子を味わうため、あるいは歩き遍路のために買いためておくため、地元の特産品を購入するチャンスを強調する。実際に1つか2つ売れ筋商品を紹介するのもよいと思います。（例：「久万高原の有名な干し芋を食べるチャンスをお見逃しなく」など）。
小峰 邦良氏
特になし。
ウイロビー 晃恵氏
その時期に販売している野菜の説明。特に特産品であることを強調して伝えることが大切。

3.体験評価に関するコメント/課題・改善ポイント等

マンディ・バートック氏

このアクティビティは非常に面白くなる可能性はあるものの、もう少し計画性が必要だと思った。道の駅は非常に混んでいて、グループとして動きにくかった。また、インバウンドのお客さんが自分たちが見ているさまざまな果物や野菜のことを深く知るには、通訳は不可欠である。日本全国に道の駅はあるし、私も個人的に大好きなのだが、この地元の特産品であるという点はかなり強調する必要があると思う。「道の駅」という言葉は多くの外国人には通じないので、「日本の農産物市場に行ってみよう」というような形で宣伝するのも良いかもしれない。奥の部屋や入口外のテーブルといったスペースで来訪者にその場で試食してもらうようにするのも、様々な商品を紹介する良い方法かと思う。案内をしてくれた宮崎氏以外の従業員の方とも交流ができればよかった。

小峰 邦良氏

道の駅全体として、ゲストを歓迎する雰囲気が薄く感じた。バックヤード体験した付加価値として、その場でリンゴが食べられたり、炊き立ての久万高原産炊き立て新米が羽釜で食べれると更に嬉しい。あと地元ならではの食べ方、お勧めの商品、裏事情、コスパなどがもっと聞けるとツアーの醍醐味 & 有難さが広がると思う。道の駅の駐車場が一杯で車回しに苦労していたが、ツアー化する際は裏駐車場や従業員駐車場の確保が必要と感じた。あまり作りすぎないほうが自然で面白いが、行ってみてパンが無かったり、車が止められなくて行程などが押すようであれば、ある程度作り込んでおく必要性を感じた。かなり難しいことだが、せっかくなら久万高原町の特産のお米やトマト、お芋などの収穫や種まきなど、実際に手にする食品のストーリーに触れられると尚良かった。

ウィロビー 晃恵氏

今の時期だと菊芋やハヤト瓜など日本人でもなじみのない人が多い食材については事前にインフォメーションがあるといい。一番いいのは英語・日本語で食材の説明（珍しいものは調理法の例）をポップなどで表示しておくこと。「四国カルスト」ならではの説明もつけられるはずなので「試してみよう」という購買意欲につながるのでは？（何だか分からなすぎたり、調理法がわからないと購入しようと思わないかも）

ガイドさんがいてくれてこそ魅力が伝わる。今回は「レッドキウイの方がおいしいよ」という一言で「買ってみよう」となった。

観光客にここでわざわざこの野菜（例えばネギ）を買おうと思わせるためには「四国カルスト」と関連したストーリーを見せる必要があると感じた。（自分が住んでいるところでも買えると思わせないように）。特産品なら買うけど、ただ地元の人が作っている野菜（ただの野菜の直売所）なら購入の可能性は下がるかも。

レストランで道の駅で提供している食材を試食できたり、調理例が見えるバイキングの内容があるうえでアナウンスがあると、レストランにも人が流れるしレストランで食事をした人が後で買ってみようと、相互に人の流れができるはず。

②歩き遍路体験

モニターツアー



四国霊場44番から45番への歩き遍路と交流体験

- ビジョン
- 伝統文化・地域の風習の継承
 - 歩くことによる遍路道の維持存続

ターゲット（セグメント）

- 日本の伝統文化に興味関心がある
- 旅ナカで自らが環境へ配慮した行動をとる
- 知的好奇心があり、旅ナカでの交流を求める

物見遊山ではない、祈りや修行としての本格的なお遍路体験として、四国八十八霊場の中盤2つの札所を巡る。お遍路の歴史や意義を法話で学び、大先達より装束と参拝方法を習い、2寺にて一緒に納経。その後、大先達や地域ガイドと共に歩き遍路を体験。ガイドによる自然景観や文化・歴史の解説付き。

【実施概要】

現地対応者：大寶寺 大西康覚氏、大先達 越知カヨコ氏、ソラヤマいしづち 松本勝氏

【実施内容】

第44番札所大寶寺にて康覚氏によるお遍路の説明、装束の着用、参拝・納経⇒古岩屋荘へ車移動、昼食⇒第45番札所岩屋寺を目指して歩き遍路体験⇒岩屋寺にて参拝・納経（所要時間：7.5時間）

10月の実地セミナーからの指摘を受け、法話の所要時間や通訳、説明資料の英語追記等、様々な改善があった。商品化にあたっては、必要な備品（参拝に必要なもの、装束）の提供・管理方法を決める必要がある。また、当日は雨模様のため道が滑りやすく、実際に参加者の一人が滑って腰を打つケガをした。本体験はグループ行動を想定するため、リードするガイドや通訳ガイドが頻繁に注意喚起する必要がある。



康覚氏によるお遍路の説明



英語が追記された説明資料



歩き遍路道



岩屋寺への到着

評価・コメント 歩き遍路体験

モニターツアー

1.体験に関する評価	バートック氏	小峰氏	ウイロビー氏
旅行者目線での適正価格はいくらか？ *4~6名参加時の一人当たり料金（税込）	10001～12500円	7501～10000円	12501～15000円
体力レベルはどうか（遍路とE-bike、フォレストのみ）	4	4	4
体験を通して地域に貢献できる内容か	5	4	4
ストーリー性は十分にあるか	5	5	5
四国カルスト地域ならではの価値・独自性があるか	5	5	5
地域の人との交流ができるか	5	5	4
顧客自ら能動的に楽しめる体験であるか	5	5	4

2.体験コンテンツに関する情報として、情報ツール（インフォメーションパック）にどのような情報を入れると良いか
マンディ・バートック氏
雨天の場合は、滑りにくい靴とハイキングポールを強くお勧めした方がよい。
小峰 邦良氏
雨天時の中止基準やサブプランの記載。雨具の必須（ビニル雨具&ポンチョタイプが理想）、お遍路の距離、標高差などがあると尚安心につながる。
ウイロビー 晃恵氏
白色の衣類を推奨（よりそれっぽい雰囲気味わえる）

3. 体験評価に関するコメント/課題・改善ポイント等

マンディ・バートック氏

悪天候だったが、このコンテンツはかなりうまく行っていたと思った。康寛さんのお話は前回よりもかなりコンパクトに、かつ、とても興味深い形にまとめられていたし、通訳のタイミングも完璧だった。康寛さんとカヨちゃんが僧侶の衣装と巡礼者の衣装の関連性や意味を説明していた所が好きだった。カヨちゃんと一緒にお寺を訪れて、参拝方法を学んだことも非常に良かったし、重要な要素でもあったと思う。お経を3回唱える部分を1回にしたのはよかったと思う。こうすることで、参加者は納経をほどよい長さで体験することができる。ハイキングは素晴らしかった。歩いた道は美しかったし、初めの方にユニークなポイントがあり、どのレベルのハイカーでも比較的対応できるものだったと思う。両方のお寺はそれぞれ特徴的だったが、特に岩屋寺にははしごや、洞窟、多くの石像などがあり、より特徴的だと感じた。最後の岩屋寺では、まるでスケジュールの時間に合わせてウロウロしているかのように、少し時間を持て余しているように感じた。1日のアクティビティが終わった後には休憩したいと皆思うので、行程が早く終わった場合は早めにホテルに向かうようにした方がよいと思った。

小峰 邦良氏

人生初のお遍路さん。大先達のかよちゃんと松本さんの息もぴったり。地元色強めで自分で見よう見まねで回るよりも遥かに思い出深い、意味のある、お遍路体験となった。途中のお弁当も地元食材をふんだんに使って、華美でない、山里の優しい味のお弁当だった。歩きの行程も丁度良く、長すぎず短か過ぎずちょうど良かった。あの程度苦労した先に見えた山門や巨木の森は実に神秘的だった。最初の大宝寺の住職の話も聞きやすく、人柄が現れてよかった。しかし大雨の時のサブラン及び緊急時の対応が気になる。山岳ガイド目線で見ると、FAの充実、エスケープ対応、搬送方法体制が必要な箇所があった。スタッフトレーニングも勿論だが、緊急体制の構築と同時にかよちゃん＆松本さんに続く人材を発掘し、いつでもこのツアーが同クオリティーで成り立つ体制を整えないと受け入れ側が間に合って来なくなることが今後の課題として推察される。尚、地域に根ざした伝統文化などはビジネス化することで形が変わったり、ギクシャクしてくることが予め想像される。その為この部分だけはツアーに盛り込まないとか、一線を超えないという地元ルールが必要になってくる。どうしても日本人はやりすぎる、出し過ぎる文化が根底にあるので線引きは難しいが、ある程度取捨選択してビジネス版お遍路にしていかないと継続できない恐れがある。素敵な文化である「お接待」などは元々ビジネスの為に極めて利他の精神によるものと推察されるが、こういった古くから伝わる行為そのものがATツアーにより不自然になってしまったり、形を変えて継承されてしまうことを恐れる。今回愛媛＆高知、そして以前より何度も訪れている四国の施す精神は、人々の心身に染みついているのではないだろうか。お遍路については気軽に参加することができるボリュームで、知識を深めることができた。

ウイロビー 晃恵氏

とても興味深い体験で、これぞ四国ならではの、昔から地域がお遍路さん文化を守り、お参りをするお遍路さんも文化を継承しているダイナミズムは他には見られない唯一無二のコンテンツである。とはいえ、もともとコアなお遍路をしようと思って訪れる方ではなく、初めての方や観光客に向けたコンテンツの場合、ガイドは非常に大切であると感じた。今回は文化的な側面でお話できる方、お遍路のプロフェッショナル(大先達)のお二方という特別編であったが、こまかくもつこくない適度な説明であったし、またこの人たちに会いに帰ってきたいと思わせる体験であった。

ただ、果たして本番ツアーでもこの特別編で行くのか？英語を話される方の場合は？特に英語話者の場合はそもそもその日本文化の説明も必要であるため、ガイドは不可欠。設定日を週1くらいで設定し複数のFITをグループにまとめて行くなど工夫が必要。

③カルストE-bike

モニターツアー



高原の風を感じるサイクリング体験

- ビジョン
- 環境への負荷軽減
 - 地域間で連携して施設や移動手段を共有することによる利用者及び消費の拡大

ターゲット（セグメント）

- 地理や地形に興味関心がある
- サイクリングが好き

日本三大カルストの一つで、愛媛県と高知県にまたがる尾根沿いに広がる「四国カルスト」。東西約25kmにおよぶカルスト台地には、白い岩肌の石灰岩が点在し、春から秋にかけては大草原に牛がのびのびと放牧され、のどかな景色が広がっている。

四国カルストを知り尽くしたガイドが、身体や環境への負荷の少ないE-bikeでカルストのおすすめポイントへ案内する。

【実施概要】

所要時間：3時間

現地対応者：ソラヤマいしづち 松本勝氏（ガイド）

【実施内容】

四国カルストの全体・コース説明⇒E-bikeの乗り方講習⇒E-bikeサイクリング（途中、自然景観、風力発電、放牧牛に関する解説あり）コース：カルストテラス～姫鶴荘往復約10km

今回は天候の不安定な日の実施となったが、屋外で説明する予定だった内容を屋内に変更して行うなど、臨機応変に対応していただくことで、参加者の負担の軽減につながった。ただ、中止を決定する基準については考えておく必要がある。



サイクリングの様子①



サイクリングの様子②

評価・コメント カルストE-bike

モニターツアー

1.体験に関する評価	バートック氏	小峰氏	ウイロビー氏
旅行者目線での適正価格はいくらか？ *4~6名参加時の一人当たり料金（税込）	5001~7500円	5001~7500円	5001~7500円
体力レベルはどうか（遍路とE-bike、フォレストのみ）	3	3	3
体験を通して地域に貢献できる内容か	3	3	3
ストーリー性は十分にあるか	3	4	4
四国カルスト地域ならではの価値・独自性があるか	5	5	4
地域の人との交流ができるか	2	4	2
顧客自ら能動的に楽しめる体験であるか	4	5	3

2.体験コンテンツに関する情報として、情報ツール（インフォメーションパック）にどのような情報を入れると良いか
マンディ・バートック氏
身長が低すぎて自転車に乗れない人のための代替手段を含めた方がよい（150cm以下の人のための選択肢はなかった）。
小峰 邦良氏
荒天時の中止基準、服装、エスケープルートの事前説明があると安心。転倒時や寒冷対応のためにグローブは必須。
ウイロビー 晃恵氏
コース上の高知と愛媛の県境がわかる地図 勾配や上りのきつさ、下りの急さについては事前に十分にお知らせが必要。 装備についてのインフォメーション、身長のヒアリング、緊急時連絡先

3.体験評価に関するコメント/課題・改善ポイント等

マンディ・バートック氏

このコンテンツを正確に評価するのは難しい。晴れていれば、E-bikeで四国カルストを回るのは1つの選択肢として素晴らしいと思う。道路表示はかなりきちんと整備されているし（ただし、英語の地図には自転車道がすべて表示されていなかった）、風景も面白かった。しかし、悪天候の場合、E-bikeは危険なアクティビティになり得る。残念ながら雲が立ち込めると一切の景色が見えず、雪で道がかなり滑りやすく、やや危険だった。凍えるような寒さで外にいるのは全く楽しくなかった。そのような条件では、こんなつらいアクティビティにお金を払う人はほとんどいないだろう。悪天候に備えて、バックアッププランを用意するのがベストだと思う。一つ残念だったのは、レンタルバイクが背の低い人向けに用意されていなかったこと。私の身長にあう自転車を見つけるのは難しいようだった。子供が訪れた場合はどうしたら良いか？単に子どもはレンタル禁止なのか？私は150cmで、これは日本では珍しい身長ではないが、ほとんどの自転車は大きすぎた。足がしっかりと地面につかなければ、乗りごごちが悪く安全でないと感じてしまう。

小峰 邦良氏

寒すぎた！頑張った！！楽しかった！！が総評。ガイドの説明や雰囲気は好印象。しかし出発前のブレーキングや変速機の説明などはマニュアル化し英語化し、誰が運営しても同じ状況を作り出す必要がある。何かあれば死に繋がってしまうアクティビティのセーフティトークは必須。アイデアとしてはフォレストアドベンチャーのようにフリーフィングの時間を作り、動画やパネルなどで多言語化及びマニュアル化して頂くのが人件費もかからず、統一感が出る。今回は恐らくツアー史上最もタフなコンディションだったと思うが、十分に楽しめた。地元の方の計らいで休憩時間に姫鶴荘を開け、暖を取ったのは最高の時間だった。あれだけのフレキシブルさを出せるのは地元の強み。最終的に一番印象に残ったのは松本さんの最後までポジティブなガイディング。私もそうだが、悪天やトラブルなどが発生した場合に一番大切なのは、ガイドがネガティブな態度を取らないこと。そしていつもの説明に固執せず、フレキシブルに参加者の顔色や発言に答えて満足度を下げないこと。今回の悪天をガイドするのは大変だったと思うが、参加者にとって最高に思い出深いカルストツアーだった。

ウィロビー 晃恵氏

季節的な問題で今回はあいにくの荒天の中であるが、地形やジオ、酪農の現状について学べた点は興味深く参加できた。

E-バイクについては大人用のサイズを低身長～高身長まで3種類は必要。海外のお客様を想定する場合、身長190cm～の方も対応できるものがあることがベター。また、親子連れも想定できるため、子供用もあるといいと思う。

自転車走行前に乗り方の練習、ブレーキのかけ方の講習があったのは素晴らしい。プラスでハンドサイン（止まる・曲がる・減速）もあったほうがいい。

寒い中であつたため有難かったが、自分たちで水を持ち歩いているので原則飲み物の提供は必要ない。どうしても温かいものをといることであればガイドが温かいお茶やお湯を保温できる水筒で持ち歩き提供が望ましい。

地元ならではのストーリーではあるが、ガイドと自転車にだけお金が落ちるのはもったない気がする。例えば、放牧牛の保全のためのドネーションなど、このエリアの構成物にもお金が落ちる仕組みを費用に入れてもいいかもしれない。

④津野の森遊び フォレストアドベンチャー

モニターツアー



心身を解き放つジップライン体験

- ビジョン
- 森林の保全管理
 - 地域活性化

ターゲット（セグメント）

- ・ 自然環境の保全に興味関心がある
- ・ アクティビティを通して地域貢献したい

日本最後の清流と称される四万十川源流点を有する豊かな森林を有する津野町。人の手が入ることで維持され、自然景観が保たれている森林でジップラインを体験する。

【実施概要】

所要時間：2時間

現地対応者：フォレストアドベンチャー・高知 中山泰全氏、大崎健司氏、スタッフの皆様

【実施内容】

ジップライン体験（キャンピーコース、アドベンチャーコース）

ジップラインそのものは楽しめるアクティビティであるが、この体験をなぜここでするのかというストーリーの設定が不十分であった。商品化に向けては、四万十川という四国を代表する清流と、森林活用の意義を説明する時間を設けたり、この地域ならではの森の恵みをふんだんに使った食を入れる等、一貫したコンセプトを基に体験を提供する必要がある。また、アクセスしにくい場所にあるため、高知や愛媛を起点とするツアーの中に加えられることができるよう、交通も含めた設定が重要。



体験の様子①



体験の様子②



体験の様子③



体験の様子④

評価・コメント 津野の森遊び フォレストアドベンチャー

モニターツアー

1.体験に関する評価	バートック氏	小峰氏	ウイロビー氏
旅行者目線での適正価格はいくらか？ *4~6名参加時の一人当たり料金（税込）	5001~7500円	≤5000円	≤5000円
体力レベルはどうか（遍路とE-bike、フォレストのみ）	4	3	3
体験を通して地域に貢献できる内容か	2	3	3
ストーリー性は十分にあるか	1	2	3
四国カルスト地域ならではの価値・独自性があるか	1	2	2
地域の人との交流ができるか	1	2	3
顧客自ら能動的に楽しめる体験であるか	4	5	4

2.体験コンテンツに関する情報として、情報ツール（インフォメーションパック）にどのような情報を入れると良いか

マンディ・バートック氏

手袋が必要であること（または、現地で手袋を購入できること）を伝える。

小峰 邦良氏

高所恐怖症の方の別プログラムの案内！ Ex) ハート滝への軽トレッキングや施設内で間伐した際に出た木材でクラフト体験などがあると体験できない方の満足度も上がる。山菜取りやキノコ狩りでもOK。流石に2時間待ち続けるわけには行かない。

ウイロビー 晃恵氏

高さがどれくらいのアクティビティをすることかを伝える。

ハートを探すなどジップラインそのもの以外の提供できる楽しみ方（ほぼ終わりのタイミングで知らされ、聞いた人しか探せなかった）

周辺情報として、周辺林の保全にどう関わっていて、参加できる方がどのように参画できるか。

3. 体験評価に関するコメント/課題・改善ポイント等

マンディ・バートック氏

楽しい午後となったが、他の場所でもできるアクティビティだと思った。フォレストアドベンチャーは日本中に少なくとも20箇所、さまざまなアドベンチャーパークを展開している。海外からの旅行者が行くとしても、主要な旅行先から最も便利な場所に行くだろう。特に非常にアクセスしにくいこちらのパークを訪れるために、彼らはわざわざ足を運ぶことはないだろう。ジップラインの環境は美しく、スタッフはとても親切だった。ただ、他のアクセスが容易なフォレストアドベンチャーがある中で、海外からわざわざここに来てジップラインをするとは考えにくい。

小峰 邦良氏

私もこのような施設を運営している身なので自分の施設やスタッフと見比べつつ、十二分に楽しませて頂いた。何よりも担当してくれたスタッフの方が親切＆丁寧でフレッシュ。それだけでこの施設の印象が良くなる。アイテムやエレメントも充実していて、大人から子ども、リピーターにも受ける事間違いなし。しかしこのアクティビティにストーリー性や独自性を求めるのは極めて難しい。もし出来るのなら、下流部にあったハート滝で滝行をしたり、シャワークライミング要素を取り入れたり、里山の林業体験（枝打ち体験、間伐、クラフト）など入れるとさらに魅力度が上がるかも。とは言えこのような体験を求めに来た場合は、想像以上の面白さやストレス解消になること間違いなし。やはり、自然好き＆川好きとしてはもっと四万十川の源流に触れたかった。日本一の清流といえど世界一の清流と言っても大袈裟でない。もっともっと「四万十川源流部」「日本一の清流のふるさと」「世界一生きている淡水」を売るべき。そして何よりもそれに触れられる体験を作って欲しい。

ウィロビー 晃恵氏

地域の里山を使っているという意味では地域への経済効果は見込めるが、ATの素材としてはもう一工夫必要。なぜそこにこの施設を作ったのか？自然環境の説明は？地域文化とのかかわりは？地産地消・地元製品の販売や活用など地域経済との結びつきは？このあたりがあまり見えなかった。

周りの森林整備と施設のかかわりがあるのだから、例えば整備や植林などの保全金を費用に入れてはどうか。オフセットへのドネーションは持続可能性として、ストーリー的にも結びつけやすい。

せっかく津野山であるのだから、津野山茶の提供・販売もしくは地元の生産者さんの紹介など地域との結びつきに発展させられるのでは？森林の保全活動の話をはさんでいただけるとよかった。

アクティビティとしてはとても楽しい。

⑤津野山古式神楽保存会との交流



一緒に見て、舞って、鳴らす！みんなで楽しむ神楽体験

ビジョン ➤ 地域伝統文化の維持・継承

ターゲット（セグメント）

- ・日本の田舎に関心がある
- ・伝統文化を守る人々との交流から地域への理解を深める

1000年以上続く津野山古式神楽は、人々がより楽しめるよう京の都からもたらされた雅楽が発展した舞楽である。練習風景や実際の演目を鑑賞するほか、メンバーの方々から舞い方や鳴り物（楽器）を習って交流を深めることで、「神を招いて一緒に遊ぶ」をコンセプトとしたこの古来からのエンターテインメントを体感する。

【実施概要】

所要時間：2時間

現地対応者：津野山古式神楽保存会 副会長 嶋崎義豊氏、保存会メンバーの皆様

【実施内容】

津野山古式神楽の説明の後、練習風景の見学、鳴り物の参加、演目一部分の再現と舞い方の体験を通じた交流を行った。

保存会メンバーの皆様の温かい雰囲気により、訪問者全員が迎え入れられ一体感のある体験となった。当初、演目を1つか2つ披露していただく予定であったが、時間の制約と流れの中で練習と体験のみとなった。商品化にあたっては、保存会の方と催行者が密に連携し、持続可能とするべく地域の方々の負担とならないよう計画する必要がある。



体験風景①



体験風景②



体験風景③



体験風景④

評価・コメント 津野山古式神楽保存会様との交流

モニターツアー

1.体験に関する評価	バートック氏	小峰氏	ウイロビー氏
旅行者目線での適正価格はいくらか？ *4~6名参加時の一人当たり料金（税込）	5001~7500円	5001~7500円	10001~12500円
体力レベルはどうか（遍路とE-bike、フォレストのみ）	-	-	-
体験を通して地域に貢献できる内容か	5	5	4
ストーリー性は十分にあるか	5	5	5
四国カルスト地域ならではの価値・独自性があるか	4	5	5
地域の人との交流ができるか	5	5	5
顧客自ら能動的に楽しめる体験であるか	5	5	5

2.体験コンテンツに関する情報として、情報ツール（インフォメーションパック）にどのような情報を入れると良いか

マンディ・バートック氏

神楽を舞うので、動きやすい服装でお越しください。と伝える。

小峰 邦良氏

クリスチャンの方も多いと思うので、かなり宗教的な要素を持っていることを事前に伝える必要がある。信仰の理由で参加できない内容があると受け入れ側も参加者も気まずい雰囲気になってしまう恐れも。あとはサプライズで多くの情報を伝えないほうが面白い。

ウイロビー 晃恵氏

神社が開催場所であるため、お賽銭をお持ちいただくことが推奨（マナー）
社に上がるため靴下着用

3.体験評価に関するコメント/課題・改善ポイント等

マンディ・バートック氏

この体験内容は、モニターツアーの中でも特にお気に入りとなった。嶋崎氏が温かく歓迎してくださったことから、私たちが本当につながりたいと感じているように感じた。保存会の雰囲気は非常にオープンで、皆さんが本当に関心がある（少なくとも不満には思っていない）と思った。一部の宗教に関する体験や場所のことを考えると、これはとても好意的なものである。楽器の演奏方法を学ぶこと、恵比寿や魚の役を演じること、お盆のバランスを取ることなど、実際に体験した内容はすべてとても楽しかった。自分が何をしているのかよく分からなかったときも、笑われているような感覚は一切なく、むしろ、私がやってみようとするのを皆さんがワクワクしながら見てくれているように感じた。一つ提案があるとすれば、最後に衣装を着て保存会の方が演目で締めくくのはどうだろうか。そうすれば、参加者は保存会の皆さんの実際の舞台を鑑賞することができる。また、お面についてもっと知りたかった。神社の中はとても暖かかったです。寒い夜だったので、歓待していただいていると感じた。終わりにいただいた贈り物についてですが、参加者に様々な物を渡す必要はないと思った。シンプルに5円硬貨と、おそらくお米で十分。お土産にいただいた紙のついた竹の棒については、お気持ちは嬉しかったのだが、これをどうしたらいいのか分からなかった。旅行者の多くはどうか使えばいいのか分からず、欲しい訳ではないけれど単に義務感で受け取るものと考えてしまうだろう。もし、嶋崎氏が意味のあるものを贈りたいと考えておられるのであれば、たとえば、絵のセンスをお持ちのメンバーにお願いして、参加者のためにお面の絵を描いてもらい、保存会メンバーの何人か、あるいは全員がそれにサインするというのはどうだろうか。あるいは、簡単に神社の名前と日付を書いて、思い出の品とすれば、小さくて持ち運びしやすい記念品として持ち帰ることができる。

小峰 邦良氏

あまりの感動に涙が出た。皆さんに歓迎されている雰囲気は想像以上にパワーがあった。過去にお神楽や獅子舞などを見る機会があったが、実際に輪に入り太鼓を叩いたり、鈴を鳴らしたり、舞ったりしたのは初体験！！これぞこの地に伝わる日本の伝統文化を味わえた。赤ちゃんからお年寄りまでが全員で五穀豊穡を祈り、そして神様に感謝する姿は美しすぎて言葉にならなかった。実際のお神楽でなく練習に加わったことが一気に地元の方たちと打ち解けられる要因の一つ。しかしこれもお遍路と同じだが、やりすぎてしまったり、もてなし過ぎてしまうといずれ無理が生じてしまう。皆さんの出来るペースで出来る内容で、一番手が掛からないバージョンを作り、誰でも運営＆引き受けできる体制作りが急務。更にこれも同じだが、よそ者には絶対関わらせない地元のルールを作り、脈々と受け継がれてきた伝統の灯を絶やさぬように、今後も続けていって保存して行って頂きたい。僕に一生懸命鈴の鳴らし方を教えてくれた少年の誇らしげな表情と優しさが印象深い。

ウイロビー 晃恵氏

体験としても、内容の進め方としても素晴らしい。地元とのかかわり、地域住民の暮らしと誇り、過去から未来へのつながりこういったものを見るだけではなく「体験」できる貴重なものだと思う。「体験」以上の「招かれて混ぜてもらおう」という感覚になれるものであった。

今回素晴らしい経験をさせていただいたが、集落の方々にとって負担でない進め方、受け入れ方が今後大切。観光が地域の暮らしを圧迫することがないように受け入れ頻度や時間ある程度絞って集落にとって無理がない設定に配慮しなくてはいけない。また訪問前はある程度の演奏をするのだろうという予想であり、飲み物の提供やお土産に関しては想定しておらず、おそらくほとんどの参加者も同じであろうと思う。普段の暮らしに結びついている神事という特別な場所、しかもその練習に参加させてもらえるという特別感が何よりも貴重でコアであるべきなので、それ以上の準備は必要がないと思う。

もしどうしてもというのであれば、ポットに温かい地元のお茶を準備いただいて「地元産のお茶で、道の駅や〇〇で買えます」と言っただけであれば神楽以外への地域社会経済への広がり生まれる

演舞いただいた恵比寿舞以外の面が飾ってあったので、その説明があるといいなと思う。

また、今回お財布を持たずに行ってしまったためできなかったが、神社での開催ということであれば、お賽銭は持って行ったほうが良いと思う。受け入れる地元側も、参加者も気持ちよく使わせてもらえるように。

⑥ 貝の川棚田保存会との交流 キックボード



貝ノ川の棚田散策と交流体験

ビジョン ➤ 伝統の保存・継承

ターゲット（セグメント）

- ・日本の伝統的な景色に興味関心がある
- ・活動への参加を通して地域貢献したい

千枚田（小さなものまで数えれば千枚にも達する）ともいわれるこの風景は、訪れた人にどこか懐かしさを感じさせる、日本の原風景の一つである。

しかし、日本にある水田のうち棚田が占める割合はわずか8パーセントと言われ、米消費の減少や減反政策、農家の高齢化などにより、棚田は減少傾向にある。

この風景を保存・継承すべく、さまざまな活動に取り組んでいるのが貝ノ川棚田保存会である。保存会との交流により、棚田の維持・継承への想いを知り、古くから伝わる棚田の歴史に思いを馳せる。また、狭い道の走行に適した電動キックボードに乗り、貝ノ川の棚田を散策する。

【実施概要】

所要時間：3時間

現地対応者：貝ノ川棚田保存会会長 大崎 正氏、貝ノ川地区等の皆様

【実施内容】

津野町役場でキックボードの準備・安全講習⇒貝ノ川棚田の交流館までキックボード走行⇒交流館にて地元の方々と交流⇒キックボード走行⇒キャンドルホルダーの製作⇒津野町役場までキックボード走行

キックボードを使って棚田の景色を楽しみながら参画することができた。一方、傾斜が急なので乗り慣れていない人は怖いと感じてしまう人もいるという意見があった。事前に説明をすることが必要。また、キャンドルホルダーづくりに関しては貝ノ川棚田保存会の活動として結びつきがあり、保存活動の一環であるということを参加者に伝える必要がある。



交流の様子



キャンドルホルダーづくり



キャンドルホルダー



キックボード走行

評価・コメント 貝の川棚田保存会との交流 キックボード

1.体験に関する評価	バートック氏	小峰氏	ウイロビー氏
旅行者目線での適正価格はいくらか？ *4~6名参加時の一人当たり料金（税込）	≤5000円	≤5000円	≤5000円
体力レベルはどうか（遍路とE-bike、フォレストのみ）	-	-	-
体験を通して地域に貢献できる内容か	3	4	2
ストーリー性は十分にあるか	3	4	3
四国カルスト地域ならではの価値・独自性があるか	2	3	2
地域の人との交流ができるか	3	5	3
顧客自ら能動的に楽しめる体験であるか	3	5	3

2.体験コンテンツに関する情報として、情報ツール（インフォメーションパック）にどのような情報を入れると良いか

マンディ・バートック氏

日本の運転免許証または国際免許証が必須であること。

小峰 邦良氏

自転車に乗るのが苦手な方だとスタンディングタイプのキックボードは難しく危険な為、自転車に乗れるかどうかを事前に聞いておく必要がある。外国人の中には国際ライセンスを持っていない方も多いと思うので、徒歩での棚田散策プランも並行して行くと、棚田作りの苦勞や棚田の村で生活するお年寄りの体力&苦勞&面白みが体験できる。その他ロングスカートやロングマフラーなどはタイヤやエンジンに巻き込まれる危険性があるので、動きやすい適当な服装のアドバイスが必要。

ウイロビー 晃恵氏

お手洗いポイント
キックボードの使い方のインフォメーション
勾配が大きい・道幅が急に狭くなる・年配者が多く住む地区であるため運転に注意が必要

3. 体験評価に関するコメント/課題・改善ポイント等

マンディ・バートック氏

大崎氏は好感の持てる方であり、棚田を守ろうとする気持ちは素晴らしいと思う。ただ私個人の意見として、リサイクルすることのできないペットボトルを使った活動は、海外の方にとって興味を引く内容ではないと思う。とはいえ、キックボードに乗って棚田の中を走るの楽しかった。田植えの時期等は特に、途中で1、2カ所止まって美しい棚田の写真を撮れるようにしてほしいと思う。あるいは、実際にキックボードをセルフガイドのアクティビティとして用意するのもいいと思う。たとえば、キックボードをレンタルすると、地元の方が作った地図をもらって、そこには「最高の写真スポット」、「自撮りに最適な場所」、「最高の軽食スポット」、「最古のお地藏さん」などを書いてあるとか。もし特定の日に観光客が予約する場合は、私たちが地元の方々と行ったように、地域の方たちとの交流の場を設けることもできるだろう。一緒にできるゲームや地域のアクティビティはあるだろうか。ペットボトルのキャンドルを作るよりも、観光客が地域の方から麻雀を習ったり、一緒におだんごを作ったり等、地域の人たちと一緒に何かできることがあると良いかもしれない。そうすれば、より多くの人を巻き込むことができるし、ペットボトルの使用も避けることができると思う。

小峰 邦良氏

人生初の電動キックボードに乗り棚田へ出発。速度も乗り心地も最高に良く、テレビで見る「出川の充電旅」に出演したような気になった。キックボードの練習場所も充実していて案内やエスコートも丁寧であったため安心して出発できた。とは言え4日間のプログラムで一番ハイリスクなアクティビティの為、最初のセーフティートークや運営マニュアルなどは明文化し、誰が行っても統一した内容になることが必須。その他、途中で集落センターに寄りお年寄りとの交流があり心が和んだ。ただ時間が短いと特にやる内容が決まっていなかったため自ら話しかけることが苦手な方はストレスを感じてしまうかもしれない。なのでお手玉とか折り紙とか番茶の淹れ方などを教えてもらいながら徐々に打ち解けあってくると、受け入れ側も参加者側も自然に心が通うと思う。無論受け入れ側に無理の無い、なじみ深い遊びや生活に根差した内容で十分嬉しい。クライマックスの棚田山頂までのツーリングはすこぶる気持ちよかった。山頂での棚田の話（アプリを駆使した英会話も好印象！）やキャンドル作りも良かった。やはり、上手い苦手は置いておいて、そこから見られる風景や旅の思い出を和紙に書くのは面白い。出来れば「いろは食堂」も個人的には好きだが、あそこの景色を見ながらおにぎり弁当を頬張りたかった。もし雨の場合は集会所でキャンドル作りやお弁当が食べられるとなお良い。最終日の昼食でかなり胃が疲れて来たので、素朴で健康に消化に良いお弁当を欲した。無論番茶付きで。美しい棚田や石垣の作り方の秘話も聞けると尚嬉しい。

ウィロビー 晃恵氏

キックボードで田舎風景をめぐるという意味ではいいかもしれないが、今回の体験だけでは貝ノ川の棚田自体の魅力があまり伝わってこない。なぜ貝ノ川でなければいけないのか？貝ノ川の棚田ではどういう農法をしていたり、「田んぼ」とつながる普段の暮らしはどのようなものなのか説明だけでなく体験できるものであるといいと思う。

集会に参加させてもらったが、我々の席が端で、集落の方の席が反対側と分かれてしまい、なおかつ時間も短かったため「交流」というには薄くなってしまったのが残念。今後同じように交流会を持つのであれば、地域の人の間に入れさせていただいた方がいい。

集落への経済的貢献ができていいのか？ガイド代だけでなく、地元のものを購入できる仕組みを。もしくは棚田保全金の仕組みを作り、棚田集落の景観を保つことに貢献できる訪問となる工夫が必要。訪問ルールだけでなく、その場合必ず「あなたの訪問が地域の役に立っている」という参画型訪問・滞在の形をみせること。

(2) 宿泊と食事

① ふるさと旅行村

コテージ、ケビン、キャンプ場、多目的広場、プラネタリウム、動物の触れ合い牧場等、自然を楽しむ体験・体感型総合施設。本モニターツアーでは、宿泊および夕食づくりのため、コテージを2棟利用した。

【実施概要】

現地対応者：久万高原町ふるさと創生課 岡 誠也氏

【実施内容】

道の駅さんさんで購入した地元食材を中心に、参加者全員で夕食の準備を行った。また、別事業にて開発中のビーガンカレー（久万高原町のたかまびを活用）の試食も併せて実施。

招請専門家3名、四国運輸局1名、リベルタスタッフ3名で宿泊。

コテージは1棟貸しで自由度が高いものの、すべて自分たちで用意する必要があるため、インバウンド向けには利用しづらい印象があった。英語表記の説明資料やガイドの補助は不可欠。また、タオル等のアメニティが有料のため、事前に注意喚起するかツアー価格に含めて提供する必要がある。



コテージ外観



1階和室



2階洋室



夕食準備の様子



地域の野菜を使ったメニュー①（ビーガンカレー）



地域の野菜を使ったメニュー②

評価・コメント ふるさと旅行村

1.評価	バートック氏	小峰氏	ウイロビー氏
四国カルスト地域ならではの価値・独自性があるか	2	2	3
訪日旅行者ニーズへの対応、フレキシビリティがあるか	3	3	2

2.評価に関するコメント/課題・改善ポイント等

マンディ・バートック氏

ここは、自分で運転して、食事も自分で用意するのを厭わない人たちにとっては良い場所だと思う。ただし、キッチンやお風呂といった家の中の基本的な設備に英語でラベル付けがされていて、宿泊者が近くで食べ物を入手しやすい場合に限る。ツアーの場合、旅行者が自分たちで食べ物を探し、購入し、準備するには大きな負担となる。特に、複数のキャビンに旅行者が宿泊しガイドは一人だけの場合はなおさらである。また、宿泊者は自分たちですべてを賄う必要があるため、地元の人たちと交流したり地元のビジネスをサポートする機会がほとんどない。外でBBQができるような季節に大勢で来る場合はよいかもしれませんが。サステナビリティの観点から見ると、お風呂に備わっているシャンプーやリンスはとてもよいと思いますが、使い捨てのお箸やキッチンタオルとして使っていたペーパータオルはあまりよくない。1泊した後の感想として、ベッドもあまり快適とは言えなかったことを追記したい。マットレスがとても薄くて、そば殻の枕はとても硬かった。安眠できる場所ではなかった。

小峰 邦良氏

使いやすいコテージだったが、もう少し付近の整備があると尚良い。コテージ周りの高木がコテージの老朽化を早めている。そのせいで内部の湿度も高く少々カビの匂いが気になった。もう少し森林整備や古い看板、東屋など周辺整備を外部の目で総見し、対処することで全く印象が変わる。食事に関してはビーガンカレーは思いのほか美味しかった。そして皆で道の駅で買い出しし、オリジナルのユズポンを作り食べた水炊きも思い出の味。そしてこの事で参加者の距離が一気に縮まる。

ウイロビー 晃恵氏

施設として、森林のなかに立っているため環境はいいが、ベッドの硬さ、枕の硬さはおそらく海外の人にとって（一部日本人も）厳しいと感じた。例えば薄手のマットレス1枚追加するだけでかなり変わるかと。調味料は致し方ないとして、おたまやまな板など、調理に不可欠な道具がないのはよろしくない。例えば簡単で多くの方が調理するであろう「カレー」を作ると仮定して、調理から提供までに何が最低必要かで考えるといい。コロナの影響かもしれないが、ペーパーを多用せざるをえないのは環境に配慮した滞在とはずれてしまう。食器用布巾とテーブル用付近の用意は必要。（使用後漂白除菌）サステナビリティやごみを出すことを気にする人にとっては心苦しい滞在となってしまふ。山小屋ロッジであるため、ある程度仕方がないかもしれないが、ベッドの硬さは厳しいものであった。普段ベッドに寝ている外国人となると翌朝の体の疲れは相当ではないだろうか。（私とMandyがそうだった）薄手のマットレスを用意いただき「畳ベッドに敷布団が1枚なので、硬いと感じる方がいるかもしれません。ご希望の方はオプション（有料）でマットレスを貸し出します」など、選択できるといい。

②星ふるヴィレッジTENGU

プラネタリウムや天文台を併設する四国カルスト天狗高原の宿泊施設。

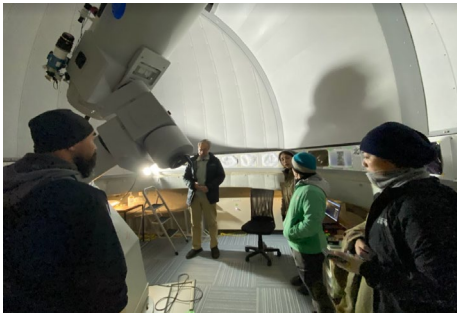
【実施概要】

現地対応者：久保 伸弥氏、池澤 侑美氏、五藤光学研究所 小澤 祐二氏

【実施内容】

チェックイン後、天文台の見学。夕食後にプラネタリウム見学。プラネタリウムでは、通常の上映内容と特別な依頼がある場合に製作・上映するバースデイプランの上映をいただいた。宿泊は、招請専門家3名、ソラヤマいしづちスタッフ（翌日ガイドのため）1名、リベルタスタッフ3名で利用。

天候不良のため空の観測はできなかったが、小澤氏より天文台で観測できる天体の説明と共に実際に撮影した画像を見せていただいた。プラネタリウムでは、リラックスした雰囲気でも星空を眺めたり、サプライズのお祝い等のプラネタリウム活用例を見せていただいた。現在、天文台の見学は特別室の宿泊者のみ対象であるが、インバウンド向けにご対応いただけるような追加プランの実現や、プラネタリウムのさらなる活用を図り、冬の集客にもつながる仕掛けを検討したい。



天文台見学



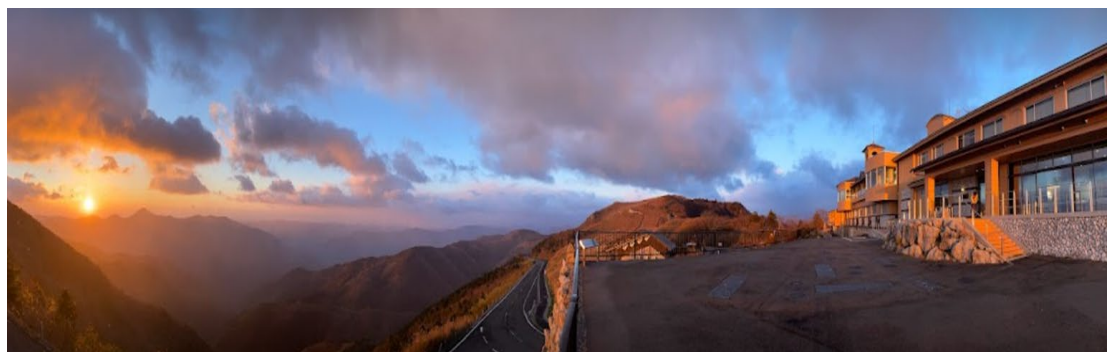
プラネタリウム見学



客室例



夕食例（一部）



星ふるヴィレッジTENGU（右）と朝日

評価・コメント 星ふるヴィレッジTENGU

1.評価	バートック氏	小峰氏	ウィロビー氏
四国カルスト地域ならではの価値・独自性があるか	5	5	4
訪日旅行者ニーズへの対応、フレキシビリティがあるか	4	4	4

2.評価に関するコメント/課題・改善ポイント等

マンディ・バートック氏

ホテルの部屋はきれいで、ベッドは快適だった。2階の部屋には、星を見るのに最適な大きな窓があった。お風呂は特に特別なものではありませんが、サウナと温泉の両方があり、更衣室はしっかり暖房がついていた。夕食は美味しかった。望遠鏡を見るのはとても面白かった。実際に望遠鏡で晴れた空を見られたら良かったのだが、そうではなくても小澤氏の星と惑星についてのお話から、彼の情熱を感じることができた。

小峰 邦良氏

とても清潔感があり、ロケーションも素晴らしくお気に入りの宿。スタッフの印象も良く、居心地の良い上質な空気が漂っている。お食事の量も丁度良く、高知のカツオの刺身は絶品だった（欲を言えばもう少し食べたかった）。朝食も程よく、品数も多く〇。欲を言えばせっかく地元のお米を売り出すのであれば、もう少し仰々しく出しても良いのでは？そして釜で炊いた炊き立てのご飯が理想。美味しいご飯はおかずが要らない。その他、オプションの天体観測＆プラネタリウムには感動した。特に誕生日パックの演出は涙が出た。何よりも説明してくれた池澤氏＆小澤氏の人柄がにじみ出ている。

ウィロビー 晃恵氏

天文台での説明、プラネタリウム、ロケーション（ベランダからカルストが見える・愛媛と高知の県境）など思い出に残る滞在であるし、また誰かを連れて来ようと思わせる施設。プラネタリウムでのイベントやスタッフによる展示説明など、独自性もあり素晴らしい。

食事どれもおいしく地域のもを上手に取り入れていると感じた。

自社webも多言語で用意されているのも素晴らしい。

客室のしつらえも快適であった。ただし冷蔵庫のウェルカムドリンクは不要。せっかくおいしいお水が水道から出ているのだから「私たちの水道水は地域のきれいでおいしい自慢のお水です。安心してお楽しみください」など表示されたほうが良い。マイボトルを持ち歩いている人にとってはとてもありがたい。

この施設ですか、サイクリングですか、両方でもいいのだが町の取り組み（風力発電）はもっと評価され話されてもいいと思う。町の生活に必要な分を十分に発電し、なおかつ周辺に売電できるというのは、JSTS-DもしくはGSTCの自然環境・社会経済に大きくかかわっている。

③遊山四万十 せいらんの里

四万十川源流に最も近く、せせらぎを聞きながらゆったり過ごせる津野町の宿泊施設。

【実施概要】

現地対応者：谷脇 良枝氏

【実施内容】

夕食は、招請専門家3名、四国運輸局2名、リベルタスタッフ3名で利用。宿泊は、招請専門家3名、リベルタスタッフ3名で利用。

津野山古式神楽保存会との交流体験や、フォレストアドベンチャー・高知のジップライン体験の宿泊拠点として最適。また、四万十川源流の自然豊かな環境を満喫するには絶好の場所でもある。部屋数が6室と少ないため、小グループツアーか個人旅行が対象となる。また、非常に人気のある宿なので、かなり前から部屋をおさえる必要がある。本モニターツアーでは、夜に神楽の交流体験を設定していたため、夕食の時間が短めとなった。ゆったり過ごしてもらえるようなプランニングが必須。



客室外観



夕食（一部）



客室（ツイン）



朝食のビュッフェ



客室（ダブル）



バルコニーからの眺め

評価・コメント ふるさと旅行村

1. 評価	バートック氏	小峰氏	ウイロビー氏
四国カルスト地域ならではの価値・独自性があるか	4	5	4
訪日旅行者ニーズへの対応、フレキシビリティがあるか	3	4	4

2. 評価に関するコメント/課題・改善ポイント等

マンディ・バートック氏

せいらんの里の部屋はとても快適だった。ベランダは星を眺めるのに最高の場所だったが、周りに転落防止用の手すりがいないため、夜は少し危険かもしれない。ベッドと枕は快適だったが、一方で、バスルームのアメニティは必要ないと思った。フロントの近くに、必要なものを忘れた人のためにアメニティを提供するテーブルがあればよい。個別のプラスチックバッグに歯ブラシやカミソリなどを入れて各部屋に置くのはやめた方がよいと思う。食事は美味しかったが、夕食には40～60分以上必要だった。この時の夕食が、いただいた中で最も量の多い食事の一つだったが、急いで食べなければならないような感じがした。朝食は良かったが、正直なところ、すべてビュッフェ形式であればもっと良かった。そうすれば、ご飯、お味噌汁、魚などを自分で決めて食べることができる。ほとんどの外国人は、ご飯とお味噌汁の朝食にわりとすぐに飽きてしまう。前日の夜に事前に彼らにビュッフェにしたいかどうか尋ねてみて欲しい。彼らは「はい」と答えるかもしれない。そうすれば、スタッフが朝用意しておいた食べ物を無駄にすることはない。また、テイクアウトのお茶があるのは良かったが、付箋に名前や飲み物の名前を書いてカップにつけるのは無駄だと思う。直接カップに書くので十分だと思う。

小峰 邦良氏

全館バリアフリーで平屋の清潔な佇まいが素敵すぎる。裏に流れる四万十川源流も遮蔽物なくデッキから見れ、一日中お茶やコーヒーをすすりながら居続けたいと思った。6つしかない離れの個室も都会の喧騒を忘れさせ、落ち着いていた日々の疲れを癒すのに最適。お料理はどれも地元食材を使っていて、お酒も地酒ラインナップもしっかりしていて、様々な趣向の方も満足いく。特に朝食に出た羽釜炊きの新米が美味しく、炊きたてのアナウンズや魅せ方も感動した。強いて言えばモニターツアーのタイムスケジュールがタイトだった為、もう少し部屋やデッキ、館内その他周囲の自然をじっくり&ゆったりと散策したかった。心からプライベートでもう一度訪れたいくなる宿だった。

ウイロビー 晃恵氏

ロケーションが素晴らしく、施設の方々が宿泊者に十分に説明や対応をしていると感じた。また、朝食では返品対応やフルーツ・ヨーグルトなど軽めのものバイキングがあり、前日食べ過ぎた方や普段朝食を軽く済ます方（欧米人に多い）にとってはフードロスへの罪悪感が軽くなるのでとてもいい。

ただ、こちらもウェルカムドリンクは不要。

懸念ポイントとしては、部屋数や収容人数に限りがあるため、予約が取れない可能性が高いこと。FITや小グループでの貸し切りなど、制限がある。自社サイトも日本語のみのようなので、海外のお客様にとってハードルが高い印象。英語で問い合わせが来た場合、対応ができるのか？無理ということであれば、問い合わせ・予約をすべて日本の旅行会社に頼る（パッケージツアー）ことになる。翻訳サイトを活用するなどして、少なくとも英語のページを作成する必要がある。

④古岩屋荘のエコ弁当

歩き遍路中の昼食。修行に適した食材で、戸外で食べられる昼食とすること、包装は環境に配慮したものを使うこと等、特別にアレンジしたものを古岩屋荘にて準備していただいた。

【実施概要】

現地対応者：古岩屋荘スタッフの方々、ソヤマいしづち 松本 勝氏

【実施内容】

竹皮に包まれたおにぎり弁当をお遍路体験中の昼食とした。お遍路さんが食事をいただく際に唱える言葉を大先達の越知カヨコ氏の先導で皆で唱えてから食事をいただいた。その他「お接待」として、地元のトマトやみかん、お茶をいただいた。当初は、山中の遍路道の峠で昼食を取る予定としていたが、悪天候だったため古岩屋荘で昼食を取ることにした。

今回は、歩き遍路のガイド松本氏に、古岩屋荘のお弁当アレンジもご検討いただいた。その際、極力プラスチックを避けること、修行中の昼食としてベジタリアンに寄せたメニューとすることを依頼した。竹皮のみでは密封性がないため通常はビニール袋を使ってしまいが、今回はコーティングされた和紙を包装に使用したとのこと。今後の商品化において、お弁当の分量や包装方法、注文・引き取り方法等、細かい点で詰めていく必要がある。



おにぎり弁当



食事の様子①



食事の様子②



食事の様子③

評価・コメント 古岩屋荘のエコ弁当

モニターツアー

1. 評価	バートック氏	小峰氏	ウィロビー氏
四国カルスト地域ならではの価値・独自性があるか	3	4	2
訪日旅行者ニーズへの対応、フレキシビリティがあるか	3	3	3

2. 評価に関するコメント/課題・改善ポイント等

マンディ・バートック氏

前回（10/25の体験コンテンツ）同様、おにぎりは少し多すぎた。前は大きなおにぎり2個だったが、今回は中くらいのおにぎり3個で、実質的には同じくらいの量だった。外国人の多くは、おにぎりの具やトッピングがめずらしい場合を除いて、冷たいご飯を食べることはない。おにぎりはもう少し味つけされたものであるとよいと思った。地元のゆずやふきのとうの味噌を加えたら、味わいが増えてもっとよいのではないだろうか。おかずはとてもよかった。トマトのお接待も素敵だった。外国人は冷たいお茶を飲まない人が多いので、全員のために同じ飲み物を買う前に欲しいかどうか聞いた方がよいと思う。

小峰 邦良氏

竹皮で包まれた、地元の食材を使った心温まる弁当。今回は雨天の為、館内で食べることとなったが、程よく疲れた峠などで昔からのお遍路に思いを馳せ、番茶を啜りながら（今回はペットボトルのお茶だったが、是非とも地元で愛されている野草茶や番茶を自信満々に率先して出すべき）頬張ったら、さぞかし美味しかったろう。イタリアのお料理も素材で良い味付けだった。包装紙が少々仰々しかった為、もう少し簡素なものでも十分満足できる（※昼食中にモニター参加者から新聞紙で包んだらというアドバイス有）。

ウィロビー 晃恵氏

まず、サステナビリティに配慮した弁当の開発をしようとしていることが本当に素晴らしい。提供の仕方も竹の皮を使ったり、仕切りも紙カップであるなど工夫が感じられる。量も味も十分。奇をてらわない、どこか懐かしさを感じる内容がお遍路中の雰囲気と相まってうれしい。

カキドオシの説明は欲しいところ。おそらく一部の地域でしか食べられておらず、調理方法も違うので、日本人にとっても発見になる。海外の方にとってはおそらく初めての方も多いのでは？ できたら初めて見た様子の方には調理前の食材そのものを見せるのもお勧め。

どこで購入できるかも合わせてアナウンスがあるとより良い。海外の方は持ち帰りのハードルはあるが、一部の国では状態によっては持ち帰れるし、訪問後自炊ありで滞在される方の購入の可能性がある。日本人にとってはいい土産になる。（私も買いたかった・・・）販売場所、とくにそれが道の駅の場合、地元での代表的な調理方法のご紹介が必要。

扱い方が分からないと購入へのハードルが急に上がってしまう。

※レシピを紙で配ったりは難しいし、そのあとゴミになってしまうので出来たらPOPを作るか、自社WEBかレシピに飛べるQRコードの掲示を。

竹皮の外の包みは地元の新聞紙で十分。手作り感、親近感、サステナビリティどれにも通じる。中には「貧乏くさい」という方もいるかもしれないが、そういった方にはそもそもなぜこのエコ弁当なのかを説明いただければいい。

お弁当 + ペットボトルの組み合わせは日本人には当たり前になってしまっているが、今回のコンセプトには矛盾している。古岩屋荘で食べるのであれば地元のお茶を湯呑で提供もしくは、お弁当を持たせるのであればお客様が持っているマイボトルにお水やお湯を給水してあげるのも十分。もしお持ちでない方は自分で購入いただければいい。最初から用意してしまうとその分のペットボトルごみが生まれてしまう。

⑤吉村虎太郎邸

津野町ゆかりの幕末の志士、吉村虎太郎の生家を復元したガイドンス施設。地元の方が喫茶サロンを運営し、昼食や弁当を提供している。

【実施概要】

現地対応者：地元グループスタッフの方々、豊田氏（地元ボランティアガイド）

【実施内容】

地元野菜のかき揚げをのせた天忠うどん・そばと津野町名物のほうじ茶大福をいただいた。モニターツアー3日目に参加者全員が利用。その後、地元ボランティアガイドの豊田氏の案内で一本橋付近を散策した。

茅葺屋根のビジュアルや、玄関に栽培されているお茶の木はインパクトが強い。歴史を説明する施設であるが英語表記はないので、欧米豪旅行者に対しては通訳ガイドが時代背景等を含め簡単に説明する必要がある。和定食は予約が必要。予約不要の軽食は、前後の食事内容によってはよい選択肢となり得る。付近の散策で地元の方が急遽案内してくださったが、よい交流機会となった。



吉村虎太郎邸 外観



昼食の様子



天忠そば



ほうじ茶大福



地元ガイド豊田氏と一本橋



なすの出荷作業

評価・コメント 虎太郎邸

1. 評価	バートック氏	小峰氏	ウイロビー氏
四国カルスト地域ならではの価値・独自性があるか	2	3	3
訪日旅行者ニーズへの対応、フレキシビリティがあるか	3	3	2

2. 評価に関するコメント/課題・改善ポイント等

マンディ・バートック氏

虎太郎邸は素敵な建物で、ランチは完璧と言ってよいほどだった。印象深いとまではいかないまでも、とても雰囲気よかった。前日の夕食とその日の朝食がかなり重めだったので、分量がちょうどよかった。家の中はとても素敵だったが、説明書き（または英語のパンフレット）があればもっとよかった。ほうじ茶大福がとてもおいしかった。また、家の外にお茶の木があるのはとてもユニークだと思った。もう少し詳しく知りたかった。

小峰 邦良氏

虎太郎邸は思っていたよりも新しい雰囲気、白木の匂いがする洒落た建物だった。正直もう少し伝統と文化を感じられる作りだと尚良い。しかしながら地元の情報やお土産、調度品などを揃えており、小さな村のビジターセンターの様だった。うどんを食べたら、出汁の効いた優しい味の素朴さが◎。乗っていた天ぷらも地元産の野菜とのこと。流石さつまいもを押すだけあって、やたらと甘く美味しい味だった。食後のほうじ茶大福は絶品。そして何よりも印象的だったのが、ご夫婦の温かな人柄と番茶の透き通った香りだった。オプションの四万十川沈下橋見学も最高。もっとも流域の自然&文化に触れたかった。

ウイロビー 晃恵氏

地元のお野菜の天ぷら、いいですね！もしかしたら男性には量が足りない可能性があるかなと思っていたら、大福もオプションでお願いできたのもうれしかった。

食材についてもっと説明があってもいいかもしれません。「地元の野菜」はどこでもあるが、なにがこの地方の特産・名産で今が旬なのか、できたら野菜を見せて説明いただけるとより地元感が出る。

残念だったのがお土産で販売しているお茶が地元のものではなかったこと。少量でもいいので「うちのお茶」を置いてほしい。ショッピングバッグが新聞紙であったのは素晴らしいし、「かわいい」と感じた。こういうちょっとしたことが手作り・おもてなし・あたたかさとして伝わるし、何よりサスティナビリティである。

周辺散策も楽しいエリア。一本橋や地元のナスの選果場？も旅行者としては訪れたい場所。地元の方との触れ合いが楽しい。

海外の方が来た際の対応はどうだろうか？ てんぷらになってしまうとより食材がわかりにくくなるため、やはり説明は欲しい。提供メニュー数が少ないのであれば食材や地元とのつながりが書かれた「英語のメニュー」があるといい。

⑥いろは食堂

地元の野菜をふんだんに使ったビュッフェ形式の食堂

【実施概要】

現地対応者：なし

【実施内容】

モニターツアー最終日の昼食として参加者全員が利用。

ビュッフェ形式のため、量・種類を各自で選ぶことができるのが最大の利点。店内はすべてテーブルとイスのため、座敷で座るタイプに慣れていない旅行者にもよい。提供されているものにラベル表示がないため、必要に応じてベジタリアン対応かどうかも含めて、同行ガイドが説明する必要がある。

評価・コメント いろは食堂

1. 評価	バートック氏	小峰氏	ウイロビー氏
四国カルスト地域ならではの価値・独自性があるか	3	2	4
訪日旅行者ニーズへの対応、フレキシビリティがあるか	3	2	4

2. 評価に関するコメント/課題・改善ポイント等

マンディ・バートック氏

ここの食事はおいしかったし、何をどれだけ食べるか選択できたのはよかった。飲み物を除いて、ラベルが貼られた料理はひとつもなかったのが、外国人観光客にも何が提供されているのかわかるように英語のラベル（またはそれをサポートするガイド）は絶対に必要である。ここはとてもローカルな場所のようだが、もし外国人（または外国人FIT客）だけのグループが入ってきたら、スタッフの方々ほどの程度対応できるだろうか。また、再利用できる箸を使う方が、よりサステナブルだと思う。

小峰 邦良氏

地元から愛された食堂であるのは十分伝わってきたが、少々清潔感に欠ける印象を持つ人もいるのではないだろうか。個人的には好きなお店ではあるが海外から来た方がどう思うか？は正直不明。行程の最後の食事としてはもうひと捻り欲しかった。胃袋もかなり疲れていたため、健康食志向の素朴な昼食を望む。

ウイロビー 晃恵氏

いかにも地元の方がよく来るであろう食堂という雰囲気がいい。観光客向けに洗練されたところがない、田舎を好む観光客にとって理想的な施設。提供もバイキングで、客が自分の食べられる量だけとることでフードロスが削減できるうえ、野菜が多く、ベジタリアンやヴィーガン対応も可能であるため、海外の方の利用も問題ない。

地元野菜、地元の名物料理と思われる物のたくさんあり、利用へのお得感も高い。

ただ、説明が欲しい。特に名物料理や地元食材と使ったお勧めなどの記載が欲しい。お店の方との関わるポイントは入店と会計時くらいと少ないようなので、掲示物などあるといい。

(3) サステナビリティ

I：重要度 A：達成度

1.サステナブルツーリズム商品としての評価		バートック氏		小峰氏		ウィロビー氏	
		I	A	I	A	I	A
環境	省エネルギー (D7)	4	4	4	3	4	4
	廃棄物削減 (D11)	5	2	4	4	4	3
	環境負荷の小さい交通手段 (D13)	3	3	4	2	5	2
	飲料水に関する情報提供 (D9)	5	2	4	2	5	2
	生態系や野生生物等の保護 (D4)	4	-	5	4	5	3
	自然遺産における旅行者のふるまい (マナー) の整備 (D3)	5	4	4	3	5	3

2.評価に関するコメント/課題・改善ポイント等

マンディ・バートック氏

ほとんどのホテルの部屋のライトは人感センサー付きでありがたかったが、相部屋の場合は夜中少々煩わしいかもしれない。というのも、一人がトイレに立つと、出入口全体が数分間明かりがついたままになるからである。しかし、最初のコテージの照明は不十分だった。2階を照らすため、スマートフォンの懐中電灯を使う必要があった。

廃棄物の削減：これは日本がいつも苦労している分野である。使い捨てのおしぼりや割り箸はもう必要ない。お客が頼んだわけではない「プレゼント」の飲み物も必要ない。「ルール」ではゴミはすべて持ち帰ることになっているが、ゴミ箱の数があまりにも少なく、簡単に捨てられないため、こうしたペットボトルの飲み物を受け取るにつれて、旅行者は非常にイライラしてしまう。おそらく半分くらいは最初から欲しいとは思っていなかった。

交通機関：ほとんどの人が公共交通機関で四国カルストに行くことができないので、これは難しい。目的地に到着するためだけに車が必要になる。e-bikeでの周辺散策も素晴らしいが、出発日を設定して、歩いてお寺を巡る人用にシャトルバスを運行すれば、車やタクシーを利用する人を減らすことができるだろう。(たとえば、シャトルバスの運用例として、毎週月曜日と金曜日に久万高原の終点バス停から44番札所まで行き、45番札所からその終点バス停まで戻る等。)

水：ペットボトルの飲み物を誰かに買ってあげるのはやめた方がよい。これは、外国人にとっておもてなしではなく、無駄としか映らない。彼らは何度でも使える水筒（マイボトル）を持っているので、その水筒に簡単に水を入れられるようにしてあげればよい。ほとんどの外国人は水を飲むが、冷たいお茶は飲まない。

エコシステム：これについては特に意見はない。

旅行者のふるまい：私が観察した観光客は（数は少ないですが）お寺でのマナーを守っているようだった。モニターツアーで配布されたマナーブックは有益だと思いますが、どこで配布するのがよいだろうか。ホテル・観光案内所・それぞれのお寺、検討したい。

(3) サステナビリティ (続き)**小峰 邦良氏**

仕方のないことだが、随所にペットボトルの飲み物や地域外の飲み物が出てきたが、番茶大国としてもっと番茶や野草茶を前面に売っていくべき。特にペットボトルは便利で携行しやすいが今回の旅のアナウンスの際に減プラやサステナブルな観光地のイメージを抱かせていたのでマイボトルやエコバッグの持参を促されていた。その為現地で出して頂いた際のギャップが目立ち、環境整備の不一致を感じてしまった。個人的には行き過ぎた脱プラや脱カーボンビジネスあるいは政治的な匂いが濃いので好印象ではないが、出来る限り地域内の食材で、リターナブル出来る容器やボトルを使用することで、エコ先進地の訪問者も納得させることもできるし、地元の意識も高まってくると感じる（私の活動する乗鞍高原も同じ。ようやくマイボトルが浸透し、会議の際にペットボトルを持ってくると白い目で見られがち）。その他、飲料水については前の事項でしつこく書いてしまったが、やはり四万十川源流の水をもっと謳ってほしい！どの蛇口を捻っても美味しい水が飲める。「四万十川の水道水」「世界一の水道水」と謳っても嘘ではないはず。尚、立地的に車での移動以外は困難と思われるので、出来る限りエコを謳うのであればEVを取り入れてみるのも手。とは言え無理は禁物。個人的には古い車を大切に乗り継ぐ心が地球を救うと思うが、建付け的には大切な要素かも・・・最後に生態系などの配慮については今のところ問題は感じなかった。お遍路中、E-bike中、キックボード中に生態系を壊す恐れのある場所は特にないかと。※お遍路については重要文化財や大杉などに簡単に触れられ、立ち入れるのでそこに関してはマナーやルールの喚起が必要と思われる。※エコツーリズム全体構想を地域で取り入れ、入場規制や入域料などのローカルルールを作ることがこの地域のキャパを守り、マインドを守り、この地域らしい観光のスタイルが生まれるのではないだろうか？

ウイロビー 晃恵氏

風力発電（D7）や水源利用など自然との共存・活用がうまくできているエリアである。ただし、訪問者にとってはわかりにくく、地元の方が大切にしている暮らしを阻害してしまう可能性がある。ぜひ地元の方が大切にしている自然環境利用に関し、わかりやすく可視化していただきたい。特に飲み水に関してはプライドを持ち、訪問者の活用促進（ペットボトル削減）を。（D9）

また、サービスは今あるものの活用を。日本の従来のおもてなしである追加のサービスは時にサステナビリティの逆に行く可能性がある。提供するのには必ずしもものが必要はない。欲しいのはそこにしかない体験であり、お土産に何をもらえたかではない。（D11）常に「なにが 不要か」を考える必要あり。

交通アクセスが分かりづらい。もしかしたらエリア内では個々に車が必要なのでは？ エコカーのレンタカーは地域に十分にあるのか？ レンタカーや車の購入に地域でエコカー推奨がされているのか？

カルストでも遍路道でも特に「立ち入り禁止エリア」の表示や案内がなく、「訪問ルール」が手に入らない方が写真撮影であちこち好き勝手に立ち入ってしまう可能性が多い。できるだけ訪問ルールやガイドラインを多くの方が目に触れる（看板という意味ではない。景観を損なう）状態にしておく必要がある。地元の当たり前は、訪問者の当たり前ではないことを踏まえ準備を。

(3) サステナビリティ (続き)

1.サステナブルツーリズム商品としての評価		バートック氏		小峰氏		ウイロビー氏	
		I	A	I	A	I	A
文化	地域の祭りや伝統文化の継承 (C3)	5	4	5	4	5	5
	文化遺産における旅行者のふるまい (マナー) の整備 (C7)	5	4	4	3	5	3
	地域の観光資源の解説を地域住民と協力して作成 (C8)	3	-	4	3	5	3

2.評価に関するコメント/課題・改善ポイント等	
<p>マンディ・バートック氏</p> <p>C3 地域の神楽は、日本に長年住んでいる旅行者も含め、あらゆる旅行者の興味をそそるすばらしい体験です。地域の神楽保存会をとおして、伝統文化と日常のつながりを実感することができます。C7 上記のとおりです。C8 本項目の意味あるいは実際に評価可能かどうかよくわかりません。</p>	
<p>小峰 邦良氏</p> <p>お遍路もお神楽も地域と一体となり、無理のない伝統文化、文化伝承が伝わってきて非常に興味深く感動的だった。何よりも観光客が気軽に参加できたこと。気軽な割にはかなりDEEPな所まで体験させて頂けたことは今回の旅の一番の思い出。しかしコンテンツの部分でも伝えた通り、ビジネスになってくると少々姿形が変わってくるのは仕方ない部分として割り切る。逆に後世に伝えて行くためにはお金儲けも伝承していくサステナブルな方法なのかもしれない……個人的には半々の所で運営していった欲しい所だが、それは観光客のエゴイズム。ただ、随所で文化遺産に容易に触れられるシーンが多いため、日本の文化や振る舞いに見識がない方が来訪された際には注意が必要。ゾーニングや立ち入りを禁じなければ、大きな遺産を失いかねない。その為にも地域一体となった観光の為の解説板やパンフ、ピクトグラム作成が急務。何か事が起きてからの対処では間に合わない気が……</p>	
<p>ウイロビー 晃恵氏</p> <p>地域・世代を横断した文化継承が色濃いことがはっきりと感じられる。大先達の存在はお遍路のある四国独特の文化であり、遍路を体験以上の理解に深く導いてくれる。また、神楽は千年を超える歴史がこの先も地域プライドとして継承されていく未来を見ることができた。今回我々がモニターで訪問させていただいたが、とにかく集落の神楽が「観光」によって形を変えてしまわないことを願うし、そうあってはいけない。もしこの影響で地元が負担に感じるがあった場合、継承に影響を与えてしまう。各世代と確認しながら負担なくできるのはどこまでかを見極めると同時に、時には観光と切り離すという準備もしておくこと。</p> <p>神社を訪れるということはどういうことか。訪問に関してはイベントであろうと体験であろうと、社に敬意を払いお賽銭を。</p>	

(3) サステナビリティ (続き)

1. サステナブルツーリズム商品としての評価		バートック氏		小峰氏		ウィロビー氏	
		I	A	I	A	I	A
社会 経済	地域の特産品やサービスの利用促進(B3)	4	4	5	3	5	3
	地域の観光関連企業が参入しやすい(B3)	4	-	4	3	4	2
	観光関連事業者への就労促進につながる(B2)	3	-	4	2	4	2
	旅行者、観光関連事業者、住民が共に地域の文化・自然環境への保全に貢献できる(B4)	4	-	5	3	5	4
	多言語による案内の充実(B8)	5	-	3	3	4	2
	多様な宗教・生活習慣への対応(B8)	4	2	3	4	4	3

2. 評価に関するコメント/課題・改善ポイント等

マンディ・バートック氏

B3 私たちは、地元のお店や道の駅で買ったであろう地元の野菜や果物をいろいろと楽しめたと思う。外国人観光客には、夕食や朝食に出される地元産のもの（ゆず、イタドリ等）があることを説明する必要がある。

B2-B4 モニターという単純な立場では評価できないと思う。

B8 リベルタ提供のパンフレット、ガイドの通訳（と大崎氏が使ったアプリ）を除けば、外国語の対応はほとんどなかった。宿泊したホテルには英語のパンフレットがあるようだった。星ふるウイレッジTENGUのお風呂が漢字だけでなく英語でも表記されていたのは嬉しかった。

B8 イスラム教徒やユダヤ正教のように食事制限のある旅行者に現地がどのように対応するのかがよくわからなかったため、この点については評価が難しい。

小峰 邦良氏

道の駅では地元産の商品が多数扱われ、特に久万高原米は産地ごとに生産者ごとにマップ化され、お米好きにはたまらない演出だった。その他お茶やミカン、リンゴ、トマトなどの摘み取りなど季節ごとに直に触れるイベントなどがあるともっと身近に感じられる（※番茶＆野草茶文化をもっと売るべき）。四国カルスト内をスムーズに効率的に横断するには今回のような質の良いハイヤーが必要になってくるため、交通事業者の需要も高まり経済効果を促すはず。僻地は僻地なりの需要があり、僻地なりの事業が立ち上がっていく（exE-bike配送サービスやマイカー配送サービスなど。やはり旅はワンウェイが面白い！周回するには手間がかかり過ぎる）。次に今回のツアーをイベント的でなく、恒常的に開催し、地域を潤していくためにもガイド事業者の存在は大きい。そのことで各プログラムもブラッシュアップされクオリティも上がり、道や道標、パンフ、マップの精度も上がりゲスト目線の魅力溢れるものに変わっていく。お遍路もE-bikeもキックボードも、最初の内は出来る範囲内で出来るメンバーで行うのは仕方ないが、将来を見据え若く永住してくれる人材を育成し、いつ行っても同じサービスを実施していくことが、信頼に繋がると共にツアー業者の使命だと考える。一過性のイベントでファン層を取り込むこともできるが、盛り上がっている観光地には優良なガイド会社が数軒ある場合が多い。特にこのエリアは四季を通してガイド業が出来るエリア。通年雇用があれば今の若者たちは田舎暮らし志向が強まる。最後に多言語化についてだが、もちろん準備できているのに越したことはないが、正直要所要所に英語が話せるスタッフがいれば看板やパンフ、マップのみが多言語化されていればOK。自分が海外旅行を旅しているとき、英語が通じる国にハラハラ＆ドキドキ感は薄い。タイ語やマレー語、ラオス語などを地球の歩き方で覚え、現地語でアタックした体験こそが旅の魅力。あまり旅行者目線になり過ぎず、未知なる非日常の四国カルストを求めて訪問する旅行者に来てもらうことが一番無理なく、本質重視な旅を提供できる。「これやれない！」でなく「これはやらない！」という選別が、これからの観光の非常に重要な地域のアイデンティティになりうると信じている。宗教についても同様で、お遍路に来ているということは仏教＆神道という日本の未知なる宗教世界に興味を抱いて来ているはず。それを旅行者の目線に傾倒しすぎては本物は得られない。

(3) サステナビリティ（続き）**ウイロビー 晃恵氏**

コンテンツ毎の魅力や取り組みはあるものの、周辺やほかのコンテンツとのつながりがあまり感じられない。地元の野菜・お茶・飲料水・果物など誇れるものが多いが訪問者には分かりにくく、自分から情報を取りに行かないと得られないのはもったいない。「今何かおいしいものを口にしたが何だったんだろう？」で終わってしまうものが多いのが現状に見える。農家・サプライヤーを巻き込んで流通マップを作成し、どこが訪問者のタッチポイントになるか一度見直すといい。前後の施設がお互いに訪問者に情報提供をすることで地域全体での経済効果が上がってくるはず。

また、物を買うだけではなく「保全」に関するドネーション（責任ある訪問）の取り組みを。オフセット、畜産や景観保全への直接的貢献は理解が得られやすい。

掲示物の多言語化が追いついていない箇所が多い。飲食店、道の駅など口に入るものを取り扱う場所では特に多言語表記があるかどうかで効果が変わる。分からないものは好みの面・安全の面両方で不要なハードルとなってしまう。

2-4-4. 意見交換会

モニターツアーの最終日には、下記のとおり意見交換会を実施した。

- ・日時：11月14日（火）14：00～15：30
- ・場所：津野町役場
- ・参加者：下記表の通り

No	氏名	所属	役割・役職
1	マンディ・バートック	Uncover Japan	招請専門家
2	小峰 邦良	リトルピークス	招請専門家
3	ウイロビー 晃恵	（一社）佐渡観光交流機構	招請専門家
4	大崎 正	貝ノ川棚田保存会	コンテンツ提供者
5	岡 誠也	久万高原町ふるさと創生課	受入自治体
6	矢野 豪	久万高原町観光協会	受入自治体
7	大崎 陽子	津野町観光振興課	受入自治体
8	川田 明男	津野町観光振興課	受入自治体
9	久保浦 彩	津野町観光振興課	受入自治体
10	高橋 芙柚音	津野町観光振興課	受入自治体
11	青井 孝憲	国土交通省 四国運輸局	事業実施主体
12	武市 琉来	国土交通省 四国運輸局	事業実施主体
13	林 美希子	リベルタ（株）	進行
14	石飛 千恵	リベルタ（株）	通訳
15	横内 直子	リベルタ（株）	書記

1. 挨拶 四国運輸局 青井 孝憲氏

今回のモニターツアーを通して皆さまが感じられたことについて、屈託のない意見をいただき、これをもとにコンテンツの磨き上げをしていきたい。

2. 参加者紹介
3. 実施行程の確認
4. 意見交換会

(1) モニターツアー全体について

小峰氏：内容の濃い滞在だった。私も長野県でカフェや自然保護センターなどを立ち上げて運営をしている。四国カルストエリアは全体的に食に関して、魚介が豊富だと感じた。地のものに即していた。たくさん食べたが、胃もたれがない。海外の人が来られた時、奇をてらったものを出しすぎると、胃もたれしてしまう。コンテンツに関しては、まだ造成中のももあると思うが、全体的に完成度が高いと感じた。四国＝淡水のイメージが強い。みなさんが大切にしている里山に集中すると良い。淡水でプールなど。タクシーの運転手さんとの触れ合いも楽しかった。まだまだ居たい。

ウイロビー氏：楽しい3泊だった。地域のもつ素材のすばらしさは濃いものがあると感じる。外から見たら素敵だが、住んでいる人からは普通に感じる。これがもったいないと感じた。例えば道の駅では、なぜここに来るのか、海外の人に思わせる工夫が必要。少しの工夫でストーリーを伝えられるかがポイント。この地域の野菜は日本人にとっても「なんだこれは」と思うものがある。その野菜を活用した料理の提案やストーリーを伝えるとよいと思う。JSTS-Dに関して、4つの指標がある。多くの人は環境に集中してしまいがちだが、地域経済を活性化するというのも大切なポイントと思う。コンテンツの中には、地域の人とかかわりが十分にあったのがよかった。

マンディ氏：素晴らしい時間を過ごすことができた。観光客の多くないエリアに来ることができて光栄だった。交通の問題がネックになると思う。おそらくツアーになった場合、ガイドは地元の方になる可能性があり、そうなった場合地元の方とかかわりが少なくなってしまう。個人で来た場合、どのようにすれば地元の人と交流をもてるのが大切。海外の方へ刺さると思うのはお遍路と神楽。お遍路に関して、すべて回るととても長くなるが、カヨちゃん和松本さんに説明してもらい、コンパクトに説明してもらえたのはよかった。神楽に関して、宮崎県で見たことはあったが、参加したのは始めてだった。幅広い年代のコミュニティに入りこむ形で参加できたのはよい経験だった。貝ノ川の棚田の大崎氏は、誰よりも準備をしてくれてきた。ここに来る前に、四国カルストの天気は北海道と同じと言われたが、秋の北海道なのか、冬の北海道なのか想像できなかった。そういった情報発信が必要。

津野町役場 川田氏：貴重な感想をありがとうございました。神楽に関して、何かを加えるとするならば、何が必要だと思うか。

—ウイロビー氏：地元の方が普段されていることをやっていただくのがよい。地元の方に負荷がかかりすぎないことが大切。日本人が感じているおもてなしは時にやりすぎの場合がある。何かをいただくというよりは、みんなでお茶の時間を楽しむ、などの交流がよい。

—小峰氏：神楽はサービスが多かった。有難かったが、やりすぎると疲れてしまう。毎日来てもできる程度に留めておいた方がよい。

—マンディ氏：一番大切なことはそのコミュニティに入れてもらうこと。今回は衣装を着て舞っていただいたのは1演目だったが、最後にもう1つ見せていただければもっと楽しめたと感じる。パンフレットの英語は完璧であったし、わかりやすかった。

マンディ氏：海外からの旅行者はマイボトルを持参していることが多い。ボトルの中に水を入れて持ち運ぶことが大切という考え。遊山四万十 せいらんの里で水を入れようとしたが、蛇口が低くて入れることが難しかった。アメニティはおもてなしかもしれないが、ごみになる可能性がある。

津野町でいただいた、新聞紙の紙袋はとてもよいと感じた。しかし一方で、遊山四万十 せいらんの里で帰る際にもらったカップについていた中身を示すための付箋は無駄だと感じた。カップに直接記入する形で十分。

～前頁続き～

(2) ルール・マナーについて

ウイロビー氏：ハワイに行った際、アメニティがなかった。だが何もしてくれないわけではなく、近くにこんな張り紙があった。「何か忘れませんか？必要があればお声がけください。」ルールだけ押し付けるのではなく、選択を与える形がよい。

マンディ氏：海外の方は来る国によってプライバシーに関するルールが異なる。

小峰氏：観光客は自然に触れにきている。お客さん自身でひと手間かけるのが良い。ただ安全面に関して、何かあったときの対策を考えておいた方がよいと思う。

5. 挨拶

久万高原町 岡氏：四国の秋と冬を感じることができたと思う。広い日本の中で、この2町に来てもらうためにはしっかりマーケティングをしていかななくてはいけないと感じる。来年度以降につなげていきたい。お遍路はいろいろな方に注目していただいていると感じ嬉しい。四国遍路は地元の経済になかなか貢献できていない点が課題と感じているので、テコ入れをしていきたい。昨年度JSTS-Dの評価にもあったが、地域に貢献できるという観点を意識して今後取り組んでいきたい。

津野町 大崎氏：一つ一つコンテンツを作ってもらい、このようなアイデアがあるのかということを知るとともに、津野町のもっている可能性を再発見した。課題としては、観光課がないため一般のお客様とつなぐ役割の方が必要。サステナブルという言葉で抵抗を感じられる事業者の方もおられるが、もともと田舎の暮らしはサステナブルだと思うので、ありのままの姿を観光で来られた方にも楽しんでもらえればと思う。



意見交換会の様子

貝ノ川棚田保存会 大崎氏：貝ノ川のお茶会ではどのようにコミュニケーションをするかと思っていたが、みなさんお互いに歩み寄りながら、会話を楽しんでいた。このような交流でいいのだと感じた。

2-4-5. モニターツアーまとめ

今回のモニターツアーを通して、地域に根差した文化や、その文化を受け継いでいる人々との対話がコンテンツに含まれる場合に、満足度が非常に高くなることがモニター専門家のコメントからも実証された。今回得られた指摘事項の中には、事前に準備した方がよい物品など、前もって情報提供すれば解消できるものはタリフに落とし込み、それ以外の未定の部分については引き続き検討事項とし、各コンテンツの状況に応じた磨き上げを行うこととした。

なお、本モニターツアーにて、本年度実施される別事業の「四国カルストにおけるパークアンドライド方式及び公共交通機関接続による交通アクセス実証運行調査事業」で実施されたシャトルサービスを利用し、二次交通の利便性についても検証する予定であったが、土日祝のみの運行スケジュールであったため、平日実施となった今回のモニターツアーとは日程が合わず検証することができなかった。

2-5. 観光コンテンツの磨き上げ

2-5-1. 商品造成の方向性

モニターツアーでの検証を踏まえ、以下の通りコンテンツを造成し商品化を目指した。

【四国カルスト版CBTのコンセプト】



四国カルスト版のCBT（Community Based Tourism）として、「人」に焦点を当てた体験のコンテンツ化を進め、モニターツアーにおいても地域の人や固有文化は魅力であり地域の強みであることが検証できた。一方、「四国カルスト」という固有名詞はジオ的な印象が先行するため、セールス展開において商品（提供する体験）内容やイメージに合致しづらいとの意見や個々のコンテンツのストーリーを打ち出していく必要性も挙げられた。

これらを踏まえつつ地域側の取り組みを考慮すると、「四国カルスト広域連携推進協議会」が開設したSNS（インスタグラム）を中心に展開するハッシュタグやキャンペーンのキャッチコピー「四国カルストストーリー」はコンテンツ造成における課題解決にもつながり、親和性が高いともいえる。

本事業では愛媛県久万高原町と高知県津野町の2町がコンテンツ造成の対象地域ではあるものの、中長期的には四国カルスト広域連携推進会議の構成地域である愛媛県西予市と内子町、高知県橋原町を含む1市4町におけるサステナブルな商品展開を前提としている。そのため、地域連携に軸を置くとともに、本事業で造成するコンテンツを「四国カルストストーリーを紡ぐ・生み出す方法・手段」の一つに位置付け、今後の商品展開に繋げていきたい。

【商品カテゴリー】



自然



アクティビティ



文化



食と暮らし

造成コンテンツの最終商品化（セールスタリフ作成）にあたり、商品のカテゴリーとして「自然」「アクティビティ」「文化」「食と暮らし」の4つを設定した。

設定理由

- ▶ サステナブルリズム商品に特化した市場（商談会等）は現在ほぼない。
- ▶ サステナブルリズムの国際基準を積極的に取り入れている旅行形態の一つとしてAT（Adventure Travel）があり、四国カルストエリアとの親和性も高く可能性がある＝セールス展開が有効である。
- ▶ 「自然」「アクティビティ」「文化」の3つはAT（Adventure Travel）商品の構成要素であり、有力なセールス市場の一つである。
- ▶ 前年度の調査事業結果を踏まえ、本事業では「食」の要素を取り入れたいため。

2-5-2. 造成コンテンツ

モニターツアーで視察検証した7本のコンテンツ候補のうち、本事業では6本のコンテンツについての最終商品化を行なった。見送りとなったコンテンツについても有力な冬季コンテンツとなり得るため、引き続き関係事業者との調整を続け、商品化を目指したい。

【選定条件】

- ✓ 受け入れへの理解や協力意向があること
- ✓ 受け入れ側に無理や負担が生じないこと
- ✓ サステナブルの観点から、磨き上げ効果（得に経済効果）が期待できるもの

【キーワード】

- ✓ Off the beaten track /pass（ひと気の無い）
- ✓ Community-Based（地域主体、住民主体）


【コンセプト】

- ▶ 四国カルストストーリー Shikoku Kurstory

①最終商品化のコンテンツ

No.	エリア	主な区分	最終商品化コンテンツ	方向性
1	四国カルスト		SK-1 E-bikeで四国カルスト散策 (2町連携によるE-bike活用)	<ul style="list-style-type: none"> ・天狗高原～五段高原～姫鶴平のE-bike散策 ・1市2町の連携 → 1市4町の連携を目指す ・外部人材（ガイド）の活用
2	久万高原町		K-1 本格お遍路体験	<ul style="list-style-type: none"> ・44番札所大寶寺の講堂の活用 ・1日の特別修行ツアー
3	久万高原町		K-2 道の駅さんさんバックヤードツアーと食の交流体験	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅の活用（週末や配送時間帯を除く） ・生産者に会いに行く、共同調理
4	津野町		T-1 貝の川の棚田散策と交流体験 (キックボード)	<ul style="list-style-type: none"> ・キックボードの活用、橋原町との連携 ・<u>自治体間のシェアリングエコミー</u>
5	津野町		T-2 津野山古式神楽保存会との交流体験	<ul style="list-style-type: none"> ・古式神楽の日常風景（オフ）を主軸とする交流体験
6	津野町		T-3 心身を解き放つ！ ジップライン体験	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社向け（英語対応）のプラン化→交通+食事 ・冬景色のジップライン（FA・恵庭）のプランを参考に

②今年度は見送りのコンテンツ

No.	エリア	主な区分	最終商品化コンテンツ	方向性
-	四国カルスト (津野町)		SK-2 天文台・プラネタリウム 津野山古式神楽	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社向け（英語対応）の特別プラン

3. 持続的な仕組みの検討

3-1. 商品完成度と販売体制（プロダクトレディ）の状況

3-2. 来年度以降のロードマップの作成

3-2-1. ロードマップの作成方針と目的

3-2-2. ロードマップ

3-1. 商品完成度と販売体制（プロダクトレディ）の状況

2-5-2項に示した各コンテンツについては、テーマや協力事業者が異なるためプロダクトレディに差がある状況となっている。特に、交通アクセスが悪い地域では、旅行業ライセンスが必要となる交通手配の依頼が発生した場合に、販売窓口で対応しきれない。これは、本事業地域においても同様の課題である。そのため、インバウンド商品開発において、商品完成から誘客までを短期的に整備するのは非常に難しく、中長期の視点での販売目標設定や準備が必須である。

「商品は完成したが、地域側に販売窓口がない」「現地側の手配（ランドオペレーション）ができない」という状況は、どの地域でも課題の一つであることから、持続可能な観点から今年度の着地点を定めつつ、ロードマップ策定を行うこととする。その一案として、まずは旅行会社向け（BtoB）の受注型企画旅行素材として提案する商品としていくことが有効と考える（下表、黄色箇所）。

【造成コンテンツの販売体制と販売先】

- ▶ BtoB 受注型：インバウンド旅行会社より、都度、問い合わせが入る（リクエスト型・日付未定）
- ▶ BtoB 募集型：インバウンド旅行会社が日付を決めて、旅行者を募集する（パッケージ・日付決定）
- ▶ BtoC 募集型：コンテンツ販売窓口が日付を決めて、海外の旅行者を募集する（直接パッケージ・日付決定）
- ▶ BtoC 受注型：コンテンツ販売窓口へ海外の旅行者から都度問い合わせが入る（直接リクエスト型・日付未定）

①②③ 旅行業:旅行者の依頼を受けて交通・宿泊手配を行う場合に必要（番号はライセンス種別）

● 旅行サービス手配業（ランドオペレーター）:旅行会社の依頼を受けて、上記に加え通訳案内士以外の有償ガイド手配を行う場合に必要

①最終商品化のコンテンツ

No.	エリア	最終商品化コンテンツ	販売窓口の状況／体制案	BtoB 受注型	BtoB 募集型	BtoC 募集型	BtoC FIT
1	四国カルスト	SK-1 E-bikeで四国カルスト散策	②（株）ソヤマいしづち	○	●	③	③
2	久万高原町	K-1 本格お遍路体験	②（株）ソヤマいしづち	○	●	③	③
3	久万高原町	K-2 道の駅さんさんバックヤードツアー と食の交流体験	久万高原町観光協会 （②（株）ソヤマいしづち）	○	●	③	③
4	津野町	T-1 貝の川の棚田散策と交流体験 （キックボード）	③（一社）奥四万十高知	○	●	③	③
5	津野町	T-2 津野山古式神楽保存会との交流体験	③（一社）奥四万十高知	○	●	③	③
6	津野町	T-3 心身を解き放つ！ ジップライン体験	③（一社）奥四万十高知	○	●	③	③

開発

導入期

成長期

成熟期

インバウンド誘客の商品開発とセールス展開の成長段階（フェーズ）

②今年度は見送りのコンテンツ

No.	エリア	最終商品化コンテンツ	販売窓口の状況／体制案	BtoB 受注型	BtoB 募集型	BtoC 募集型	BtoC FIT
-	四国カルスト （津野町）	SK-2 天文台・プラネタリウム 津野山古神楽	③（一社）奥四万十高知	○	○	③	③

3-2. 来年度以降のロードマップの作成

3-2-1. ロードマップの作成方針と目的

【ロードマップの概要】

- 設定期間：2023年を含む5カ年 ※「観光DX推進のあり方に関する検討会」で策定したロードマップ（2023.3）期間と統一
- 販売機会：イベント・プロモーション
- 商品造成の最終目標：造成コンテンツごとの**定性目標**
- ターゲット市場：**欧米豪市場**
- コアコンピタンス（強み）
- サステナビリティの目標

将来ビジョン



持続可能な観光地域経営の4つの分野における優先度

- ①**経済**：インバウンド誘客の推進による消費機会の創出、地域経済への貢献
- ②**文化**：地域の伝統・文化の維持継承
- ③**環境**：四国カルストエリアの環境保全、水源の確保や整備

※上記の領域全体の推進に向けた位置付としてのマネジメント分野：地域連携の体制強化

重点取組み

- 1.コンテンツの段階的な磨き上げ
- 2.ターゲットへの効果的なプロモーション
FAMツアー等による受注型企画旅行素材化→募集型企画旅行素材化へ
※最速で2年先のツアーへの種まき活動
- 3.共通プラットフォームの構築
- 4.四国カルストエリア全体・四国広域エリアでの連携強化
- 5.利益の公平な分配（受け皿整備） 仮称「四国カルスト基金」

（1）ロードマップの構成

地域連携ならびに効果的な情報発信の手段として、共通プラットフォームの構築などを視野に入れた5カ年の行動計画として2027年までの期間を設定した。策定に当たっては、コンテンツの販売窓口となる事業者と自治体関係者によるロードマップ会議を実施し、コンテンツのブラッシュアップ、旅行会社へのセールス、参画地域や取扱い商品の拡大、主に情報発信を目的とする共通プラットフォームの段階的構築などを検討した。

（2）将来ビジョン

経済効果を優先しつつ、文化継承と環境保全への配慮、地域連携の強化を主な柱とした。

（3）重点取組み

①コンテンツの段階的な磨き上げ

各コンテンツのプロダクトレディ（造成コンテンツ販売に際しての準備段階・水準）が異なるため、次年度以降はセールスを優先する、あるいはコンテンツ内容の調整や連携先の拡大等を優先する等、コンテンツごとの取組み内容を設定した。

②ターゲットへの効果的なプロモーション（セールス）

コンテンツのブラッシュアップや販売促進のためにモニターツアーや旅行会社を招請するFAMツアーの必要性が挙げられた。モニターツアーやFAMツアーの実施範囲は自治体単位等の狭いエリアではなく、地域連携により広いエリアで実施することが効果的かつ有効であると共通理解ができた。外国人旅行者を招いた広域的なモニターツアーの実施に向け、国の補助金等を活用しながら次年度以降も地域連携により検証の機会を作っていくことを計画に盛り込んだ。

③ 共通プラットフォームの整備

インバウンド誘客を想定し、地域全体を面として認知してもらい、今後の誘客に繋げていくことが重要となる。自治体単位ではなく四国カルストエリア、更には四国全体といった広域エリアでの情報共有のための共通プラットフォーム整備の必要性が共通認識として確認できた。販売窓口の一本化やデータ分析の観点からも、中長期的には共通プラットフォームを構築して行くことを目指す。

④ 利益の公平配分：四国カルストエリア全体・四国広域エリア連携の推進

周遊促進のためには、四国カルストエリアのみならず、より広域エリアでの連携が必要不可欠であるとの共通認識に至った。オール四国として、中長期的には四国全体での情報共有が重要であるため、広域エリアでの連携を視野に入れながら、その土台として四国カルスト1市4町の更なる連携強化の必要性が挙げられた。

⑤ 四国カルスト基金（仮称）の検討

サステナブルなコンテンツの開発、並びに観光地域経営の側面から、本事業で造成したコンテンツの地域還元の仕事として、四国カルスト地域全体へ裨益効果があり、かつ地域課題を解決すべく四国カルスト基金（仮称）の設立に向けての検討を開始していくことの重要性を関係者間で確認した。

地域課題として、前年度事業において確認された四国カルストの水源確保やトイレの整備等があり、こうした費用にコンテンツの売上の一部を当てていくことで地域全体に還元していけるよう、次年度以降、久万高原町と津野町だけでなく四国カルスト連携協議会（1市4町）での検討事項としていけるよう、ロードマップに組み込んだ。

四国カルスト版9つのマーケティングプロセス_重点取組みとマーケティング7P +2

Shikoku Kurstory の魅力で、国内外から人が訪れる観光地域

連携 Partnership

- ▶ **プラットフォーム構築** → 地域資源の相互理解の強化推進
- ▶ **地域連携型シェアリングエコノミーの導入**
- ▶ **利益の公平な分配（受け皿整備）** → 仮称「四国カルスト基金」

物的証拠・見える化 Physical Evidence

- ▶ ロゴやシンボルカラーの整備
- ▶ 表記（他言語）の統一
- ▶ 道標・標識等のエリア内統一
- ▶ **マナー・ルールの公表・提示：ゼロ・ウェイスト推進、ゼロカーボン推進**

業務プロセス・販売プロセス Process

- ▶ 顧客関係管理（CRM）の改善、効率化
: **テラーメイドへの対応力強化**
- ▶ 支払い方法の改善、効率化

流通・販売Place

- 販売導線の設計**
- ▶ 旅マエ顧客／旅行会社へのセールス BtoB
 - ▶ 旅マエ・旅ナカ顧客／旅行者へのセールス／BtoC
 - ▶ プラットフォームの構築・運用-2（商品の直接販売）

人・要員 Personnel

- 域内周遊を促進・支援する体制整備**
- ▶ **観光人材の確保・育成**
 - ▶ 提供サービスの水準の維持：**地域資源の相互理解の強化促進**

情報発信 Promotion

- ターゲットに向けた効果的な情報発信**
- ▶ 訴求ターゲットの設定：**消費単価の高い欧米豪富裕層、FAM強化**
 - ▶ メディアの活用（DESTINATIONとしての認知拡大）
 - ▶ **プラットフォームの構築・運用-1**（コンテンツや地域情報の発信）

ツアー造成 Package

- 域内の周遊潜在の促進、周遊滞在型ツアー造成**
- ▶ 消費単価の向上
 - ▶ 体験価値の向上
 - ▶ 追加オプションの充実

商品 Product

- 地域資源への理解と配慮のあるコンテンツ造成**
- ▶ 自然や文化の本質に触れる体験の掘り起こし
 - ▶ 地域資源の活用：**地産地消の推進、祭や地域行事等の活用**
 - ▶ 地域貢献を旅行者に実感させる仕組みづくり：**マナー・ルールの整備**

価格 Price

- 適正な販売計画と目標設定：高付加価値のコンテンツの造成**
- ▶ 適正価格の検証・設定
 - ▶ シーズン価格の検証・設定
 - ▶ 催行回数・売上げの予測

3-2-2. ロードマップ

前項の会議を経て、下記の通り5カ年のロードマップを策定した。

【大原・両万博 来場者輸送具体方針（アクションプラン初版 2022年10月）】

入場者数予想2,820万人中、インバウンド誘客予想は350万人（12%）

→このうち、欧米系市場の想定構成比率は10%程度だが、万博に向けた徳島県全体の施策も十分に活用できる。と考える。

*参考（JNTO）：2019年訪日客数3,188万人中、欧米系からの客数は413万人（約12%）

フェーズA	防日旅行市場	正常化												確立期												2027年																																																																							
		2023年												2024年													2025年												2026年																																																										
時期	年	2023年												2024年												2025年												2026年												2027年																																															
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																																																												
イベント・プロモーション機会	国内													●VJTM2024東京 9/26-28												●大原 両万博 (4/13-)												●VJTM(青年)												●日本観光ショーケースIn 大原・両万博												●VJTM(青年)																																			
	海外（欧米系市場）													春FAM												秋FAM 冬FAM 春FAM												秋FAM 冬FAM 春FAM												秋FAM 冬FAM												秋FAM 冬FAM																																			
BtoB/欧米系市場 海外旅行会社の募集型企画旅行（パッケージツアー）への申込みスケジュール		2025ツアー企画・提案												パッケージ最適化												2025ツアー企画・提案												パッケージ最適化												2026ツアー企画・提案												パッケージ最適化												2027ツアー企画・提案												パッケージ最適化											
フェーズB		スタートアップ期												増強期-1												増強期-2												確立期												転換期																																															
設計項目	最終目標	世界基準でのサステナブルな仕組みと商品化の検討												西日本で行くべきデスティネーションとしての四国、四国カルストの認知度向上と地位の確立																																																																																			
	期間目標	・四国カルスト地域の魅力の再確認と商品化 ・サステナブルコンテンツの造成（半年度事業）												・四国カルスト地域の魅力の再確認と商品化 ・コンテンツ拡充、モデルツアー造成、販路形成												・エリア共通の情報発信の一元化 ・オペレーション体制の整備												・定期的な受入とオペレーション強化 ・エリア共通のオペレーション体制の構築																																																											
	ターゲット（市場）	欧米系市場												市場の絞り込み												欧州（仏・独）、北米（アメリカ、カナダ）、豪 など																																																																							
	販売先	BtoB受注型												BtoB受注型・2026年の募集型												BtoB受注型・2027年の募集型												BtoB受注型・募集型・BtoC																																																											
	コアコンテックス（強み）													①人の暮らし②地域の人の交流体験 ③麓で形成された固有の文化・風習 ④麓の貴重な水産																																																																																			
	サステナビリティ	JSTS-D指標による検証 ①経済 商品・サービスの地元調達、観光収入の創出 ②社会 訪日旅行者との交流により、地域の自信と誇りを高める ③文化の保護 失われつつある集落の風習・文化等の継承												④環境 産出コンテンツの売上の一部を四国カルストの保全に還元（地域全体への還元元として） ⑤経済 通年雇用で貢献しうる商品・ツアー設計 ⑥価値の共有-1 久万高原町/売上の一部を受け皿検討（ふるさと納税→使途、四国カルスト等） ⑦価値の共有-2 四国カルスト地域全体への利益還元を受け皿作りの検討 ⑧雇用機会の創出												⑧JSTS-D指標によるアセスメント継続と強化 →持続可能な観光地トップ100にエントリーできる水準へ																																																																							
時期	年度	2023年度												2024年度												2025年度												2026年度																																																											
Product コンテンツ造成	実施業務	担当/販売窓口	商品造成												2024秋・2025春向けセールス展開												2025秋・2026春向けセールス展開												2026秋・2027春向けセールス展開																																																										
	地域資源への理解と配慮のあるコンテンツ造成	リベルタ（株）													2027年向けの商品磨き上げ												2028年向けの商品磨き上げ												2029年向けの商品磨き上げ																																																										
	ST-1_①_E-bike	（一社）ソラヤマイシチ													販売価格調整 安全管理 商品仕上げ												販売																																																																						
	ST-2_冬/フナネタリウム&神楽	引き続き調整													英語対応人材の育成												安全管理面の強化																																																																						
	K-1_お通話	（一社）ソラヤマイシチ													販売価格調整 安全管理 モニターツアー 商品仕上げ												販売																																																																						
	K-2_道の駅買ひもの 収穫体験と道の駅を組み合わせた ユニークな久万高原町の「食」体験へ	（一社）久万高原町 観光協会													①観光農園との連携、巻き込み												②モニターツアー、検証、フラッシュアップ、 協力先農家の発掘・リスト化												④販売												以降、④の繰り返し																																														
	T-1_川の川開田保存会との交流	（一社）奥四万十高知													モニターツアー、検証、フラッシュアップ、 協力先農家の発掘・リスト化												⑤商品リストの追加																																																																						
	T-2_津野山古式神楽保存会様との交流	（一社）奥四万十高知													モニターツアー、検証、フラッシュアップ、 協力先農家の発掘・リスト化												⑤商品リストの追加																																																																						
	T-3_FAJラインと津野の森	（一社）奥四万十高知													モニターツアー、検証、フラッシュアップ、 協力先農家の発掘・リスト化												⑤商品リストの追加																																																																						
	Package ツアー造成	域内の周遊滞在の促進、周遊滞在型ツアー造成													モニターツアー造成の検												モニターツアー造成												磨き上げ												モニターツアー-FAMツアー実施																																														
Promotion 情報発信	ターゲットに向けた効果的な情報発信																																					※イベント・プロモーション機会の項目欄を参照																																																											
Place 販路・販路	販売導線的设计	販路の検討												BtoB受注型・2026年の募集型												BtoB受注型・2027年の募集型												BtoB受注型・募集型・BtoC																																																											
Personnel 人・要員	域内周遊を促進・支援する体制整備	町を越えたヒト・モノの活用																																				町や県外を含めたガイド人材の確保と育成																																																											
Process 業務工程 販売工程	顧客関係管理（CRM）の改善、効率化													BtoB（旅行会社）との関係構築												BtoB（旅行会社）向けオペレーションの効率化												BtoC（個人）対応の検討												BtoC（個人）向けオペレーションの体制整備																																															
Physical Evidence 見える化	マナー・ルールの公表・提示	マナー・ルールの整備												ホームページ等への掲載・公表																																																																																			
Partnership 連携	プラットフォーム構築													四国カルスト連携協議会の分科会への提案・検討																																																																																			
	地域連携型シェアリングエコノミーの導入	モノ（キックボード、E-bike等）の自治体間連携による活用												ヒト（ガイド等）の自治体間連携による活用																																																																																			
	利益の公平な分配（受け皿整備） →依頼「四国カルスト基金」													四国カルスト連携協議会への提案・検討 久万高原町/コンテンツ売上の一部を法人ふるさと納税 → 環境協力金としての活用/検討・整 トイレの有料化												有料トイレの収益を保全に充てる																																																																							

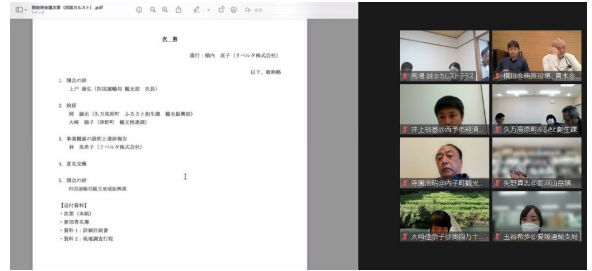
4. 報告会の実施

- 4-1. 全体フロー
- 4-2. 開始時会議
- 4-3. 中間報告会①
- 4-4. 中間報告会②
- 4-5. ロードマップ会議
- 4-6. 最終報告会

4-1. 全体フロー

本事業において、開始時、中間（2回）及び最終において報告会を開催し、ロードマップ策定会議を行った。

9月21日
開始時会議（オンライン）
 ・事業概要説明
 ・方向性についての協議



会議の様子（開始時会議）

10月24日
中間報告会①（会場・オンライン）
 ・現地調査報告
 ・コンテンツ候補と資源活用の方向性について
 ・意識醸成セミナー実施概要
 ・モニターツアーの実施について



会場の様子（中間報告会①）

12月22日
中間報告会②（オンライン）
 ・モニターツアー実施報告
 ・コンセプトの提案
 ・商品完成度と販売体制の状況
 ・ロードマップ会議について



会場の様子（最終報告会）

2月2日
ロードマップ会議（会場・オンライン）
 ・ロードマップ作成に向けた意見交換
 ・各地域のロードマップ案の作成

3月1日
最終報告会（会場・オンライン）
 ・事業全体総括、意見交換

4-2. 開始時会議

本事業全体の概要説明、ニーズ調査等の業務進捗報告、現地調査の概要、方向性についての意見交換等を行った。

4-2-1. 実施概要

- ・ 日時：2023年9月21日（木）16:00～17:30
- ・ 場所：オンライン（Zoom）
- ・ 参加人数：計45名（オブザーブ12名を含む）

4-2-2. 参加者

順不同・敬称略

	区分	氏名	所属	役職
1	久万高原町	岡 誠也	久万高原町 ふるさと創生課 観光振興班	班長
2	久万高原町	渡部 定明	久万高原町 ふるさと創生課	課長
3	久万高原町	正岡 健司	(一社)久万高原町観光協会	事務局長
4	久万高原町	矢野 豪	(一社)久万高原町観光協会	事務局次長
5	久万高原町	福田 剛正	(一財)柳谷産業開発公社	
6	久万高原町	長谷 薫	(一財)柳谷産業開発公社	
7	久万高原町	矢野 真志	面河山岳博物館	係長(学芸員)
8	久万高原町	山本 一人	NPO法人 TE to TE(地元地域おこし団体)	理事
9	久万高原町	山下 元司	山下商店	代表
10	久万高原町	田村 有加	Petit Clif(キッチンカー経営)	社長
11	津野町	大崎 陽子	津野町 観光推進課	課長
12	津野町	川田 明男	津野町 観光推進課	課長補佐
13	津野町	高橋 芙柚音	津野町 観光推進課	
14	津野町	倉橋 盛男	星ふるヴィレッジTENGU	支配人
15	津野町	小澤 祐二	株式会社 五藤光学研究所	津野町地域活性化企業人
16	津野町	豊田 坂江	維新の魁(さきがけ)吉村虎太郎社中	代表
17	津野町	大崎 正	貝ノ川棚田保存会	会長
18	津野町	松浦 健吉	白石活性化委員会	会長
19	津野町	大崎 佳奈子	一般社団法人 奥四万十高知	事務局長
20	津野町	馬場 誠	カルストテラス	館長
21	津野町	谷脇 良枝	遊山四万十せいらんの里	代表
22	津野町	大崎 健司	フォレストアドベンチャー・高知	
23	オブザーブ	松本 栄志	四国ツーリズム創造機構	
24	オブザーブ	佐伯 友里恵	四国ツーリズム創造機構	
25	オブザーブ	坂本 憲昭	四国ツーリズム創造機構	マネージャー
26	オブザーブ	高内 輝	愛媛県 観光スポーツ部観光交流局 観光国際課 観光戦略係	係長
27	オブザーブ	磯野 弘貴	愛媛県 観光スポーツ部観光交流局 観光国際課 観光戦略係	主任
28	オブザーブ	山澤 真智子	観光庁 観光地域振興部 観光資源課 自然資源活用推進室	係長
29	オブザーブ	井上 裕貴	愛媛県西予市役所 経済振興課	
30	オブザーブ	正司 哲朗	西予市観光物産協会	事務局長
31	オブザーブ	寺園 浩昭	内子町観光協会	事務局長
32	オブザーブ	横川 拓也	高知県橋原町 産業振興課	
33	オブザーブ	青木 慎也	雲の上ゆすはら観光協会	事務局長
34	オブザーブ	増淵 俊貴	株式会社ソラヤマいしづち 営業部	営業部 営業課長
35	事業実施主体	上戸 康弘	国土交通省 四国運輸局	観光部 部次長
36	事業実施主体	青井 孝憲	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 課長補佐
37	事業実施主体	福池 愛	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 係長
38	事業実施主体	武市 琉来	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 係員
39	事業実施主体	玉谷 希歩	国土交通省 四国運輸局 愛媛運輸支局	総務・企画観光部門 係員
40	事業実施主体	山本 圭	国土交通省 四国運輸局 高知運輸支局	総務・企画観光部門 首席
41	事業実施主体	高橋 沙季	国土交通省 四国運輸局 高知運輸支局	総務・企画観光部門 運輸
42	受託事業者	林 美希子	リベルタ株式会社 トラベル事業部地域開発部	執行役員 兼 部長
43	受託事業者	石飛 千恵	リベルタ株式会社 トラベル事業部地域開発部	トラベルコンサルタント
44	受託事業者	横内 直子	リベルタ株式会社 トラベル事業部地域開発部	トラベルコンサルタント
45	受託事業者	柏原 真智子	リベルタ株式会社 トラベル事業部地域開発部	トラベルコンサルタント

4-2-3. 次第

1. 開会の辞
四国運輸局 観光部 次長 上戸 康弘氏
2. 挨拶
久万高原町 ふるさと創生課 観光振興班 岡 誠也氏
津野町 観光推進課 川田 明男氏
3. 事業概要の説明と進捗報告
リベルタ株式会社 執行役員 林 美希子
4. 意見交換
5. 閉会の辞
四国運輸局 観光地域振興課 青井 孝憲氏

4-2-4. 共有資料

- ・次第
- ・参加者名簿
- ・資料 1 : 詳細計画書
- ・資料 2 : 現地調査行程

4-2-5. 議事録

(1) 開会の辞

四国運輸局 観光部 次長 上戸 康弘氏

昨年度は、愛媛県久万高原町と高知県津野町における日本版持続可能な観光ガイドラインに準拠した観光地の現状・課題調査事業を実施。本年度は、昨年度事業を踏まえて、四国カルストを核とした観光振興の観点で、サステナブルな観光コンテンツを造成し磨き上げを行う事業を展開していく。

国土交通省・観光庁は、「消費額の拡大」「地方誘客の促進」「持続可能な観光の推進」の 3 つのキーワードに、「国内交流拡大戦略」「インバウンドの回復戦略」「高付加価値で持続可能な観光地域づくり戦略」の 3 つを総合的にかつ強かに推進中。

訪日外国人旅行者数は堅調に回復中。一方、地方への誘客について、3 大都市圏を除いた地域の回復率は 58%。地方への促進が直近の課題となっている。新型コロナウイルス感染拡大以降、世界的に持続可能な観光への関心が高まっている中、サステナブルな観点から旅行先を選ぶ人の割合は 76%とも言われている。住んでよし、訪れてよしを実現するべく、持続可能な観光地づくりと、観光需要の分散、これらに対する観光政策をしっかりと進めていきたい。本事業を通して、四国カルスト地域全体の持続可能な貢献と、自然や伝統文化資源の継承・推進を意識しつつ、観光コンテンツの造成と継続的な販売管理体制の構築を目指して事業を展開したい。意見交換を通じて積極的なご意見をいただきたい。

～前頁続き～

(2) 挨拶

●久万高原町 ふるさと創生課 観光振興班 岡 誠也氏

現在、四国カルストのパークアンドライド事業も並行して実施中で、我々の期待と予想を裏切るような非常に興味深いデータが出てきている。カルスト地域全体をどう振興していくか、本年 4 月に連携協議会も設立し本格的に事業を開始しようとしているところ。協議会の活動と結びつけながら国内外のお客様をお招きする体制作りを強化していきたい。

●津野町 観光推進課 川田 明男氏

四国カルストは非常に人気があり旅行者も来ている。パークアンドライド事業も非常に好調。サステナブルな観光コンテンツの造成事業も良い方向に進めていきたい。

(3) 事業概要の説明と進捗報告

リベルタ株式会社 林

* 以下、会議にて画面共有したスライド資料に沿って説明。

●事業概要

前年度は JSTS-D 調査事業として地域を視察。今年度は四国カルストを核としたサステナブルな観光地域経営の実現に向けた第 2 ステージ。

実施フローは、国が作成している観光を活用した持続可能な地域経営の手引きに沿って実装していく。

●会社概要

リベルタの主軸事業はトラベル事業。欧米豪市場を中心に地方部への送客に特化した商品の造成を展開。
(ブランド名：ハートランド・ジャパン)

ミッションは、日本のローカル地域に外国人観光客を送客、外貨をもたらすことで経済活性の促進を図り、海外の目線で地域に眠っている資源を資産にしていくこと。

地方のアドベンチャートラベルやサステナブルツーリズムを土台とする商品造成・取扱いに特化。顧客リクエストとして多い「ゴールデンルート+a」に対し、“他のエリアを組み合わせた提案”が強み。各地域の観光協会や DMO、旅行会社等と連携し、各地域の細かいランドオペレーションや地域の最新情報をキャッチしながら日本全体と地域を結ぶような地方送客の実現を図る。

●直近データ

「第 4 次観光立国推進基本計画（2023～2025 年の 3 カ年計画）」に新しい指標が 2 点増加。外国人旅行消費額の単価目標（20 万円/人）、訪日外国人旅行者 1 人当たりの地方部宿泊数（2 泊）が目標に追加。当社の直近実績（2022 年 10 月以降、2023 年 7 月時点）は、

旅行者消費額単価：昨年度の達成率 228.5%（45.7 万円/人）

1 人あたりの地方部宿泊数：昨年度の達成率 143.5%（2.87 泊）

●事例紹介

【長野県松本市：乗鞍高原】

国立公園ゼロカーボンパークの中のアウトドアを中心とした商品造成。欧米豪の誘客が課題だが、大きく増やしたいわけではなく 2 割増が目標。その場合の新しい送客方法への立案を進行中。

～前頁続き～

【北海道富良野】

今年 9 月北海道にて国際的商談会「アドベンチャートラベル・ワールドサミット北海道・日本（ATWS2023）」が開催。富良野エリアを試走。地域の共通認識として、「滞在日数の伸張」という明確な方向性がある。

【ATWS2023 のトピックス】

商談では、海外現地旅行会社やメディアから「レスポンスビリティ」「コントリビューション」「オフザビートゥントラック」の 3 つがキーワードとして挙げられた。レスポンスビリティとは、その地域に入る旅行者の果たすべき責任、その土地のマナー。コントリビューションは貢献 = 旅行者が地方部に行くことでどんな貢献ができるのか。（例：募金等のドネーションの工夫の有無、高齢化問題への課題対策等）オフザビートゥントラックは、人里を離れ、人気がない場所。欧米豪では混雑を嫌がり避ける傾向があるため、旅行会社のセールス担当者が非常に気にしていたポイント。以上の 3 点は本事業でもコンテンツ造成時に非常に大事に進めていきたいポイント。

● 持続可能な観光推進エリア

久万高原町・津野町において、昨年度調査にあたった第一推進エリアはコンテンツを造成する対象エリアに位置付け。サステナブルな商品造成においては内子町・西予市・橋原町含む 1 市 4 町の四国カルストエリアとして連携が必要。旅行者が好む周遊滞在、インアウト（域内における起点・終点）が異なるルートの造成を重点項目とし、ルールやマナーの整備、造成商品をこれら地域にどう還元するか、仕組み・セールス展開の検討を進めていく。

● 重点項目：四国カルストの連携推進ルールやマナーの整備

造成コンテンツ自体に、四国カルスト共通の来訪者向けのレスポンスブルーツーリズムと言われるルールを定めていきたい。ピクトグラムと英訳入れた構成を想定。

● 重点項目：地域還元

地域全体への貢献の仕組みづくりも念頭においたコンテンツ造成をし、事業後半に議論を重ねていきたい。今後のロードマップ、今後の展開としてワーキンググループを作り、具体的に話を固めていく。

● 重点項目：セールス展開

今年度の事業後、リベルタもセールスをしていく旅行会社の 1 社という位置付けで、来年以降展開していく。自治体、都道府県という境がないこと、インアウトの設計、滞在日数の目標について我々も意識しコンテンツ造成につなげたい。

造成と継続的な販売管理体制の構築を目指して事業を展開したい。意見交換を通じて積極的なご意見をいただきたい。

～前頁続き～

●実施業務の概要 KPI の確認

コンテンツ造成数 5 件のうち、食に関するコンテンツ、冬季シーズンのコンテンツを含んで設計していく。セミナーは、20 名以上の参加を促していく。

●業務進捗

・ニーズ調査：カナダ「Finisterra Travel 社」にヒアリングを実施。コンテンツ造成後もコメントをとっていく。その他、四国カルストに興味を示す可能性がある海外現地旅行会社にもヒアリングをかけていきたい。

・現地調査：2泊3日×2回、視察やヒアリング延べ30件以上行い、最終的に5件以上のコンテンツ造成を目指す。

※第一回：2023年9月25日～28日、第二回：2023年10月9日～12日

久万高原町様：大野ヶ原（西予市）にもインバウンドにささる場所があるので入れないか検討したい。

津野町様：第1回で回れない部分は第2回に回すという理解でよいか？⇒事業者様の都合が合わないところは10月に。オンラインでのつながりも想定している。（リベルタ回答）

・セミナー：10月24日～25日※関係者を対象としたプレモニターも実施

登壇者はUNWTO 飯田氏、香川大学 原氏

・モニターツアー（2泊3日）

招請者：マンディ・バートック氏（プロのガイド、ライター、四国周遊経験あり）、他2名調整中

モニターツアーまでに体験内容を固めて、実際のセールスクリフを作成。

専門家からフィードバックをもらう意見交換会の時間も設定予定。アンケートを実施し、報告会で共有予定。

・中間報告会①：2023年10月12日（2回目の現地調査最終日）現地開催→現地との調整により、その後2023年10月24日午前に日時変更

議案：ニーズ調査とりまとめ、造成コンテンツ報告、セミナー（プレモニター）実施概要、モニターツアー実施概要

・中間報告会②：11月のモニターツアー終了後、12月を予定

議案：モニターツアー報告、コンテンツ造成状況の報告、ロードマップ策定

・最終報告会：2024年2月頃

（4）意見交換

【四国ツーリズム創造機構 松本氏】

本事業は一気通貫した取り組みになるということで、非常に期待をしている。5つのコンテンツを造成後、最終的にはツアー形式で販売していくという理解でいいか。

【リベルタ林】

造成コンテンツの販売を担う旅行会社の1社として当社の見解は、地元サプライヤーが直接英語で対応可能であれば、それぞれサイト掲載しOTAに載せるという活用もあり。当社ではセールス部門がデータベースとして蓄積し、テラーメイドリクエストベースの方にこの地域を組んで提案するという活用を想定中。また、3日間程度のモデルコースを提案する程度にとどめ、個別に相談を受け付けるスタイルを想定中。（当社HPにも掲載）本事業では、ツアー造成は含まれていないため、紐づけ可能なテーマがあれば、コンテンツを提案するようなイメージ。旅行会社ごとの販売計画に沿って活用してもらうことを想定。

～前頁続き～

【四国ツーリズム創造機構 松本氏】

四国の真ん中のため、インアウトが難しい。愛媛から入ると降りやすいが、高知から入ると出方が難しいため、期待している。また、地域関係者とのセミナーや講義では、住民の参加が非常に重要で幅広く声をかけているので、訪れて良しの実現を目指してほしい。

【四国ツーリズム創造機構 佐伯氏】

愛媛出身の立場なので、高知県との行き来ということで、インアウトが最終的に結果としてどうなるのかが非常に興味深い。

【高知運輸支局 山本氏】

移動に関しての部分が非常に気になる部分。実際のモデル事業ができた際に安全に移動できるかどうか気になるポイント。

【リベルタ林】

パークアンドライドの実証も進んでいるかと思うので、並走しながら進めていき、より良い移動手段も意識しながら進めていきたい。

【久万高原町観光協会 矢野氏】

道路状況、交通に関して、冬季のカルストの利用価値の検討、今まで行ったことのないような場所の提供、コンテンツづくりが興味深い。

【久万高原町 ふるさと創生課 観光振興班 岡氏】

公共交通機関が非常に薄いとこなので、人が動く場合にどのように展開して、交通弱者を誘客するか、様々な方法を検討しなければならないと感じている。

【リベルタ林】

まさに我々も販売する際、個人の方は一番困るところ。類似事例が多数あるが、一つの対策として旅行会社に対し 6 名程度のグループ向けに販売を促す方法がある。チャータータクシーを 1 台入れても、6名であれば旅行代金のハードルが抑えられる。6 名を割ってしまうと、割高になる。そういった情報をしっかり伝えることが重要。また、他地域の DMO の場合、条件以上に誘客できたら交通費を補助するといった動きもでている。補助金についてこの事業で動かせる部分ではないが、事例を踏まえてロードマップの中で考えていきたい部分。

【檮原観光協会 青木氏】

冬季のカルストを有効利用したい。カルストテラスがあり、お客様の要望でガイドツアーをするが、縦断道が遅かったりすれ違いが難しかったりすることで、冬期は閉鎖しているため、安全性を考慮した上での専用車を活用した特別感のあるツアーがあると売りやすいと思う。

【リベルタ林】

実証の事業が動いていると思うので、運輸局様の力を最大限に発揮いただければ期待している。

【西予市 井上氏】

四国カルストエリアの広域連携というところで西予市が連携できる場所があればよろしくお願ひしたい。

【リベルタ林】

ぜひ、ルール作りの部分などは、皆様からご意見いただき、会議の時間を設けるなどして進めたい。

～前頁続き～

【内子町観光協会 寺園氏】

四国カルストは、どこからどうアクセスすればいいのかわからないということが一番の問題。場所はいいが行き方がわからない。だからこそ、四国で1番検索件数も多いと思う。来年度のテーマとして提言もしているが、四国カルストを中心に、5つの市町からどうアクセスすればいいかを明確にできるような情報を作り、アクセスをどう作るか、どう発信するかを検討することが重要で1つのポイントだと感じている。

【リベルタ 林】

我々旅行会社の立場としても、まさにセールスのスタッフたちは、その情報がなかなか取れないということもある。それぞれの町からのアクセスについても今後ご相談させていただきたい。

【面河山岳博物館 矢野氏】

保全やルール作りについて、事業の根底にある取り組みの骨子になる部分だが、もともと欧米の方は意識が非常に高く、保全という考え自体が日本にはなかったので、我々が事業を組んでいくときに必ず起こるのが形骸化。とりあえず言葉として載せておけば言葉に価値が生じるという状況が生まれつつある。そこがいかに本物になるかがインバウンドの事業として、長く続いていくかのポイントになると思う。地域にお金を落としていくことで保全につながるという体験が山間地は少ない。本事業からリベルタが離れた途端に、便利な言葉であるサステナブルを銘打った事業が乱立するのではと危惧はしている。

【リベルタ林】

我々もいろんな地域で作りはじめているところ。同じ課題に直面している。

国際認証があり、現段階で我々も認証を取るほどには動けてないが、将来的には取得を目指している。まずできることは意識の高い旅行会社・お客様に対してパイプをつくっていくところに力を入れたい。ルールの形骸化については、サステナブルという言葉、「付けておけばいい」という傾向もあると思う。セミナーではUNWTO 飯田様に来ていただくので、成功例だけではなくて、失敗事例も含めてお話させていただくような形で相談したい。

【津野町観光推進課 大崎氏】

外国人観光客を見ることはないが、自転車利用者が多い。公共交通がないというところで自転車を選ばれるのかもしれないが、気軽に自転車に乗りやすい地域でもあるため、E-BIKE プログラムのようなものもよいのでは。

【リベルタ林】

自転車利用の多さやニーズについて、他の地域の情報もいただいて、自転車プラスαになるヒントも得ながら作っていきたい。

【愛媛運輸支局 玉谷氏】

「人がないところがいい」という点に需要を見出し、外国人旅行者が来なくなる田舎ならではの魅力がある分、移動手段の確保が課題だと感じた。

【リベルタ林】

交通部分については、ぜひ運輸局様にも全面的にバックアップをお願いしたい。

【愛媛県観光国際課 高内氏】

欧米豪の方をターゲットにしたコンテンツ造成に期待している。欧米豪も広いので、市場ごとにあうコンテンツについてもあわせて教えていただきたい。

～前頁続き～

【リベルタ林】

徳島県はドイツ人捕虜に関する跡地があり、ドイツの方に非常に響いている。藍染めなどのクラフト系はフランスの方に好まれている。素材と国といった好まれやすい組み合わせもあるので、旅行者ごとの好みにどう向けていか、探っていきたい。

【株式会社ソラヤマいしづち 増淵氏】

長期的なゴールとしては、持続可能な観光推進モデル地区に、このカルストエリアが選ばれることが目的なのか。今年度造成するコンテンツで海外からの誘客を目指すものなのか、どちらか。

【リベルタ林】

昨年の調査の段階ではゼロステージから始まり、1つの方向として国際認証を取ることをゴールとしているが、どちらに向かっていくかはまだ明確になっていない。この地域で来年以降も取り組まれるかと思うので、アクションの一つとして、サステナブルな部分を中長期で貢献できるようなコンテンツを作っていくという位置付けになる。

【株式会社ソラヤマいしづち 増淵氏】

久万高原がグリーンステーションズの認証を本気で取りに行くこと、コンテンツ造成はとて素晴らしいと思うが、誘客は交通の問題があるので、様々な事業でコンテンツ造成まではできても、実際販売して誘客するのは難しい。コンテンツを作って終わる印象があり反省として感じているので、しっかり考える必要あり。またレスポンシブルツーリズムやリジェネラティブツーリズム等流行っているが、そういった名前がつくことでそれっぽくなるため、地域の方や日本人観光客が、そもそもレスポンシブル的な活動ができているかが重要。カルストはお手洗いの問題や休憩所が少ないため、コンテンツとしては作れるが、並行して受け入れ環境として整備が必要と感じる。

【リベルタ林】

販路、窓口、それぞれご協力をお願いしたい。

サステナブルの部分は相対的なものなので、まずこの要素を克服していくコンテンツなのかといったところ、時間はかかるがやっていきたい。

徳島県にし阿波の商品造成をした際、サステナブルツアーと言っても、「にし阿波のサステナブルとは何か」を1年かけて突き詰めていった結果、環境保全ではなく、限界集落、消滅集落を取り扱ってコンテンツにしたので、住む方がいなくなってしまうとしても、旅行者を送ることで旅行者が伝承していく

「伝承の旅」というところに軸を当てて作っていった。今年のコンテンツの中でも先々作っていくツアーの柱になるサステナブルの要素というのが何なのかを一緒に考えていながら進めていきたい。

【四国ツーリズム創造機構 坂本氏】ターゲットについて教えてください。

【リベルタ林】

旅行会社としてセールスをする中では、ヨーロッパ、北米、カナダの他、パイプの強い旅行会社がある国は、送客につながる確度が高いので、我々は自社が保有する信頼のある旅行会社に対して積極的に打っていく。そこから対象市場を想定していく。

【西予市観光物産協会 正司氏】

大野ヶ原、単体で考えた時に、やはり難しい部分がある。広域で考えれば、大きな役目を果たせるのでは。地元の方にご迷惑おかけしないような観光コンテンツの開発や、愛媛県で推進しているATのガイド要請等、様々な事例をまた拝見しながら役割を果たしたい。

～前頁続き～

●総括

【久万高原町 岡氏】

交通の問題、冬季の活用問題等、事業進めていく中で、少しずつ考えていきたいと思います。

【津野町 大崎氏】

地域に根差した取り組みになっていないとなかなか続かない。意識醸成セミナーなどを多くの方に参加いただきたい。

(5) 閉会の言葉

四国運輸局 観光地域振興課 青井氏

いただいた意見を事業に反映させながら進めていきたい。エリアとしてのディスティネーションが大変重要視されているので広域連携が不可欠。

本事業で造成したコンテンツについては、サステナブルな観点からの JSTS-D の準拠状況を確認しながら、事業完了後、販売管理体制の確立と、目標設定も行い、持続可能な仕組みを検討していきたい。引き続きご協力をお願いします。



オンラインでの会議の様子

4-3. 中間報告会①

9月と10月に実施した現地調査の報告と、同時期開催とした意識醸成セミナー実施概要、並びに11月のモニターツアーの実施について説明を行った。また、コンテンツ候補と資源活用の方向性についても説明を行い、これらについて意見交換を行った。

4-3-1. 実施概要

- ・ 日時：2023年10月24日（火） 10:00～11:00
- ・ 場所：久万高原駅やまなみ 2 階多目的ホール及び オンライン（Zoom）によるハイブリッド開催
- ・ 参加人数：計 40 名（現地参加 15 名、オンライン 25 名、オブザーブ16名を含む）

4-3-2. 参加者

順不同・敬称略					
	区分	氏名	読み	所属	中間報告会
1	久万高原町	岡 誠也	おか	久万高原町 ふるさと創生課 観光振興班	○
2	久万高原町	正岡 健司	まさおか	(一社) 久万高原町観光協会	オンライン
3	久万高原町	田村 有加	たむら	Petit Clif (キッチンカー経営)	○
4	久万高原町	横山 愛香	よこやま	伊予銀行 地域創生部	オンライン
5	久万高原町	露口 光隆	つゆぐち	伊予銀行 久万支店	○
6	久万高原町	中野 太一	なかの	株式会社 久万総合開発 久万スキーランド	オンライン
7	津野町	大崎 陽子	おおさき	津野町 観光推進課	○
8	津野町	川田 明男	かわだ	津野町 観光推進課	オンライン
9	津野町	久保浦 彩	くぼら	津野町 観光推進課	オンライン
10	津野町	高橋 芙柚音	たかはし	津野町 観光推進課	○
11	津野町	豊田 成寿	とよだ	維新の魁(さきがけ) 吉村虎太郎社中	オンライン
12	津野町	大崎 正	おおさき	貝ノ川棚田保存会	オンライン
13	津野町	谷脇 良枝	たにわき	遊山四万十せいらんの里	オンライン
14	津野町	大崎 健司	おおさき	フォレストアドベンチャー・高知	オンライン
15	オブザーブ	魚住茂男	うおずみ	愛媛県観光スポーツ文化部 観光国際課	オンライン
16	オブザーブ	末廣祐之	すえひろ	愛媛県観光スポーツ文化部 観光国際課 国際プロモーショングループ	オンライン
17	オブザーブ	井原英昭	いほら	愛媛県観光スポーツ文化部 観光国際課 国際プロモーショングループ	オンライン
18	オブザーブ	高内 輝	たかうち	愛媛県観光国際課 観光戦略係	オンライン
19	オブザーブ	杉野 晃久	すぎの	愛媛県観光国際課 観光戦略係	オンライン
20	オブザーブ	磯野 弘貴	いその	愛媛県観光国際課 観光戦略係	オンライン
21	オブザーブ	大川真一郎	おおかわ	梶原町 産業振興課	○
22	オブザーブ	柏田太郎	かしわだ	高知県 観光振興部 地域観光課	○
23	オブザーブ	矢野 貴大	やの	高知県 観光振興部 地域観光課	オンライン
24	オブザーブ	長谷川 賢虎	はせがわ	高知県 観光振興部 地域観光課	オンライン
25	オブザーブ	坂本 憲昭	さかもと	四国ツーリズム創造機構	オンライン
26	オブザーブ	佐伯 友里恵	さいき	四国ツーリズム創造機構	オンライン
27	オブザーブ	山澤 真智子	やまざわ	観光庁 観光地域振興部 観光資源課 自然資源活用推進室	オンライン
28	オブザーブ	松本 勝	まつもと	株式会社 ソラヤマいしづち	○
29	オブザーブ	大寺 宏典	おおでら	(一社) 愛媛県観光物産協会	オンライン
30	オブザーブ	小野 健太	おの	(一社) 愛媛県観光物産協会	オンライン
31	事業実施主体	上戸 康弘	うえと	国土交通省 四国運輸局	○
32	事業実施主体	福島 史晃	ふくしま	国土交通省 四国運輸局	○
33	事業実施主体	青井 孝憲	あおい	国土交通省 四国運輸局	○
34	事業実施主体	武市 琉来	たけいち	国土交通省 四国運輸局	○
35	事業実施主体	玉谷 希歩	たまに	国土交通省 四国運輸局 愛媛運輸支局	オンライン
36	事業実施主体	山本 圭	やまもと	国土交通省 四国運輸局 高知運輸支局	オンライン
37	受託事業者	林 美希子	はやし	リベルタ株式会社 トラベル事業部地域開発部	○
38	受託事業者	石飛 千恵	いしとび	リベルタ株式会社 トラベル事業部地域開発部	○
39	受託事業者	横内 直子	よこうち	リベルタ株式会社 トラベル事業部地域開発部	○
40	受託事業者	柏原 真智子	かしわばら	リベルタ株式会社 トラベル事業部地域開発部	オンライン

4-3-3. 次第

1. 事業進捗報告

- (1) 現地調査の実施報告 (リベルタ 石飛)
- (2) コンテンツ候補と資源活用の方向性について (リベルタ 林)
- (3) セミナー実施概要 (リベルタ 横内)
- (4) モニターツアー実施概要 (リベルタ 林) 招請専門家、視察行程案

2. 意見交換・質疑応答

3. 総括

愛媛県久万高原町 ふるさと創生課 観光振興班 岡 誠也氏

高知県津野町 観光推進課 大崎 陽子氏

4-3-4. 共有資料

- ・次第
- ・参加者名簿
- ・資料 1_現地調査報告
- ・資料 2_コンテンツ候補一覧
- ・資料 3_タリフ案
- ・資料 4_モニターツアー行程案
- ・資料 5_モニターツアー招請者

4-3-5. 議事録

4-3-5-1. 事業進捗報告

(1) 現地調査の実施報告 (リベルタ 石飛) 【資料1】

P1/1-2. 観光資源リスト (視察先の選定)

現地調査を行うにあたり、昨年度事業にて抽出された観光資源や、新たな観光コンテンツとなり得る資源について対象自治体にヒアリングを行い、①コンテンツ候補となり得る資源のリスト化 ②コンテンツ候補の選定とコンテンツ案の検討 ③コンテンツの選定とコンテンツ内容の策定 という順に進行。

P2～3/1-3. 現地調査 1-3-1. 1回目現地調査

久万高原町ならびに津野町へ資源のリスト化を依頼し、観光資源の視察候補を抽出。抽出にあたっては、各自治体の現状や方向性を踏まえた上で視察先を選定し、久万高原町で 5 候補、津野町で 6 候補、合わせて 11 候補の観光資源を視察。令和 5 年 9 月 25 日 (月)～28日 (木) の 3 泊 4 日に調査を実施。

P4/①津野町：古式神楽保存会 ヒアリング、練習会見学

津野町古式神楽保存会会長嶋崎氏へのヒアリングから実施。伝統文化が消えることへの危機感を感じ様々な活動に積極的に参加する姿勢をお持ちであった。中学生との交流も実施。11月のモニターツアーでは、メンバーとの交流を軸とした内容を盛り込むことが決定。

～前頁続き～

P5／②津野町：フォレストアドベンチャー・高知ヒアリング

既存のコンテンツ内容、冬季営業について確認。冬は凍結の問題もあり、客数が少ない。フォレストアドベンチャー本社との関係もあり、新たな取り組みについては難しさを感じていた。食×森という括りで森林体験の可能性を模索。また安全講習ビデオが多言語対応済み。外国人への説明の簡素化ができれば受け入れも回していけるという考えを持っていた。

P6／③津野町：遊山四万十せいらんの里ヒアリング

既存のコンテンツ内容とインバウンド対応に向けた食のコンテンツ＝ヴィーガン対応についてヒアリング。2回目の調査報告にて詳細を説明。

P7／④津野町：貝ノ川棚田保存会

高知県立大学のワークショップに参加。棚田の保全と地域活動について確認。キャンドルイベントの具体的な内容、歴史、水源について説明いただき、地域交流を主体としたコンテンツづくりの可能性について検討を進めている。

P8／⑤共通：キックボード、E-bike乗車体験

ゆすはら雲の上観光協会にてキックボードをレンタルし、特別に四国カルストまで運搬。ネックは道具の輸送であることを認識。ガイドは昨年育成されたが、四国カルストをキックボードやE-bikeで回って案内することは想定していないことから、ガイドなしでの提供の難しさもあり。

P9／⑥久万高原町：農林業体験民宿てっぺん 郷土料理づくり体験と宿泊

郷土料理作り体験と宿泊にフォーカス。オーナーの奥様が熱い思いを抱えており、地域の暮らしを体験するには適した場所。ツアーの宿泊先候補の一つとしても有力。

P10／⑦久万高原町：第45番札所岩屋寺 愛媛県庁ヒアリング同行、周辺調査

岩屋寺から大寶寺につながる遍路道の一部踏査した。ニューヨークタイムズの表紙を飾るなど、インバウンドには非常に訴求力の高い景観が残っていた。歩くことで保全につなげている。

P11／⑧久万高原町：大寶寺 愛媛県庁ヒアリング同行

地域の方に来てほしいという思いがある。宿坊をイベントに使用するなど工夫をしながら、お遍路体験、修行体験等を核にした体験コンテンツづくりに意欲的。詳しくは後述の画像でも要確認。

P12～14／現地調査・視察の様子

画像による報告、【資料1】参照。

P15～16／1-3.現地調査 1-3-2. 2回目現地調査

2回目の調査を令和5年10月9日（月）～12日（木）の3泊4日にて実施。

1回目の現地調査で視察できなかった観光資源や、コンテンツ造成に向けたさらなる調整のため、2回目の現地調査を行った。

～前頁続き～

P17／①津野町：農家食堂・Café -イチョウノキ- 昼食+フォレストアドベンチャー・高知ジップライン体験

モニターツアーにて、まずは昼食や交通を組み合わせたBtoB向けセールスを前提に、森林の活用や山の恵みを軸としたストーリー設定、かつ英語ガイド付きのコンテンツ化について検証することとした。

P18／②津野町：貝ノ川棚田保存会キャンドルイベント準備手伝い

保存会の取り組みに対する理解を深めることを目的として、実地セミナーの際にキャンドルイベントで使用されるペットボトルキャンドルの製作体験をすることとなった。実地セミナーでのフィードバックを基に、モニターツアーへの作り込みを行う。

P19／③津野町：遊山四万十せいらんの里ヒアリング

ヴィーガン対応内容について具体的にヒアリング。弊社の食対応シートを使い、ヴィーガン・ベジタリアンの区分での対応可否、およびアレルギー特定品目に対するヒアリングを実施。

P20／④久万高原町：既存コンテンツの体験 石鎚山トレッキング（土小屋ルート）

修験者を撮影する旅行者も見受けられ、マナーやルールの共有の必要性を確認。また、踏査により「鎖場」を旅行商品として組み込むにはリスクが高いことを確認。ガイドによる安全やマナーについての共有が必須なスポット。

P21／⑤久万高原町：第44番札所大寶寺ヒアリング+歩き遍路体験歩き遍路を一部体験。

P22／⑥久万高原町：ヴィーガンカレー試食

モニターツアーで、実際に参加者に試食いただく予定。

P23～26／視察の様子

画像によるご報告、添付資料参照

(2) コンテンツ候補と資源活用の方向性について（リベルタ 林）【資料2】

2-1. 観光資源と課題の整理

第1ステージとして昨年実施した調査事業から、四国カルスト第1推進エリア、第2推進エリアにて調査を実施し、コンテンツの商品化に向けて進めている。

2-2. コンテンツ造成に向けて

コンテンツの造成に向けては、経済面での利益効果を図るため、移動手段を組み込むことで外国人旅行者を地方に送客し、旅行会社に向けて売り込めるような商品設計、パッケージツアーの設計をしていく。またOTAによる予約の場合、100%宿泊が確約されたとは言えない場合もあるのが現状。欧米の場合は半年から1年前に問い合わせが来るため、テラーメイドで旅行会社が一度受領後にリクエストを流していく、リクエストベースのテラーメイドツアー向けの素材提供をすることが有効であると考えられる。

2-3. コンテンツ候補

例えば、ヴィーガン対応や浴室でのタトゥーが対応可能になることで、旅行会社から選ばれやすくなる傾向があるため、多様な受け入れ環境を重点指標としつつ、地元からの協力や理解があること、受け入れの際に決して無理や負担が生じないこと、サステナブルの観点での磨き上げや経済効果が期待できるものを選出。

～前頁続き～

コンテンツタリフ

最終的にモニターツアーでの検証後に、実際の販売に向けて調整していく。大枠の内容は、11月実施予定のモニターツアーの際に参加者に人数構成や所要時間、実施内容を検証してもらい、今回はタリフの初稿という形で作成しながら、それをもとに1つ1つ検証していく。

(3) セミナー実施概要 (リベルタ 横内)

講師は2名。UNWTO 飯田氏には、国際的な観光の動向や持続可能な開発目標と観光、持続可能な観光地域の経営等を事例も合わせて紹介いただく。

香川大学の原氏には、地域コミュニティ、観光地ではないところの観光振興についてお話いただく。

10月25日（水）実施の実地セミナーについての注意事項共有

昼食の用意があるが、修行としてのシンプルなお弁当となっているため、朝食をしっかり食べてから参加いただきたい。

(4) モニターツアー実施概要 (リベルタ 林) 招請専門家、視察行程案

モニターツアー行程表

【資料4】にて共有。

モニターツアー招請者について補足【資料5】

小峰邦良氏について紹介

長野県在住。国定公園としては初めてゼロカーボンパークに指定された地域で、サステナブルツアーに関してもモデル地域とされた動きのある地域に在住。アウトドアガイド歴20年。夏・冬両方のシーズンに強いため、課題解決のヒントも期待したい。

マンディ・バートック氏について紹介

北から南まで日本全国の地方部を渡り歩き、SNSを有効活用した情報発信も得意なため、四国カルストの情報発信にも期待したい。

ウイロビー晃恵氏について紹介

プロフィール詳細は入手出来次第後日共有。茶道や食が専門で、9月に開催された ATWSでも商談に参加。

4-3-5-2. 意見交換・質疑応答

【ソラヤマいしづちガイド 松本氏】

久万高原町側の資源視察に2日間同行したが、自然、文化、人を見てもらったのではと思う。食については、当たり前すぎて表面化していないものがたくさんある。地域のおじいさん、おばあさんしか知らない食を継承できるようにコンテンツ造成ができるとういと思う。このエリアには観光客に来てもらえる要素はあるので、ガイド育成なども継続的にできたらよいと思う。

～前頁続き～

【津野町役場 観光振興課 川田氏】

今回の候補リスト以外になるが、昨日の星ふるビレッジTENGUのプラネタリウムと天文台のご担当者様とのヒアリングの中でも津野町古式神楽と組み合わせた内容等、ご意見をたくさん頂いているので前向きに検討していきたい。また、これ以外の課題についても引き続き検討を進めていきたい。

【リベルタ 林】

上記のプラネタリウム・天文台と古式神楽との組み合わせについては、引き続き津野町様や関係の皆様と引き続き詰めていきたい。11月のモニターツアーでは間に合わないが、ロードマップ会議に合わせて、プレモニターのような形で検証ができないか調整を進めている。

4-3-5-3. 総括

●高知県津野町 観光推進課 大崎 陽子氏

現地調査に入ってもらい、素材がありすぎて、どれをコンテンツとして作っていくか難しいところを、情報整理してもらい、課題が明確になった。話し合いの中から新しい提案をしてもらい、モニターツアーに進んでいくという流れになり、我々だけではどうしようもないところにお力添えをいただきありがたい。

町内の滞在日数をいかに増やすか、料金設定をどうするか等の課題があるが、こうしたことも含めて今後も引き続きアドバイスをいただきたい。

明日の実地セミナー、11月のモニターツアーを通してさらに理解が深まり、関係者同士がつながっていけるとよいと思う。引き続きよろしくお願ひしたい。

●愛媛県久万高原町 ふるさと創生課 観光振興班 岡 誠也氏

足りない部分、気づかない部分、ノウハウを持ち込んでもらいありがたい。意識づけになったところが非常に大きい。

コンテンツの磨き上げをしたところを商業ベースとしてどう載せていくかは自治体等の受け入れ側で検討していく必要があるが、広域の収益につなげるために連携を進めていきたい。広域としての動き、収益、国の動きとあわせてどうしていくかが大事だが、経済を盛り上げるには人手が足りない。本事業を通じて関係機関の支援をいただきたい。

●四国運輸局 観光部 次長 上戸 康弘氏

アドベンチャートラベルの講演会や相談会などでは、サステナブルは既に当たり前のことなので、もう語られていない。その上でこの視点を取り込み、地域主体、住民主体といった大切な視点もからめたコンテンツ造成が必要。また、食の磨き上げやガイドの役割、二次交通といった課題にも取り組んでいきたい。関係者のご協力を引き続きお願ひしたい。



会場の様子

4-4. 中間報告会②

モニターツアーの実施報告をすると共に、コンテンツの最終化に向けたコンセプトの提案、現在のプロダクトレディ状況を踏まえた今後のロードマップ作成についての意見交換等を行った。

4-4-1. 実施概要

- ・ 日時：2023年12月22日（金）15:00～16:30
- ・ 場所：オンライン（Zoom）
- ・ 参加人数：計22名（オブザーブ1名含む）

4-4-2. 参加者

	区分	氏名	所属	中間報告会②	役職
1	久万高原町	岡 誠也	久万高原町 ふるさと創生課 観光振興班	オンライン	班長
2	久万高原町	正岡 健司	(一社) 久万高原町観光協会	オンライン	事務局長
3	久万高原町	矢野 豪	(一社) 久万高原町観光協会	オンライン	事務局次長
4	久万高原町	山之内 野乃花	(一社) 久万高原町観光協会	オンライン	事務局員
5	久万高原町	藤原 百梨奈	(一社) 久万高原町観光協会	オンライン	事務局員
6	久万高原町	矢野 真志	面河山岳博物館	オンライン	
7	久万高原町	田村 有加	Petit Clif (キッチンカー経営)	オンライン	
8	久万高原町	横山 愛香	伊予銀行 地域創生部	オンライン	
9	津野町	大崎 陽子	津野町 観光推進課	オンライン	課長
10	津野町	久保浦 彩	津野町 観光推進課	オンライン	
11	津野町	小澤 祐二	株式会社 五藤光学研究所	オンライン	津野町地域活性化企業人
12	津野町	大崎 正	貝川川棚田保存会	オンライン	会長
13	津野町	大崎 佳奈子	一般社団法人 奥四万十高知	オンライン	営業係長
14	津野町	大崎 健司	フォレストアドベンチャー・高知	オンライン	
15	オブザーブ	佐伯 友里恵	四国ツーリズム創造機構	オンライン	マネジャー
16	事業実施主体	福島 史晃	国土交通省 四国運輸局	オンライン	観光地域振興課 課長
17	事業実施主体	青井 孝憲	国土交通省 四国運輸局	オンライン	観光地域振興課 課長補佐
18	事業実施主体	武市 琉来	国土交通省 四国運輸局	オンライン	観光地域振興課 係員
19	事業実施主体	玉谷 希歩	国土交通省 四国運輸局 愛媛運輸支局	オンライン	総務・企画観光部門 係員
20	受託事業者	林 美希子	リベルタ株式会社 トラベル事業部地域開発部	オンライン	執行役員 兼 部長
21	受託事業者	石飛 千恵	リベルタ株式会社 トラベル事業部地域開発部	オンライン	トラベルコンサルタント
22	受託事業者	横内 直子	リベルタ株式会社 トラベル事業部地域開発部	オンライン	トラベルコンサルタント

4-4-3. 次第

1. 事業進捗報告

- (1) モニターツアー実施報告（リベルタ 石飛・横内）
- (2) コンテンツの最終化に向けて（リベルタ 林）
- (3) ロードマップ会議実施概要（リベルタ 林）

2. 意見交換・質疑応答

3. 総括

愛媛県久万高原町 ふるさと創生課 観光振興班 岡 誠也氏

高知県津野町 観光推進課 大崎 陽子氏

4-4-4. 共有資料

- ・次第
- ・参加者名簿
- ・資料1_モニターツアー実施報告
- ・資料2_ロードマップ会議実施概要

4-4-5. 議事録

4-4-5-1. 事業進捗報告

(1) モニターツアー実施報告（石飛・横内）

本モニターツアーは、造成した個々のコンテンツの検証を目的に、2023年11月11日（土）から14日（火）までの3泊4日の行程で実施した。

● 招請専門家の紹介

マンディー・バートック氏：アメリカ出身。東京在住。普段はプロのガイドとして訪日外国人に対し日本を案内している。本モニターツアーでは持続可能性及び外国人としての観点から評価をしていただいた。

小峰氏：長野県在住。ゼロカーボンパークとして全国で初認定された乗鞍高原にてアクティビティガイドとして活躍している。本モニターツアーではアクティビティガイドとして、また乗鞍高原での実践をもとにした持続可能性の観点から評価をしていただいた。

ウイロビー氏：新潟県佐渡島在住。佐渡観光交流機構の方。佐渡市が、グリーン・デスティネーションズによる「世界の持続可能な観光地100選」の認定をされる際に尽力。持続可能性の観点から評価をしていただいた。

● 各コンテンツについて

・【K-2】ローカルと一緒に買い物@道の駅

久万高原町にある道の駅さんさんの宮崎氏にご協力いただき、道の駅で扱っている商品の紹介及びバックヤードエリアの案内をしていただいた。実施日が紅葉の季節と重なっていたこともあり、店内は混雑していて、グループで移動するには難しい場面もあった。コンテンツとして実施する際は、訪問する時間を平日のお客さんの少ない時間帯に限定したり、あらかじめ駐車場の空間を確保しておいたりする必要がある。宮崎氏による商品説明、特にお米の説明は非常に興味深いという意見があった。全国に数ある道の駅の中でなぜ久万高原町の道の駅さんさんを訪れるのかという必然性について、説得力をもって伝えられる工夫をしたい。

・【K-1】歩き遍路体験

四国霊場44番から45番までを、一部行程を車で移動しながら歩く体験。第44番札所大寶寺では、康覚氏よりお遍路の説明や装束の意味についての説明、大先達の越知カヨコ氏より参拝・納経についての説明、また歩き遍路における地理・地質的な内容や歴史については、ソラヤマいづち松本氏に説明をしていただき、物見遊山ではない、祈りや修行としての本格的なお遍路体験として実施。

10月の実地セミナーでも大寶寺における法話部分を実施し、話の進め方や英語表記など、今回に向けて磨き上げてくださった。

今回、大寶寺の階段でけがをされた参加者がいたので、転倒しやすい場所など、さらに細やかに注意喚起をする必要があると感じた。注意事項としてチラシにも記載する予定。

～前頁続き～

・【SK-1】高原の風を感じるE-bike体験

カルストテラスから姫鶴荘にかけて約10kmの距離をソラヤマいづち松本氏のガイドにより E-bikeで巡る体験。津野町所有のE-bikeを活用し、久万高原町でガイドを行っている松本氏に協力いただくことにより、2町が連携する形で実現したコンテンツである。当初はE-bikeで走りながら各ポイントで説明をする予定だったが、当日の天候不良のため、星ふるヴィレッジTENGUのロビー及びカルストテラスなどの屋内にて事前説明を行い、E-bikeで姫鶴荘まで直接向かう内容に変更した。天候が不安定な日の実施方法に関する検証ができたという一方で、中止の場合の基準をあらかじめ決めておく必要性を感じた。

・【T-3】心身を解き放つジップライン体験

津野町の自然環境の保全を目的に活用・運営されているフォレストアドベンチャー・高知にてアドベンチャー体験を実施。当初は短時間で回ることのできるキャノピーコースを予定していたが、モニター参加者の意向があり、長いアドベンチャーコースへ変更した。フォレストアドベンチャーの意義についてリベルタ側からの事前の説明が十分でなかった部分があり、評価として低い数値が表れてしまった。全国に42か所のフォレストアドベンチャーがある中で、津野町に来てもらう切り口として「四万十川の源流」を打ち出してはどうかという意見があった。

・【T-2】一緒に見て、舞って、鳴らす！ みんなで楽しむ神楽体験

河内五社神社にて、津野山古式神楽保存会の方々による練習の見学、鳴り物の参加、演目一部分の再現と舞い方の体験をさせていただいた。実際の練習に入り込んで体験をすることができ、モニター参加者は喜びを超えた感動を味わうことができたことが、数値評価としても高く表れている。課題を挙げるとすれば、コンテンツとして実施する際に、受け入れ側の負担が大きくなりかという懸念があるので、受け入れ側が持続的に実施できる範囲の内容でコンテンツとして仕上げていきたい。また宗教的な意味合いもあるため、地元の方と訪れる人の双方が気持ちよく過ごせるよう、特に海外からの参加者には事前に説明をする必要があるとの指摘もあった。

・【T-1】貝ノ川棚田保存会との交流と電動キックボード

高知県檮原町の所有する電動キックボードを活用し、津野町役場から貝ノ川棚田までを散策、地元の方が集まる集会所にて交流をしたのち、貝ノ川棚田保存会の大崎氏に貝ノ川棚田の歴史や保存会の取り組みについてお話を伺い、保存会の活動の一つであるペットボトルキャンドルホルダーの製作を行った。大寶寺と同様にこちらも10月の実地セミナーにて一度実施しており、その際の意見交換会で出された、ペットボトルの周りに和紙に絵を描いたものを貼ってはどうかという意見を取り入れ、今回は半紙に絵を描く活動が加わった。また、スマートフォンの翻訳アプリを使い、大崎氏が説明した内容を英語で読み上げる工夫もあり、モニター参加者から好意的な意見が寄せられた。一方で、海外の方の中にはペットボトルを使った活動自体に否定的な感情をもつ人もいるということから、数値評価が低く表れている。この活動が棚田の保存活動に結びついていることを正しく伝える必要があると感じた。

～前頁続き～

● 宿泊と食事について

・ふるさと旅行村

1日目に宿泊。愛媛県の別事業で開発されたヴィーガンカレーと、道の駅さんさんで購入した野菜を使用し、参加者で夕食を準備した。

・星ふるヴィレッジTENGU

2日目に宿泊。星ふるヴィレッジTENGU様と五藤光学研究所小澤氏のご厚意で天文台の見学及びプラネタリウムの観賞（通常上映プログラム・特別お祝いプラン用プログラム）をさせていただいた。

・遊山四万十 せいらの里

3日目に宿泊。美味しい夕食を用意していただいたが、その後に神楽の観賞があったため、夕食の時間が短くなってしまった。今後神楽観賞と組み合わせるコンテンツ化する際には、この点も考慮する必要がある。

・古岩屋荘のエコ弁当

2日目のお遍路体験中の昼食としていただいた。古岩屋荘とソラヤマいしづち松本氏のご協力のもと、おにぎりを竹皮で包み、仕切りや包みを紙製のものにするなど、環境に配慮した素材で準備していただいた。

・吉村虎太郎邸

3日目の昼食場所として訪問。地元野菜を使用したかき揚げうどんやそば、津野町のほうじ茶大福などをいただいた。その後、予定にはなかったが、たまたま声をかけてくださった地元ガイドの豊田氏に付近にある一本橋まで案内していただいたり、なすの出荷作業の様子を見学させていただいたりすることができた。

・いろは食堂

4日目の食事場所として訪問。ビュッフェ形式で選ぶことができたことがモニター参加者に好評であった。

● 全体評価

モニターアンケートから、総じて四国カルストエリアが魅力的であり、観光としての可能性があるという意見が多かった。それをふまえた上で、課題として挙げられていたのは以下の通り。

マンディ氏：魅力的なエリアだが、公共交通機関で行きにくいという課題がある。車を運転することができる（免許がある）人は問題がないが、北米の人は一般的に少ない。

小峰氏：「四国カルスト」という言葉と各コンテンツの結びつきが感じにくい。また「カルスト」という言葉の意味を知らない人も多いので、説明が必要。

ウイロビー氏：全体を通した課題は挙がっていないが、特にサステナビリティの観点から各項目についてコメントを記入されているので、参照いただきたい。

(2) コンテンツの最終化に向けて（林）

造成したコンテンツを欧米豪へ販売するにあたり、四国カルストエリアを象徴するコンセプトを検討し、以下の通り提案。

Shikoku Kurstory～四国カルスト地域に脈々と続く文化や自然の「今」を感じる旅～

～前頁続き～

四国カルスト版のCBT (Community Based Tourism) として、「人」に焦点を当てた体験のコンテンツ、地域の人や固有文化は魅力であり、地域の強みであることがモニターツアーを通じて検証できた。これらを踏まえつつ地域側の取り組みを考慮すると、「四国カルスト広域連携推進協議会」が開設したSNS(インスタグラム)を中心に展開するハッシュタグやキャンペーンのキャッチコピー「四国カルストストーリー」はコンテンツ造成における課題解決にもつながり、親和性が高いともいえる。

そのため、地域連携に主軸を置くとともに、本事業で造成するコンテンツを「四国カルストストーリーを紡ぐ・生み出す方法・手段」の一つに位置付け、以下の通り今後の商品展開に繋げていきたい。

- ・造成したコンテンツを「自然」「アクティビティ」「文化」「食と暮らし」のカテゴリに分類。
- ・モニターツアーでは実施できなかったが、星ふるヴィレッジTENGUでの神楽観賞のコンテンツ化についても、事業終了まで可能性を探っていき、本事業を通して計7つのコンテンツの造成をしたいと考えている。
- ・冬コンテンツとしては以下3つのコンテンツが挙げられる。

①【K-2】ローカルと一緒に買い物@道の駅

冬季や平日などお客さんの少ない時期に実施することで、宿泊や食事と組み合わせたプランを提案することができる。

②【SK-2】天文台・プラネタリウム津野山古式神楽

関係者間での調整が必要だが、冬季の宿泊客の少ない時期に特別プランとして設定できればと考えている。

③【T-3】心身を解き放つジップライン体験

全国で展開されている施設のため、独自プラン設定の自由度は低いと思われるが、北海道恵庭市では冬のプランもあるようなので、関係者間で相談させていただきながら、旅行会社による交通手配と組み合わせるなどして実現することができないか可能性を探っていきたい。

●商品完成度と販売体制(プロダクトレディ)の状況

- ・各コンテンツの状況については共有資料2_P.3を参照。
- ・これから各コンテンツの販売窓口を決定するにあたり、各コンテンツの中に交通手配や宿泊が伴う場合は旅行業のライセンスが必要。
- ・久万高原町のお遍路体験とE-bikeに関しては、交通手配が必要となるため、旅行業第2種を持っているソラヤマいしづち様に窓口となっただき、催行することが考えられる。
- ・久万高原町の道の駅でのお買い物体験については、交通手配等は必要ないので、ライセンスがなくても窓口となることできる。今後久万高原町側の関係者と打ち合わせを行い、販売窓口を決定する。
- ・津野町には観光協会がないため、奥四万十高知様、もしくは旅行業第2種以上をお持ちの高知県内の旅行会社にお問い合わせするか、弊社がまずは窓口となり、いずれ地域の旅行会社に橋渡ししていくかを選択する必要がある。
- ・まずはBtoB受注型（インバウンド旅行会社より都度、問い合わせが入る。リクエスト型、日付未定の体制）での導入から始めるのが現実的だと思われる。
- ・コンテンツとして販売する価格の目安として、3-12名のグループで催行する際、日本語対応であれば税込み6000円程度、通訳を依頼する場合は税込み11000円程度となる。

～前頁続き～

・ロードマップ会議実施に向けて、事前に久万高原町、津野町とコンテンツの販売窓口を決定するオンラインミーティングを以下の通り実施する。

久万高原町：2024年1月19日（金）10:00～ 津野町：2024年1月19日（金）13:00～

・販売窓口を決定後、価格を含めたタリフ原稿の最終化を行う。

(3) ロードマップ会議実施概要（林）

3年を設定期間とし、以下の項目について検討する予定。

【ロードマップの設定項目】

- ・販売機会(イベント・プロモーション)
- ・商品造成の最終目標
- ・ターゲット市場
- ・コアコンピタンス(強み)
- ・サステナビリティの目標
- ・造成コンテンツごとの販売目標
- ・シェアリングエコノミー目標(運用等)

4-4-5-2. 意見交換・質疑応答

【四国運輸局 観光地域振興課 課長 福島 史晃氏】

共有資料2_P1の商品カテゴリの「文化」のピクトグラムは何を表しているか。少し分かりにくい。また、ピクトグラムはオリジナルのものか。

【リベルタ林】

「合掌」を表している。分かりやすいものに変更する。画像は商用利用可能な素材を組み合わせで作成している。

【一般社団法人 奥四万十高知 営業係長 大崎 佳奈子氏】

津野町側の販売窓口候補として奥四万十高知の名前が挙がっていたが、当法人は設立されたばかりで、インバウンドの受け入れ実績がない。販売の流れについて教えてほしい。

【リベルタ 林】

津野町エリアを管轄するライセンスをお持ちの法人として候補に挙げさせていただいた。他地域の例としては、国内のお客様に対する販売は地域のライセンスを持っている事業者様に窓口となっただき、海外からのお客様に対する販売はまずは弊社が行い、地域の事業者様へつないでいく方法がある。

4-4-5-3. 総括

●愛媛県久万高原町 ふるさと創生課 観光振興班 岡 誠也氏

資料を読ませてもらい、最も大切なのは共有資料2_P3だと感じた。造成したコンテンツをどのように販売へとつなげていくかが示されていた。モニターツアーでの各コンテンツの評価については、お遍路と津野山古式神楽に好評価がつかうと予想していたので、その通りの結果だった。旅行者は訪れた先で地元の方との触れ合いを求めている。なぜその土地を訪れるのか、意味を感じられることが大切。現在久万高原町内には旅行業のライセンスを持った人がいないので、今回もソラヤマいしづちの松本氏に大変お世話になった。現地のランドオペレーターになる人材・組織の整備、地元のガイド・通訳の育成など、受け入れ体制を急いで整えていかなくてはならないと感じた。

●高知県津野町 観光推進課 大崎 陽子氏

モニターツアーで各コンテンツの検証をしていただき、成果や課題が明確になったことはよかったと思う。一方で、貝ノ川棚田や津野山古式神楽など、観光地ではなかったところに観光客を迎えるにあたって、地域の方の暮らしと観光のバランスをどのようにとっていけばよいか、考えていかなければいけないと感じる。販売については、限定された日程での実施であれば問題はないと思うが、常時受け入れとなると解決しないといけない課題があると感じる。

●四国運輸局 観光地域振興課 課長 福島 史晃氏

モニターツアー参加者の方からは、率直な意見を聞かせていただくことができたと思う。一点、今回の事業名にも「四国カルストを核とした」という文言があり、モニター参加者からも「四国カルストとどう結びつけるのか」という意見をいただいていた。地域として外部の方から質問されたときに、説明できるようにしておいて欲しいと思う。

4-5. ロードマップ会議

四国カルストにおけるサステナブルな観光コンテンツについて、地域連携による方向性の確認、ならびに今後の商品の磨き上げや販売に向けた取組み等を主軸とするロードマップ策定のための協議を行なった。

4-5-1. 実施概要

- ・ 日時：2024年2月2日（金）13:00～15:00
- ・ 場所：会場（津野町役場本庁舎）ならびにオンライン（Zoom）
- ・ 参加人数：計12名（オンライン3名含む）

4-5-2. 参加者

	区分	氏名	所属	ロードマップ会議	役職
1	久万高原町	岡 誠也	久万高原町 ふるさと創生課 観光振興班	会場	班長
2	久万高原町	矢野 豪	(一社) 久万高原町観光協会	オンライン	事務局次長
3	久万高原町	山之内 野乃花	(一社) 久万高原町観光協会	オンライン	事務局員
4	久万高原町	松本 勝	(株) ソヤマいしづち	オンライン	
5	津野町	大崎 陽子	津野町 観光推進課	会場	課長
6	津野町	久保浦 彩	津野町 観光推進課	会場	
7	津野町	向井 利夫	(一般) 奥四万十高知	会場	事務局長
8	津野町	大崎 佳奈子	(一般) 奥四万十高知	会場	営業係長
9	事業実施主体	青井 孝憲	国土交通省 四国運輸局 観光地域振興課	会場	課長補佐
10	事業実施主体	武市 琉来	国土交通省 四国運輸局 観光地域振興課	会場	係員
11	受託事業者	林 美希子	リベルタ株式会社 トラベル事業部地域開発部	会場	執行役員 兼 部長
12	受託事業者	横内 直子	リベルタ株式会社 トラベル事業部地域開発部	会場	トラベルコンサルタント

4-5-3. 次第

1. ロードマップに関する協議

- (1) ロードマップ策定と協議
- (2) 造成コンテンツの販売体制と事前ミーティング内容の共有
- (3) ロードマップの検討
- (4) ロードマップ案の共有（各自発表）と協議・調整

2. 意見交換

3. 総括

愛媛県久万高原町 ふるさと創生課 観光振興班 岡 誠也氏

高知県津野町 観光推進課 大崎 陽子氏

国土交通省 四国運輸局 観光地域振興課 青井 孝憲氏

4-5-4. 議事（要約）

ロードマップ策定に向けて、ビジョンや重点取組みの確認並びに協議を行なった。行動計画として、広域的なプロモーション、外国人旅行者を招いたモニターツアーの実施、四国カルスト基金の設立検討などが提案された。

※詳細は「3-2. 来年度以降のロードマップの作成」に記載

【次年度以降の主な取組み】

- ・コンテンツの磨き上げ
- ・外国人旅行者を招いたモニターツアーや旅行会社に向けたFAMツアーの実施
- ・共通プラットフォームの検討
- ・広域的なプロモーションに向けた連携強化を検討
- ・四国カルスト基金の設立に向けた検討を開始

4-6. 最終報告会

本事業の最終報告として、事業の成果と商品造成の進捗報告、並びに販売に向けたロードマップの作成結果とJSTS-Dへの貢献に対する提案や、事業全体に関する意見交換を行った。

4-6-1. 実施概要

- ・ 日時：2024年3月1日（金）13:00～15:00
- ・ 場所：会場（久万高原町やまなみ）ならびにオンライン（Zoom）
- ・ 参加人数：計31名（オンライン13名含む）

4-6-2. 参加者

順不同・敬称略					
	区分	氏名	所属	役職	最終報告会
1	久万高原町	岡 誠也	久万高原町 ふるさと創生課 観光振興班	班長	○
2	久万高原町	渡部 定明	久万高原町 ふるさと創生課	課長	○
3	久万高原町	矢野 豪	(一社) 久万高原町観光協会	事務局次長	○
4	久万高原町	山之内 野乃花	(一社) 久万高原町観光協会	事務局員	○
5	久万高原町	長谷 薫	(一財) 柳谷産業開発公社		○
6	久万高原町	矢野 真志	面河山岳博物館		オンライン
7	久万高原町	山本 一人	NPO法人 TE to TE (地元地域おこし団体)		○
8	久万高原町	露口 光隆	伊予銀行 久万支店	支店長	○
9	久万高原町	松本 勝	株式会社 ソラヤマいしづち		○
10	久万高原町	坂本 彩華	(株) 四国ツアーズ		○
11	津野町	大崎 陽子	津野町 観光推進課	課長	○
12	津野町	川田 明男	津野町 観光推進課	課長補佐	○
13	津野町	高橋 芙袖音	津野町 観光推進課		オンライン
14	津野町	小澤 祐二	株式会社 五藤光学研究所	津野町地域活性化企業人	○
15	津野町	大崎 正	貝川棚田保存会	会長	オンライン
16	津野町	向井 利夫	一般社団法人 奥四万十高知	事務局長	オンライン
17	津野町	谷脇 良枝	遊山四万十せいらんの里	代表	オンライン
18	津野町	大崎 健司	フォレストアドベンチャー・高知		オンライン
19	オブザーブ	柏田太郎	高知県 観光振興部 地域観光課	課長補佐	オンライン
20	オブザーブ	高橋 奨	高知県観光振興部観光政策課		オンライン
21	オブザーブ	山澤 真智子	観光庁 観光地域振興部 観光資源課 自然資源活用推進室	係長	オンライン
22	オブザーブ	竹内 里見	四国ツーリズム創造機構		オンライン
23	事業実施主体	上戸 康弘	国土交通省 四国運輸局	観光部 次長	○
24	事業実施主体	福島 史晃	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 課長	○
25	事業実施主体	青井 孝憲	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 課長補佐	○
26	事業実施主体	武市 琉来	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 係員	○
27	事業実施主体	玉谷 希歩	国土交通省 四国運輸局 愛媛運輸支局	総務・企画観光部門 係員	オンライン
28	事業実施主体	山本 圭	国土交通省 四国運輸局 高知運輸支局	総務・企画観光部門 首席運輸企画専門官	オンライン
29	受託事業者	林 美希子	リベルタ株式会社 トラベル事業部地域開発部	執行役員 兼 部長	○
30	受託事業者	石飛 千恵	リベルタ株式会社 トラベル事業部地域開発部	トラベルコンサルタント	オンライン
31	受託事業者	横内 直子	リベルタ株式会社 トラベル事業部地域開発部	トラベルコンサルタント	○

4-6-3. 次第

1. 開会挨拶

国土交通省 四国運輸局 観光部 次長 上戸康弘氏

2. 事業報告

(1) サステナブルな観光コンテンツの造成と事業KPIについて (リベルタ 石飛・林)

(2) ロードマップについて (リベルタ 林)

(3) 持続可能な観光地経営の指標(JSTS-D)への貢献について (リベルタ 林)

3. 意見交換

4. 総括

愛媛県久万高原町 ふるさと創生課 観光振興班 岡 誠也氏

高知県津野町 観光推進課 大崎 陽子氏

5. 閉会挨拶

国土交通省 四国運輸局 観光部 観光地域振興課 課長 福島史晃氏

4-6-4. 共有資料

・次第

・参加者名簿

・資料 1_事業フローとKPI

・資料 2_コンテンツ造成とロードマップ策定経緯

・資料 3_ロードマップ (A3)

・資料 4_JSTS-Dへの貢献

4-6-5. 議事録

4-6-5-1. 開会挨拶

【四国運輸局 上戸氏】

観光立国推進基本計画では、地方誘客の促進や持続可能な観光の推進が重要視されている。現在、観光需要が本格的に拡大しており、特に地方では宿泊施設の需要が増加しているが、地域間での偏在傾向が見られる。地域間の競争力を高めて地方誘客を強化する必要があるが、世界的な観光への関心も高まっている中、インバウンド回復や国内需要の拡大を支えるためにも、地域が選ばれるための取り組みが重要である。本事業では、地域と連携し、地域の文化や特性を活かした観光コンテンツを造成している。来年度もこの連携を強化し、地域の魅力をより多くの人に訴求していきたい。

4-6-5-2. 事業報告

(1) サステナブルな観光コンテンツの造成と事業KPIについて【資料1、資料2】

配布資料に基づき、本事業の目的および造成したコンテンツとその他の事業成果について報告を行った。また、コンテンツ造成にあたっての観光資源の選定理由や、カテゴリ分け、最終化に向けた磨き上げや、ロードマップ策定に向けた今後の販売体制についての検討結果を報告した。

4-6-5-2. 事業報告（続き）

(2) ロードマップについて【資料3】

ロードマップ会議で自治体関係者と協議・作成したロードマップについて、資料を用いて説明を行った。本ロードマップは、本年度から2027年までの段階的な商品展開に向けた目標を示している。次年度以降の取り組みとして、造成されたコンテンツを組み合わせたモニターツアーやFAMツアーの実施によるセールス展開および情報発信に繋げる取り組みや、四国カルスト地域への経済効果をもたらすための還元システム等が提案された。なお、本ロードマップは、持続可能な観光地を目指し、JSTS-Dの指標に紐づく形で設計されている。

各コンテンツの磨き上げは引き続き、それぞれの段階に応じて継続する必要がある。補足として、以下の2つの冬のコンテンツについての方向性を提案し、各自治体担当者からのコメントを得た。

・道の駅のバックヤード体験

グリーンツーリズムに以前から取り組んでいる久万高原町の強みを活かし、収穫から販売までの一連の流れを伝えるようなコンテンツにすると地域の特色が出るのではと考えている。

⇒【久万高原町 岡氏】：このような旅行商品はまだないと思うので、日本特有の素材である道の駅を使って農家から買い手までのサイクルが体験できるのはよいと思う。

・神楽×プラネタリウム

今回は見送りとなった同コンテンツについては、実現に向けた課題が多く残るが、冬場の集客を回復させて通年雇用に繋げるようにできればと考えている。

⇒【津野町 川田氏】：会場提供をする宿泊施設と慎重に議論を進める必要があるが、協力を得ながら少しずつ試していければと思う。

(3) 持続可能な観光地経営の指標（JSTS-D）への貢献について【資料4】

配布資料に基づき、持続可能な観光地経営のコンセプトと重点的に取り組むべき項目について説明を行った。JSTS-Dのカテゴリ「社会経済」、「文化」、「環境」に応じた項目に対する現状を整理し、今後取り組むべき内容とその一連の流れを説明・提案した。

4-6-5-3. 意見交換

前項の報告を受けて、出席者の皆様からコメントをいただいた。事業者、自治体の方々からは、今回造成されたコンテンツを元に四国カルストのサステナブルな観光地経営の実現に向けた、さらなる取り組み強化に対する前向きなコメントを多数いただいた。質疑応答について以下に抜粋する。

【柳産業開発公社 長谷氏】：ロードマップで提案される基金とは、トイレの改修のためか？

【リベルタ 林】：コンテンツの売上の一部をトイレの新設や維持管理費にあてる意見が検討時に出ていた。

【久万高原町 岡氏】：まだ具体的な計画はないが、四国カルストの一番の問題は水なので、利用する訪問者にも協力してもらえるような仕組みを検討したいと考えている。

4-6-5-4. 総括

総括として、本事業対象地域の自治体ご担当者からコメントをいただいた。

【久万高原町 岡氏】：昨年度の調査事業では町の課題が明確になり、今回の事業では観光消費が拡大されるようなコンテンツが作られた。この得られた観光資産を活かして、地域の課題や発展に取り組んでいきたい。特に、販売窓口を地域で担えるか否かは、この事業の成否を決めると思う。また、四国カルスト地域での連携や、カルスト地域としての商品化の仕組みが重要であることも認識できた。

【津野町 大崎氏】：昨年度の調査事業も含めたこの2年間で、JSTS-Dに対する地域の理解が深まった。神楽の皆さんがインバウンド向けの対応方法を学べたこと等、この事業を通して得られたことが多々あった。ロードマップにはすべてが網羅されており、進むべき道が照らされたように思う。広域での取り組みを強化しつつ、地域の理解等の課題解決と合わせて引き続き進めていきたい。

4-6-5-5. 閉会挨拶

【四国運輸局 福島氏】

この事業が推進されたのは、世界的な観光需要の増加と持続可能な観光への関心の高まりを背景に、これまで以上に質の向上を重視した観光への転換が必要とされているからである。昨年度は持続可能な観光地のガイドラインを活用しアクションプランを策定したが、今年度は、豊かな自然や文化・食といった魅力ある四国カルストの観光資源を持続可能な観点から磨き上げ、販売体制の構築を行う取り組みを実施した。現地調査に始まり、モニターツアーや意識醸成セミナー等も通して、最終的にロードマップを作成することができた。造成したコンテンツにはまだ課題もあるとのことだが、このロードマップを参考に、地域の自然や文化を活用しつつ、関係者間の連携を通して経済・社会への好循環を加速させることが重要である。また、四国ツーリズム創造機構、四国運輸局では、2025年度までに、JSTS-Dロゴマークの取得数を16団体、世界の持続可能な観光地の100選に類型8地域の選出を目標としている。この事業がその機運醸成になればと考えている。最後に、本事業にご協力をいただいた皆様に改めて感謝申し上げます。

5. 本事業の成果

5-1. 定量・定性成果

5-1-1. 事業KPIに対する成果

5-1-2. その他の成果

5-1-3. 成果物

5-2. JSTS-Dへの準拠

5-1-1. JSTS-Dへの貢献度

5-1-2. 各分野への貢献度

5-3. 総括

5-1. 定量・定性成果

5-1-1. 事業KPIに対する成果

1-4-1. 事業の目標に示した本事業KPI並びに各業務の定量成果目標に対する定量・定性成果を以下に示す。事業KPIについては別途資料参照。

項目	定量目標	定量成果	定性成果
(1) 事前調査			
ニーズ調査 (欧米豪市場の旅行会社へのヒアリング)	1社以上	23件	各種関連機関の報告書や、2023年9月に実施されたATWS（海外の旅行会社との商談会）等で様々な旅行会社からのヒアリングにより、リアルなターゲット顧客のニーズを把握した。 →II. 業務内容 1-1-1を参照
現地調査（観光資源の視察、ヒアリング）	30件以上	33件以上のヒアリングを実施	コンテンツあるいはその一部となりうる観光資源、地域資源、宿泊施設、食事の提供場所について、地域事業者、自治体、地域住民、ガイドの方々等からヒアリングを行い、コンテンツ造成の検討事項を抽出した。 →II. 業務内容 1-1-2を参照
現地調査 (2泊3日想定)	2回	2回実施 ①9月25日～28日 (3泊4日) ②10月9日～12日 (3泊4日)	既存のコンテンツや、新規造成の可能性のある地域活動に実際に参加することで、ターゲット層に好まれるポイントを体感し、コンテンツ造成に反映した。 →II. 業務内容 1-1-2を参照
(2) サステナブルな観光コンテンツの造成			
コンテンツ造成数	5件以上	6件	インバウンド向けの商品展開に向けて、 四国カルスト共通1件、久万高原町2件、津野町3件のコンテンツを四国カルストブランドで最終統一化し、販売に備えた。 →II. 業務内容 2-2, 2-5を参照
うち、食に関するコンテンツ	1件以上	1件	・道の駅バックヤードツアーと食の交流体験
うち、冬季シーズンのコンテンツ	1件以上	2件	・道の駅バックヤードツアーと食の交流体験 ・ジップライン体験
モニターツアーの実施 (2泊3日想定)	1回	1回実施 11月11日～14日 (3泊4日)	サステナブルツーリズムや欧米豪市場に詳しい専門家（佐渡DMCウイロビー氏、山岳ガイド小峰氏、プロガイドバートック氏）にコンテンツ候補を体験してもらうことにより、磨き上げに必要な様々な指摘が得られた。 →II. 業務内容 2-4を参照
サステナブルな観光の意識醸成セミナーにおける講義	2講義（2名）以上	講師2名	UNWTOの飯田氏と香川大学の原氏を講師に迎え、持続可能な観光に関する世界的動向や国内先進地域の事例を学び、持続可能な観光商品造成への意識を醸成した。 →II. 業務内容 2-3を参照
サステナブルな観光の意識醸成セミナーにおけるコンテンツ体験	2コンテンツ以上	2コンテンツ (各町で1コンテンツ)	他自治体のコンテンツを地域関係者が体験することで相互理解を促進すると共に、コンテンツの磨き上げやツアー造成、商品全体のコンセプト設計に役立てた。 →II. 業務内容 2-3を参照
サステナブルな観光の意識醸成セミナー参加者数	20名以上	講義：28名 体験：16名	持続可能な観光に関する理解向上と自治体間の交流促進の機会となった。

(前頁からの続き)

項目	定量目標	定量成果	定性成果
(2) サステナブルな観光コンテンツの造成 (続き)			
専門家の招請数	3名	延べ4名	モニターツアーに参加した外国人専門家1名は意識醸成セミナーにおける体験にも参加したため、段階的な改善状況を見てもらえた。それに応じたコメントを反映することで、より適切な磨き上げが可能となった。 →II. 業務内容 2-3, 2-4を参照
サステナブルツール作成	1件	7件	地域を訪れる旅行者に向けて、コンテンツ提供者や地域関係者へのヒアリングや意見交換をもとにマナーやルールを作成した。 →別冊 添付2を参照
販売用ツール(セールスタリフ)作成	5本以上	6本	ツアー概要や行程、日時のハイライト等、欧米豪市場のセールスタリフ構成を基本としたツアータリフを、各コンテンツ(計6種類)を日本語と英語の2言語でそれぞれ作成した。 →別冊 添付1を参照
(3) 持続可能な仕組みの検討			
ロードマップの作成	1本(2町共通)	1本	販売窓口となる株式会社ソラヤマいづちおよび一般社団法人奥四万十高知との連携により、販売を柱とする2027年までの本事業対象地域共通の3か年ロードマップを策定した。 →II.業務内容の3-1参照
(4) 事業全体の運営管理			
報告会の実施	4回	5回	9月の開始時会議、10月および12月の中間報告会①、②、2月のロードマップ会議、並びに3月の最終報告会の計5回の報告会を実施した。距離的に同じ場所への集合が難しいため、関係者が参加しやすいようにオンラインとオフラインを併用し、情報の共有化と連携強化を図った。 →II. 業務内容 4-1~4-6を参照
その他、弊社提案			
JSTS-Dに関連するアセスメントレポートの更新	各2回(2町)	各2回(2町)	昨年度事業にて作成したアセスメントレポートを更新し、スコア評価・分析を行った。
JSTS-D指標における効果測定	各1回(2町)	各1回(2町)	2町全体のアセスメントレポートのスコア分析により、四国カルストにおける商品造成に向けてのJSTS-D重点指標の抽出に役立てた。

5-1-2. その他の成果

5-1-5項に示した以外の成果としては、本事業のコンテンツ造成を通して地域の強みがより明確となったこと、さらには、JSTS-Dの指標を活用したことで今後のサステナブルな観光経営に関する方向性が具体的になったことが挙げられる。JSTS-Dの指標活用に関する成果を5-2項に示す。

5-1-3. 成果物

作成した6つのコンテンツの販売ツール(コンテンツタリフ)と、観光客への注意喚起を目的としたマナー・ルールを記載したサステナブルツール(ルールブック)を本事業の成果物として別冊にまとめた。

5-2. JSTS-Dへの準拠

5-2-1. JSTS-Dへの貢献度

本事業の実施前後におけるJSTS-Dへの貢献期待値と達成値、貢献率は下表のとおりである。

(1) 指標全体への期待値と成果

JSTS-Dの4分野・全113指標に対し、本事業で関連があり貢献が期待できる指標は、最大期待値は29指標（「1-2. JSTS-Dに関する調査の活用」参照）であった。全指標に対し約25%の貢献ができると試算した。

本事業の成果は、貢献数が25指標、全体貢献率は約22.1%（25指標/113指標）であった。4分野別では、特に社会経済分野と文化分野における貢献率が30.0%以上と全体比率を上回った。

No.	区分	内容	JSTS-D指標			
			項目	指標総数	期待値	達成値
1	貢献数	最大期待値と達成値	合計	113	29	25
			A.マネジメント	41	8	4
			B.社会経済	24	8	8
			C.文化	19	6	6
			D.環境	29	7	7
2	貢献率	達成指標数/指標総数	全体比率		25.7%	22.1%
			A.マネジメント分野への貢献率		19.5%	9.8%
			B.社会経済分野への貢献率		33.3%	33.3%
			C.文化分野への貢献率		31.6%	31.6%
			D.環境分野への貢献率		24.1%	24.1%

(2) 期待値への成果（達成数・達成率）

(1) で試算した最大期待値29指標に対しての本事業の成果は、全体達成率が約86.2%(25指標/29指標)であった。特に社会経済分野と文化分野、環境分野における達成率は100%であった。

No.	区分	内容	JSTS-D指標			
			項目	指標総数	期待値	達成値
1	達成数	最大期待値と達成値	合計	113	29	25
			A.マネジメント	41	8	4
			B.社会経済	24	8	8
			C.文化	19	6	6
			D.環境	29	7	7
2	達成率	達成指標数/期待値	全体比率			86.2%
			A.マネジメント分野への貢献率			50.0%
			B.社会経済分野への貢献率			100.0%
			C.文化分野への貢献率			100.0%
			D.環境分野への貢献率			100.0%

5-2-2. 各分野への貢献度

前項で抽出した29指標の分類は下記のとおり。

【JSTS-D指標活用の4分類】

- ①最重点指標：四国カルストを核としたコンテンツ造成において核となる指標 = CBT指標
→ **B3地域事業者の支援と公正な取引 B4 コミュニティへの支援 C8観光資源の解説**
- ②重点指標：実施目標。本事業における取り組みが必要不可欠な指標
→ **1-2-1にて抽出した①以外の指標**
- ③関連指標：本事業において、状況に応じて検討・取り組みたい指標
→ **1-2-1にて抽出した①以外の指標**
- ④その他：抽出指標以外でありながら、本事業実施の結果貢献しうる指標
→ **特に該当する指標はなかった**

(1) 持続可能なマネジメント

①期待値と成果

マネジメント分野は主に自治体やDMOが担う役割であるが、コンテンツ造成における期待値の8指標に対し4指標に貢献した。官民が共に本事業に参画し、四国カルストの持続可能な観光の手法の一つとしてCBTの商品造成に着手したこと、ターゲット設定とそのターゲットに合わせた商品造成に取り組みつつ、地域がやりたいこと・取り組んできたことを採用し商品化したこと（プロダクトアウト）がマネジメント分野への貢献と言える。

41	分野の指標数
8	抽出指標数（①+②）
1/3	①関連指標
3/5	②重点指標：実施目標
0/0	③最重点指標：CBT目標

前年度調査における
取組み状況（5段階）

A.持続可能なマネジメント		久万高原町	津野町	成果	本事業における実施内容
A6	住民参加と意見聴取	① 官民、住民等の地域のステークホルダーが参画するJSTS-Dに基づいた持続可能な観光の推進を担うワーキンググループ等があり、定期的な意見交換の機会があること	1 ↑	2 ↑	● 報告会を通じた多業種連携の土台型め
A8	観光教育	① 地域コミュニティ、特に児童・生徒に対して観光に関する教育が実施されていること	1 ↑	2 ↑	● 住民・事業者向けのセミナーを実施した
A10	プロモーションと情報	③ 求めるターゲット層の誘致拡大に向けた新商品の開発に地域発意で取り組んでいること	4 ↑	4 ↑	● ターゲットに合わせたコンテンツを造成した
A11	旅行者の数と活動の管理	③ 月ごと（季節ごと）の観光客数を計測していること	5	4	本事業では未着手
		④ 繁閑差を考慮した誘客のための取組を行っていること	1 ↑	3 ↑	● 冬季を考慮したコンテンツ造成に着手した
A15	危機管理	④ 災害等の非常時に備えた事業者、住民等に対する訓練や研修を行っており、旅行者に対しても非常時における行動等について周知・啓発を行っていること	5	4	本事業では未着手
		⑤ 災害等の非常時において正確な情報を伝える表現で情報発信がなされていること	1	4	本事業では未着手
A16	感染症対策	① 事業者等に対して業種ごとに作成された新型コロナウイルス感染症予防ガイドラインに沿った対策の徹底を促すとともに、旅行者に対して感染症予防に係る周知を行っていること	5	4	モニターツアー時の日時の体調管理

※5 = 更新しながら適切に実施している、4 = ある、3 = 現在準備中である、2 = 今後準備する予定である、1 = ない/いいえ、他 = わからない

②課題と展望

A8「観光教育」に関しては、観光事業者向けセミナーを実施したことにより貢献に繋がった。一方、児童・生徒への教育には繋がっていない。今後の展望としては、地域の児童・生徒向けに持続可能な観光に関する学びの機会を作ることが「地域還元」の方法の一つである。

(2) 社会経済のサステナビリティ

①期待値と成果

社会経済分野では、期待値の8指標に対し8指標を達成した。

最重点指標の一つであるB4「コミュニティへの支援」については、津野町の津野山古式神楽保存会や貝ノ川棚田保存会における交流体験、久万高原町の大寶寺と岩屋寺を結ぶ歩き遍路体験の商品化による貢献度が高い。今後の展望は、水平展開して対象のコミュニティを拡充していくことである。

また、モニターツアーの食事提供の場面では、積極的に地域の事業者の参画を促し、多くの事業者に協力いただき地元食材や料理を積極的に取り入れ、B3「地域事業者の支援と公正な取引」への貢献に繋がった。

24	分野の指標数
8	抽出指標数 (①+②)
1/1	①関連指標
5/5	②重点指標：実施目標
2/2	③最重点指標：CBT目標

前年度調査における
取組み状況 (5段階)

B.社会経済のサステナビリティ			久万高原町	津野町	成果	本事業における実施内容
B2	ディーセント・ワークと雇用機会	① 観光関連事業者への就業を促進する取組があること	1	4	●	四国カルストCBTコンテンツの企画開発
		② 性別、年齢、季節等に左右されない、安定した雇用や公正な賃金の実現に向けた取組を行っていること	5	3 ↑	●	四国カルストCBTコンテンツの企画開発
B3	地域事業者の支援と公正な取引	① 地域の特産品やサービスの利用を促進していること	5	4 ↑	●	モニターツアー時の地産地消の促進
		② 地元の観光関連の中小企業等が、より市場に参入しやすくなるように支援していること	5	3 ↑	●	四国カルストCBTコンテンツの企画開発
B4	コミュニティへの支援	① 事業者や旅行者が住民と共に、地域社会や地域の文化・自然環境の保全に貢献できる機会があること	1 ↑	4 ↑	●	四国カルストCBTコンテンツの企画開発
B5	搾取や差別の防止	① 取組は地域住民と旅行者を含み、観光地域全体に周知されていること	1 ↑	4 ↑	●	価格設計において、体験提供の適正価格の提案・反映
B8	多様な受入環境整備	⑤ 多言語による案内の充実を推進していること	5	4 ↑	●	英語でのインフォメーションバックやタリフ作成
		⑥ 多様な宗教・生活習慣への対応を推進していること	1 ↑	2 ↑	●	食事制限への対応状況ヒアリング、特別対応

※5=更新しながら適切に実施している、4=ある、3=現在準備中である、2=今後準備する予定である、1=ない/いいえ、他=わからない

②課題と展望

B8「多様な受入環境整備」に関しては、本事業では食事制限への対応状況のヒアリングと一部対応を依頼したが、まだまだ実際の対応力には繋がっていない。特に欧米豪市場の旅行者をターゲットとする場合、食品アレルギーやポリシー、宗教上等の様々な理由から食事制限が必要な旅行者は年々増加しており、1グループに1名は食事制限が必要な旅行者が居ると言っても過言ではない。今後、益々のフードダイバーシティを強化していくことが必要である。

(3) 文化的サステナビリティ

① 期待値と成果

文化分野では、期待値6指標に対し6指標を達成した。

重点目標のC8「観光資源の解説」として、地域住民と協力して地域のストーリーとして体験内容を調整し、体験実施時の説明等を検討したことで、地域の人々の魅力が伝わる交流体験を商品化に繋げることができた。

また、C7「文化遺産における旅行者のふるまい」については、特に四国遍路の一部を商品化するにあたり、想定するターゲットは修行としての遍路体験を求める層ではないものの、修行としての遍路体験をしっかりと楽しんでもらうよう体験内容を検討し、四国遍路のルールやマナーを伝えるため既存ルールやマナーをピクトグラムを加えて整備した。

19	分野の指標数
6	抽出指標数 (①+②)
0/0	①関連指標
5/5	②重点指標：実施目標
1/1	③最重要指標：CBT目標

C.文化的サステナビリティ			前年度調査における 取組み状況 (5段階)		成果	本事業における実施内容
			久万高原町	津野町		
C3	無形文化遺産	② 地域の行事（祭り等）の保存に努めていること	4	4	●	四国カルストCBTコンテンツの企画開発
		③ 伝統文化の次世代継承を支援するための取組があること	1	4	●	津野山古式神楽のコンテンツ化 等
C7	文化遺産における旅行者のふるまい	① 旅行者に向けて、ポジティブな行動を奨励していること（マナー啓発）	1	2	●	旅行者へのマナー・ルール作成
		② 問題が生じている場合、対策を講じていること（マナー違反対策）	1	2	●	旅行者へのマナー・ルール作成
C8	観光資源の解説	① 解説が、地域のストーリーとして地域住民と協力して作成されていること	3	4	●	四国カルストCBTコンテンツの企画開発
		② 解説文は、旅行者に適した言語で伝えられていること	3	2	●	タリフの英語対応

※5=更新しながら適切に実施している、4=ある、3=現在準備中である、2=今後準備する予定である、1=ない/いいえ、他=わからない

② 課題と展望

C3「無形文化遺産」に関しては、久万高原町と津野町の両町において、ほんの一部の地域資源を取り扱ったにすぎず、まだまだ貴重な風習や取り組みがある。また、四国カルストのエリア全体を通して、西予市、内子町、髙原町にも貴重な資源が数多く存在する。

そのため、今回造成したコンテンツに続く四国カルストの文化的なCBT商品を更に充実させていくことで、地域全体の伝統文化の維持継承に繋げていくことが重要である。

(4) 環境のサステナビリティ

① 期待値と成果

環境分野では、期待値の7指標に対し7指標を達成した。

商品化したコンテンツは自然分類に属するものもあるが、体験内容は環境保全が優先テーマの内容ではなかったためCBTとして重点指標に抽出した指標は無いが、コンテンツ内容やモニターツアー中に提供される弁当容器等においては、ゴミを出さない・減らす配慮や使い捨てプラスチックの軽減に努めた。また、モニターツアー参加者向けのインフォメーションとしても、マイボトル持参を推奨した。

更に、D8「水資源の管理」に関しては、特に四国カルスト（高原エリア）の水源確保は昨年事業でも重要課題として挙げられていたことから、本事業で商品化したコンテンツの売り上げの一部の地域還元の方角性として、四国カルストの水源確保や維持管理等につながるよう、受け皿整備（仮称・四国カルスト基金）について検討議題として取り上げた。

29	分野の指標数
7	抽出指標数（①+②）
2/2	①関連指標
5/5	②重点指標：実施目標
0/0	③最重要指標：CBT目標

前年度調査における
取り組み状況（5段階）

D.環境のサステナビリティ		久万高原町	津野町	成果	本事業における実施内容
D2	自然遺産における旅行者の管理	⑤ 課題が生じている場合、対応策を講じていること（混雑対策）	4 ↑	2 ↑	● 冬季コンテンツの企画開発
D3	自然遺産における旅行者のふるまい	① 旅行者に向けて、ポジティブな行動を奨励していること（マナー啓発）	1 ↑	4 ↑	● 旅行者へのマナー・ルール作成
D5	野生生物の保護	① 野生生物の保護等に関して観察、餌付け等に関する規制があること	1 ↑	4 ↑	● 旅行者へのマナー・ルール作成
D8	水資源の管理	① 事業者が、節水に努めていること	1 ↑	1 ↑	● 四国カルスト基金と用途の提案・検討
D9	水質	② 使い捨てペットボトルの飲用水の利用から転換を促す、地域における飲料水の水質に関する旅行者向けの情報があること	1 ↑	1 ↑	● モニターツアーとファミツアーインフォメーションパックの持ち物に記載
D11	廃棄物	① 廃棄物削減や再利用、リサイクルに関する観光事業者向けの取組があること	1 ↑	1 ↑	● モニターツアー実施時に使い捨て資源を軽減
D13	環境負荷の小さい交通	① 地域内での徒歩や自転車での移動の奨励と安全確保を行っていること	1 ↑	4 ↑	● E-bikeやキックボードの活用

※5 = 更新しながら適切に実施している、4 = ある、3 = 現在準備中である、2 = 今後準備する予定である、1 = ない/いいえ、他 = わからない

② 課題と展望

環境分野に関する体験は既存コンテンツやプログラムがあるものの、JSTS-D指標で見ると取り組み課題が多いことも顕著である。指標から見えることとしては、特に環境への意識が高い欧米豪市場の旅行者向けの環境テーマのコンテンツを企画・開発する前に、まずは地域全体での脱プラスチックや節水の取り組みを強化することが重要である。

おもてなしやお接待文化の一環としての細やかな対応（持ち帰り用の包装、缶やペットボトルでの飲料の提供等）が、持続可能な観光、特に環境面ではマイナスの印象を与えてしまう可能性もあるため、地域性やお接待文化を尊重しつつ、環境にも配慮していくことの重要性を地域全体で理解し、取り組んでいくことが必要である。

5-3. 総括

本事業は、四国カルストを核としたグローバル基準でのサステナブルな観光地域経営の実現に向けた「第2ステージ」として、昨年度の調査事業においてアクションプランの一つに位置付けられたインバウンド向けのサステナブルコンテンツ造成を形にした事業である。

昨年度の調査事業では、久万高原町ではコロナ禍での国内旅行者のニーズ変化による四国カルストのオーバーツーリズムや観光マナーやルール作りなど、地域に発生した課題への対応や、地域内の消費に繋がられるようなコンテンツ造成の必要性など、今後に向けた展望が挙げられた。

一方、津野町では、閑散期の対策や、食と連動したコンテンツの造成、さらには人材育成の課題が浮き彫りになっていた。

また、2町に共通して、インバウンド向けコンテンツの充実や地域連携の重要性が挙げられていた。

これらの課題解決につながるコンテンツを造成すべく、本事業では現地調査においてコンテンツ対象となる観光資源の洗い出しや関係者へのヒアリングを丁寧に行い、地域共通のコンテンツの柱となるコンセプトについても検討した。

「四国カルストを核としたサステナブルな観光」の捉え方として、特に欧米豪市場をターゲットとするコンテンツ開発の場合には、雄大な四国カルストの景色はターゲット市場の日常風景に近いため誘客の強みになりづらい事を受け止め、ターゲットに合わせたコンセプトやコンテンツの内容を選定していくことが重要であった（マーケットインの考え方）。

一方、持続可能な観光においては、地域側の魅力や地域が伝えていきたいこと（プロダクトアウトの考え方）を尊重することも重要である。ターゲットと地域側と双方のニーズの間を意識しながら、地域らしい持続可能な観光の形としてコミュニティ・ベースド・ツーリズムの手法を用いていく方向でコンテンツ開発を進めた。

10月には外国人専門家を招請したプレモニターと観光事業者向けの持続可能な観光に関するセミナーを実施し、11月にはプレモニターに招請した外国人専門家を含む3人の専門家を招請し、モニターツアーを実施した。

モニターツアーでは、各コンテンツの最終商品化に向けての課題は見られたものの、地域として伝えたいコンセプトである「人の温かさ」や「地域固有の風習や暮らしぶり」「豊かな食材」等の魅力が十分に伝わった。

また、これらの魅力を言語的に伝えるにあたり、四国カルストエリアのブランディング展開で使われてきた「四国カルストーリー」の言葉が適切であったため、このブランディングの方向性に沿ってコンテンツの最終調整を進めることとした。

最終的には、コンテンツの出口として欧米豪市場の中でも持続可能な観光への意識が高く、かつ訪日旅行のうち日本の地方部への旅に興味関心の高い市場であるアドベンチャーツーリズム（AT）市場への展開を意識し、ATの3要素と言われる「自然」「文化」「アクティビティ」に地域の特性である「食」の要素を加えた4要素でコンテンツの体系化を図った。

久万高原町では、本格的な遍路体験のコンテンツや地域性の高い道の駅さんさんのバックヤードに入るドイツアールなど2本のコンテンツを造成。津野町では津野山古式神楽保存会や貝の川棚田保存会との交流体験や津野の森遊びのアクティビティ等3本のコンテンツを造成。また、2町連携として、ガイド人材や自転車等の観光資源を共有する形での四国カルストE-bike体験を造成し、本年度事業では6本のコンテンツを造成した。

さらに、本年度内での造成には至らなかったが、地域課題の一つでもある季節による入込客数の差を埋めるべく、冬季の誘客促進による雇用機会の創出を目指し、引き続き1本のコンテンツについて実現に向けて調整を続けることとした。

また、コンテンツ造成と並行して来訪者のマナー・ルールを整備した。作成に当たっては、四国カルストや四国遍路に関する既存のマナー・ルールを整備しつつ、地域に暮らす方々の目線に立ち、特に配慮が必要なエリアとして集落訪問時に関するマナー・ルールを新たに作成した。

これらの素材を活用し、地域で自立自走してインバウンドを受け入れていくために、各コンテンツの今後の磨き上げや販売、情報発信等に関するロードマップを策定し、2027年までの取り組み内容を関係者で共有した。

グローバル基準でのサステナブルな観光地域経営の実現に向けた第2ステージとして、本年度事業を進める中で、地域の強みが更に明確となったこと、方向性が明確となったことが本事業の大きな成果の一つである。

本事業で造成した四国カルストーリーに紐づくサステナブルなコンテンツが次年度以降に更に磨き上げられ、2町で展開した取り組みが1市4町へと広がり、より地域が強く連携し、魅力的かつサステナブルな観光地として世界的に認知される地域となることを期待する。

令和5年度 愛媛県久万高原町及び高知県津野町における
四国カルストを核としたサステナブルな観光コンテンツ造成事業

《業務実施報告書》

令和6年3月発行

国土交通省 四国運輸局

事業受託者：リベルタ株式会社 東京都板橋区赤塚5-7-25
